

第1 柔整学科 授業科目一覧表 (2026年度以降入学生)

教育内容		授業科目	授業形態	時間数	必修単位	実務経験のある教員による授業科目
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	トレーニング論	講義	30	2	
		スポーツ医学概論	講義	30	2	
		スポーツと栄養学	講義	30	2	
		健康とスポーツ	講義	30	2	
		食養生	講義	30	2	
		医療人のための英語	講義	30	2	
		心理学	講義	30	2	
専門基礎分野	人体の構造と機能	骨学	講義	15	1	
		筋学	講義	15	1	
		解剖学 I	講義	15	1	
		解剖学 II	講義	15	1	
		解剖学 III	講義	15	1	
		解剖学 IV	講義	15	1	
		解剖学 V	講義	15	1	
		体表解剖学	講義	15	1	
		生理学 I	講義	15	1	
		生理学 II	講義	15	1	
		生理学 III	講義	15	1	
		生理学 IV	講義	15	1	
		生理学 V	講義	15	1	
		スポーツ生理学	講義	15	1	
	運動学	講義	15	1		
	疾病と障害	病理学概論 I	講義	15	1	
		病理学概論 II	講義	15	1	
		一般臨床医学 I	講義	15	1	
		一般臨床医学 II	講義	15	1	
		一般臨床医学 III	講義	15	1	
		運動傷害学概論 I	講義	15	1	
運動傷害学概論 II		講義	15	1		
外科学概論 I		講義	15	1		
外科学概論 II		講義	15	1		
リハビリテーション概論 I		講義	15	1		
リハビリテーション概論 II	講義	15	1			
柔道整復術の適応 保健医療福祉と 柔道整復の理念	柔道整復術の適応	講義	30	2		
	柔道 I	実習	30	1		
	柔道 II	実習	30	1		
	柔道 III	実習	30	1		
	職業倫理	講義	15	1		
	柔道整復師法	講義	15	1		
	医事法規	講義	15	1		
	衛生学・公衆衛生学 I	講義	15	1		
	衛生学・公衆衛生学 II	講義	15	1		
	社会保障制度	講義	15	1		
専門分野	基礎柔道整復学	柔道整復学入門	講義	30	1	●
		基礎柔道整復学 I	講義	30	1	●
		基礎柔道整復学 II	講義	30	1	●
		柔道整復機能学	講義	30	1	●
		上肢柔道整復学 I	講義	30	1	●
		上肢柔道整復学 II	講義	30	1	●
		上肢柔道整復学 III	講義	30	1	●
		上肢柔道整復学 IV	講義	30	1	●
		下肢柔道整復学 I	講義	30	1	●
		下肢柔道整復学 II	講義	30	1	●
		体幹柔道整復学	講義	30	1	●
		応用柔道整復学	講義	30	1	●
		基礎柔道整復学演習 I	演習	30	1	
		基礎柔道整復学演習 II	演習	30	1	
		基礎柔道整復学演習 III	演習	30	1	
		基礎柔道整復学演習 IV	演習	30	1	
		臨床柔道整復学	物理療法学	講義	30	1
	画像鑑別学		講義	30	1	●
	診察と評価		講義	30	1	●
	基礎コミュニケーション論		講義	30	1	●
	スポーツバイオメカニクス		講義	30	1	●
	スポーツ外傷学		講義	30	1	●
	高齢者機能訓練法		講義	30	1	●
	類症鑑別法		講義	30	1	●
	運動器外傷機能訓練法		講義	30	1	●
	総合柔道整復学 I		講義	30	1	
	総合柔道整復学 II		講義	30	1	
	総合柔道整復学 III		講義	30	1	
	総合柔道整復学 IV		講義	30	1	
	総合柔道整復学 V		講義	30	1	
	総合柔道整復学 VI		講義	30	1	
	総合柔道整復学 VII		講義	30	1	
	総合柔道整復学 VIII		講義	30	1	
	総合柔道整復学 IX	講義	30	1		
	総合柔道整復学演習 I	演習	15	1		
	総合柔道整復学演習 II	演習	15	1		
	総合柔道整復学演習 III	演習	15	1		
	柔道整復実技	包帯実技	実習	30	1	●
		固定実技	実習	30	1	●
		ストレッチング実技	実習	30	1	●
		徒手検査実技 I	実習	30	1	●
		徒手検査実技 II	実習	30	1	●
		柔道整復実技 I	実習	30	1	●
		柔道整復実技 II	実習	30	1	●
		柔道整復実技 III	実習	30	1	●
		柔道整復実技 IV	実習	30	1	●
		徒手療法実技 I	実習	30	1	●
徒手療法実技 II		実習	30	1	●	
トレーニング実技		実習	30	1	●	
応急処置実技		実習	30	1	●	
スポーツテーピング実技		実習	30	1	●	
スポーツマッサージ実技		実習	30	1	●	
臨床コミュニケーション実技 I		実習	30	1	●	
臨床コミュニケーション実技 II		実習	30	1	●	
運動器機能訓練実技		実習	30	1	●	
伝承柔道整復実技		実習	30	1	●	
総合柔道整復実技 I		実習	45	1	●	
総合柔道整復実技 II	実習	45	1	●		
総合柔道整復実技 III	実習	45	1	●		
臨床実習	臨床実習 I	実習	45	1	●	
	臨床実習 II	実習	45	1	●	
	臨床実習 III	実習	45	1	●	
	臨床実習 IV	実習	45	1	●	
	合計			2760	114	47単位
指定規則外 アスレティックトレーナー 専攻併修	コーチング論 I	講義	30	1		
	コーチング論 II	講義	30	1		
	アスレティックトレーナーの役割	講義	30	1		
	スポーツ予防学 I	講義	30	1		
	スポーツ予防学 II	講義	30	1		
	スポーツ予防学実習	実習	30	1		
	コンディショニング論	講義	30	1		
	コンディショニング実習 I	実習	30	1		
	コンディショニング実習 II	実習	30	1		
	リコンディショニング論	講義	30	1		
	リコンディショニング実習 I	実習	30	1		
	リコンディショニング実習 II	実習	30	1		
	救急対応	演習	30	1		
	救急対応実習	実習	30	1		
	検査・測定と評価	演習	30	1		
	機能解剖学 I	講義	30	1		
	機能解剖学 II	講義	30	1		
	運動生理学	講義	30	1		
	スポーツバイオメカニクス	講義	30	1		
	スポーツ科学	講義	30	1		
	スポーツ医学 I	講義	30	1		
スポーツ医学 II	講義	30	1			
現場実習	実習	180	4			
合計			840	26		

授業シラバス

科目名	トレーニング論	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	前期		
		単位数	2 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義		
担当者	吉田 勲生	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	無								
DPとの関連	DP 1		DP 2		DP 3	◎	DP 4		DP 5

授業の概要

スポーツトレーニングの科学的な基礎理論を学ぶ授業です。なぜ練習をすると強くなるのか。どんな練習をすればいいのか。休養はなぜ必要なのか。これらの問いに科学的に答えられるようになることを目指します。

前半（第1～9回）はJSP0 リファレンスブックに基づき、トレーニングの基本的な考え方・理論体系と体力のトレーニング（神経・筋・エネルギー・各体力要素の鍛え方）を学びます。

後半（第10～15回）はスキルトレーニング・メンタルトレーニング・栄養・医学的知識を学び、最後に自分自身のトレーニング計画を立案する実践演習で締めくくります。

到達目標

トレーニングとは何かを正確に説明できる（体力だけでなく技術・戦術・心理・栄養・休養を含む）。

トレーニングサイクル・パフォーマンス構造論・期分けの考え方を理解し説明できる。

SMART な目標設定ができ、ニーズ分析に基づくトレーニング手段を選択できる。

学修上の助言

本授業は講義内容を理解するだけでなく、実際の身体動作やトレーニング場面と結びつけて学習することが重要である。授業内で扱う評価方法やトレーニング手法については、受動的に学ぶだけでなく、自ら考え実践する姿勢を持つことが望ましい。

成 績 評 価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
		評価配分				100				
	評価の実施方法と注意点									
	授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。									
	筆記試験ではなくレポート提出で評価します（100 点満点）。合計点が 60 点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
	【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。									

教科書・参考図書

教科書：

参考図書等：共通科目リファレンスブック：公益社団法人 日本スポーツ協会

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系Ⅰ (P131～P155)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
2	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系Ⅱ (P131～P155)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
3	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系Ⅲ (P131～P155)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
4	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系Ⅳ (P131～P155)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
5	体カトレーニングⅠ (P156～P191)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
6	体カトレーニングⅡ (P156～P191)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
7	体カトレーニングⅢ (P156～P191)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
8	体カトレーニングⅣ (P156～P191)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
9	体カトレーニングⅤ (P156～P191)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
10	スキルトレーニングⅠ (P192～P202)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
11	スキルトレーニングⅡ (P192～P202)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
12	スキルトレーニングⅢ (P192～P202)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
13	心のトレーニングⅠ (P203～P238)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
14	心のトレーニングⅡ (P203～P238)	オンデマンド	配布資料により復習を行う。
15	心のトレーニングⅢ (P203～P238)	オンデマンド	

授業シラバス

科目名	スポーツ医科学概論	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	前期
		単位数	2 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義
担当者	山根 太治	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：				
実務経験	無						
DPとの関連	DP1	DP2	DP3	◎	DP4	DP5	

授業の概要

・スポーツ現場で必要となるスポーツ医学に関する知識について学ぶ。また、各種内科・外科的障害の予防・対策、救急処置・コンディショニングの手法など現場で活用できる知識を学ぶ。

到達目標

- ・代表的なスポーツ外傷・障害およびスポーツ活動と関連する代表的な内科疾患等に関する疫学、病態、発生機転、予防、一般的治療プロセスについて説明できる。
- ・スポーツ現場で起こりうる留意すべき重篤な外傷や疾病についての疫学、病態、発生機転、予防、一般的治療プロセスについて説明できる。
- ・女性、スポーツによる精神障害の特徴および医学的留意事項を説明できる。
- ・コンディショニングの手法について説明できる。

学修上の助言

オンデマンド動画を繰り返し視聴し知識を定着させる。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分					100				
評価の実施方法と注意点										
期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。										
受験資格・出席について										
【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：

参考図書等：共通科目リファレンスブック（公益社団法人 日本スポーツ協会）

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	スポーツに関する医科学的知識Ⅰ (スポーツと健康・アスリートの健康管理)	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
2	スポーツに関する医科学的知識Ⅱ (アスリートの内科的障害と対策①)	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
3	スポーツに関する医科学的知識Ⅲ (アスリートの内科的障害と対策②)	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
4	スポーツに関する医科学的知識Ⅳ (女性アスリートの障害と対策)	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
5	スポーツに関する医科学的知識Ⅴ (スポーツによる精神障害と対策)	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
6	スポーツに関する医科学的知識Ⅵ (外傷障害の予防①)	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
7	スポーツに関する医科学的知識Ⅶ (外傷障害の予防②)	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
8	スポーツに関する医科学的知識Ⅷ (テーピングの手法①)	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
9	スポーツに関する医科学的知識Ⅷ (テーピングの手法②)	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
10	スポーツに関する医科学的知識Ⅸ (救急蘇生法)	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
11	スポーツに関する医科学的知識Ⅹ (外科的応急処置)	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
12	コーチング環境の特徴Ⅰ	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
13	コーチング環境の特徴Ⅱ	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
14	コーチング環境の特徴Ⅲ	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
15	コーチング環境の特徴Ⅳ	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。

授業シラバス

科目名	スポーツと栄養学	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	前期		
		単位数	2 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義		
担当者	桑原 彩 吉田 勲生	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	無								
DPとの関連	DP 1		DP 2		DP 3	◎	DP 4		DP 5

授業の概要

- ・基礎の栄養学をスポーツ現場で活用・指導できるようについて学ぶ。
- ・スポーツ現場におけるアンチ・ドーピングについて学ぶ。
- ・心臓・動脈・静脈など循環器系の構造と機能を学び、血液循環の仕組みを理解するとともに、運動時の身体変化やスポーツ現場での活用について学修する。

到達目標

- ・スポーツの現場で、実際に選手が必要な栄養をとるために何をどれくらい食べればよいかを指導できる知識と技術を身につける。
- ・心臓・動脈・静脈の基本的な構造と役割を説明できる。
- ・循環器系の知識をスポーツや健康管理に活用できる。

学修上の助言

オンデマンド動画を繰り返し視聴し知識を定着させる。

評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
評価配分				72			28		100

成績評価	評価の実施方法と注意点									
	授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。 桑原担当分、吉田担当分を合わせて 100 点（%）満点で評価します。配分は以下のとおりです。 【桑原 1～10 コマ目】 オンデマンド課題提出（28%分）及び 10 コマ目の期末レポート（42%分）で評価します。									
	【吉田 11～15 コマ目】 15 コマ目の期末レポート（30%分）で評価します。									
	受験資格・出席について 【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。									

教科書・参考図書

教科書：

参考図書等：共通科目リファレンスブック（公益社団法人 日本スポーツ協会）

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	栄養学の基礎 五大栄養素の役割と特徴	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
2	五大栄養素の役割と特徴・アセスメント	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
3	サプリメント摂取に関する注意点	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
4	基本の食事（日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド）	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
5	水分補給と熱中症	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
6	栄養・食事計画の立案Ⅰ	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
7	栄養・食事計画の立案Ⅱ（試合期）	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
8	栄養・食事計画の立案Ⅲ（女性アスリート）	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
9	アンチドーピング	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
10	まとめ スポーツと栄養	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
11	心臓の構造と血液循環、運動時の心臓のはたらき	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
12	主要な動脈の名称と走行、運動時の血流変化	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
13	主要な静脈の名称と静脈還流、疲労回復との関係	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
14	循環器系の総まとめとスポーツ現場での活用	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。
15	まとめ 循環器系の総まとめとスポーツ現場での活用	オンデマンド	授業で学んだ内容を復習する。

授業シラバス

科目名	健康とスポーツ	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	前期		
		単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義		
担当者	岩内 和也	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	無								
DPとの関連	DP1		DP2		DP3	◎	DP4		DP5

授業の概要

現代社会は、経済や科学技術の発展により生活が豊かで便利になった反面、身体を動かす機会が減少し、運動不足に陥りやすい生活環境、生活様式となっています。このような中で、子どもの体力や青少年の体力・運動能力は長期的に低下傾向にあります。また、高齢者社会が進む中、「健康寿命」（自立した生活を送れる期間）の視点が重要視されてきています。こうした社会状況の中で、健康の維持・増進、運動能力向上などに効果的で、身体活動による爽快感、達成感、ストレス発散等々、心の健康にも効果がある「スポーツ」が果たす役割はますます増していくものと思われれます。この『健康とスポーツ』では、「スポーツ」を単にアスリート（競技者）のものでなく、子どもから大人、高齢者まで、誰もが、気楽に、楽しめるものとして捉え、生活の質（QOL）を高める重要なツールであることを、いくつかの種目やトレーニングメソッドを通して体験的に学び、各自が社会の中で「生涯スポーツ」に関わっていける資質を高めていくことをねらいとします。

到達目標

- ・各種目における「技術」、「体の使い方」、「すすめ方とルール」を理解し実践できる。
- ・トレーニングメソッドに、前向きに取り組み、その方法について理解し、効果について簡単に説明できる。

学修上の助言

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分								100	
評価の実施方法と注意点										
授業時数の3分の2以上出席したものを評価対象とします。										
技能 20%、関心・態度・態度 30%、知識・理解 50%（実習カード、レポート）										
受験資格・出席について										
【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：特にありません

参考図書等：必要に応じて資料を配布します

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	①オリエンテーション ②ライフキネティックの概要	対面	ライフキネティックの概要について復習しておく
2	①ライフキネティックの実際 ②フットサル…ボールを止める、蹴る	対面	止める・蹴るのコツやイメージを再確認しておく
3	①ライフキネティックの実際 ②フットサル…パス、ドリブル（ボールを運ぶ）	対面	パスとドリブルの方法をイメージトレーニングで復習
4	①ライフキネティックの実際 ②フットサル…ルール説明、基本戦術、スモールゲーム	対面	ルール、基本戦術について再確認しておく
5	①ライフキネティックの実際 ②フットサル…基本戦術、ゲーム	対面	ルールについて復習しておく。
6	①ライフキネティックの実際 ②ドッジビー…種目の説明、フライングディスクのスローとキャッチ	対面	種目の概要について復習しておく
7	①ライフキネティックの実際 ②ドッジビー…ルール説明、ゲーム	対面	ルール、ゲームの進め方について復習しておく
8	①ライフキネティックの実際 ②ドッジビー…ゲーム	対面	ゲームの中での動き方について振り返って自己評価しておく
9	①ライフキネティックの実際 ②アルティメット…種目の説明、基本動作（スロー、キャッチ）	対面	種目の概要、特性について復習しておく
10	①ライフキネティックの実際 ②アルティメット…ルール説明、基本戦術、スモールゲーム	対面	ルール、基本戦術について再確認しておく
11	①ライフキネティックの実際 ②アルティメット…ゲーム	対面	ゲームの中での動き方について振り返って自己評価しておく
12	①ライフキネティックの実際 ②ウォーキングサッカー…種目の説明、ルール説明、基本練習	対面	種目の概要、特性について復習しておく
13	①ライフキネティックの実際 ②ウォーキングサッカー…基本戦術、スモールゲーム	対面	基本戦術について再確認し、ゲームの中での動き方について復習しておく
14	①ライフキネティックの実際 ②ウォーキングサッカー…ゲーム	対面	基本戦術について再確認し、ゲームの中での動き方について復習しておく
15	①ウォーキングサッカー…ゲーム ②まとめ	対面	本講義で学んだ全ての内容について復習しておく

授業シラバス

科目名	骨学	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	前期		
		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義		
担当者	杉本 直子	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	無								
DPとの関連	DP1	◎	DP2		DP3		DP4		DP5

授業の概要

解剖学では、医学修得に必要な不可欠な身体の構造を学びます。骨学では骨の構造に焦点を当て、骨の名前や位置関係を始め、各骨の特徴的構造についての理解を深めることを目的とします。

到達目標

解剖学の基本となる骨の知識を習得する。
全身の骨の位置、それぞれの骨で特徴的にみられる構造を説明できる。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								
評価	評価の実施方法と注意点									
	期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。									
	合計点が60点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：解剖学 改定第2版 全国柔道整復学校協会 監修

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション、解剖学概説 骨学総論 解剖学用語、骨の形状、構造について学ぶ	対面	上肢帯（肩甲骨・鎖骨）、上腕骨を予習する。解剖学用語、骨の形状、楯について学ぶ
2	骨学各論 1 上肢帯（肩甲骨・鎖骨）、上腕骨について学ぶ	対面	前腕骨（橈骨・尺骨）について予習する。上肢帯（肩甲骨・鎖骨）を復習する。
3	骨学各論 2 前腕骨（橈骨・尺骨）、手の骨について学ぶ	対面	体幹の骨（脊柱、胸郭）を予習する。前腕骨（橈骨・尺骨）、手の骨を復習する。
4	骨学各論 3 体幹の骨（脊柱・胸郭）について学ぶ	対面	下肢帯、大腿骨を予習する。体幹の骨（脊柱・胸郭）を復習する。
5	骨学各論 4 下肢帯、大腿骨について学ぶ	対面	下腿骨（脛骨・腓骨）を予習する。下肢帯、大腿骨を復習する。
6	骨学各論 5 下腿骨（脛骨・腓骨）、足の骨について学ぶ	対面	頭蓋骨（脳頭蓋、顔面頭蓋）を予習する。下腿骨（脛骨・腓骨）を復習する。
7	骨学各論 6 頭蓋骨（脳頭蓋、顔面頭蓋）について学ぶ	対面	本講義の内容を復習する。
8	まとめ（評価を含む） 本講義の内容について確認・復習をする。	対面	

授業シラバス

科目名	筋学	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	前期		
		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義		
担当者	杉本直子	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	無								
DPとの関連	DP1	◎	DP2		DP3		DP4		DP5

授業の概要

解剖学では医学修得に必要な身体の構造を学びます。筋学では筋の構造に焦点を当て、靭帯や筋の部位、筋が収縮した際の身体の動きについての理解を深めることを目的とします。

到達目標

関節を取り巻く靭帯の名称と構造を修得する。
各筋の起始（筋が始まる場所）と停止（筋が終わる場所）、作用（筋が収縮したときの動き）を学習する。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分		100							
評価	評価の実施方法と注意点									
	期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。									
	合計点が60点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：解剖学 改定第2版 全国柔道整復学校協会 監修

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション 筋学総論、身体の運動軸について学ぶ。	対面	頭頸部の筋、上肢帯の筋、上腕の筋を予習する。筋学総論、身体の運動軸を復習する。
2	筋学各論 1 頭頸部の筋・上肢帯の筋・上腕の筋	対面	前腕の筋（屈筋・伸筋）を予習する。頭頸部の筋、上肢帯の筋、上腕の筋を復習する。
3	筋学各論 2 前腕の筋（屈筋・伸筋）	対面	手の筋、胸部の筋を予習する。前腕の筋（屈筋・伸筋）を復習する。
4	筋学各論 3 手の筋・胸部の筋	対面	腹部、背部の筋を予習する。手の筋、胸部の筋を復習する。
5	筋学総論 4 腹部・背部の筋	対面	下腿の筋（外寛骨筋、内寛骨筋、大腿の筋）を予習する。腹部、背部の筋を復習する。
6	筋学総論 5 下腿の筋 1（外寛骨筋・内寛骨筋・大腿の筋）	対面	下腿の筋 1（大腿の筋、下腿の筋、足の筋）を予習する。下腿の筋 2（大腿の筋、下腿の筋、足の筋）を復習する。
7	筋学総論 下腿の筋 2（大腿の筋・下腿の筋・足の筋）	対面	本講義の内容を復習する。
8	まとめ（評価を含む） 本講義の内容について確認・復習をする。	対面	

授業シラバス

科目名	解剖学 I	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	前期		
		単位数	1 単位	時間数	15 時間	授業形態	講義		
担当者	吉元 拓也	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	無								
DPとの関連	DP 1	◎	DP 2		DP 3		DP 4		DP 5

授業の概要

解剖学は生理学とともに医学分野の基礎となる学問と考えられます。柔道整復学で学習する各部の損傷でも内臓損傷の合併が起こります。この科目では、消化器系と呼吸器系の内臓の構造・位置・機能を理解し、内臓学の知識を身につけることを目的とします

到達目標

消化器系の構造を説明できる。
呼吸器系の構造を説明できる。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分		100							
評価	評価の実施方法と注意点									
	期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。									
	合計点が 60 点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：解剖学改定第 2 版 全国柔道整復学校協会監修

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	内臓学概論、消化器系 1 内臓・消化器の概要、口腔、歯、唾液腺、舌について学ぶ	対面	咽頭、食道、胃、十二指腸、空腸、回腸を予習しておく。内臓・消化器の概要、口腔、歯、唾液腺、舌を復習する。
2	消化器系 2 咽頭、食道、胃、十二指腸について学ぶ	対面	結腸、直腸、腹膜、肝臓、胆嚢、膵臓について予習する。食道、胃、十二指腸、空腸、回腸を復習する。
3	消化器系 3 空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸について学ぶ。	対面	肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜について予習する。空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸について復習する。
4	消化器系 4 肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜について学ぶ。	対面	呼吸器系の概要、外鼻、鼻腔、副鼻腔について予習する。肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜について復習する。
5	呼吸器系 1 呼吸器系の概要、外鼻、鼻腔、副鼻腔について学ぶ	対面	喉頭、気管、気管支、肺について予習する。呼吸器系の概要、外鼻、鼻腔、副鼻腔について復習する。
6	呼吸器系 2 喉頭、気管、気管支、肺について学ぶ。	対面	肺、胸膜、縦隔について予習する。後頭、気管、気管支、肺について復習する。
7	呼吸器系 3 肺、胸膜、縦隔について学ぶ。	対面	本講義の内容を復習する。
8	まとめ（評価を含む） 本講義の内容について確認・復習する。	対面	

授業シラバス

科目名	解剖学Ⅱ	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	後期		
		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義		
担当者	吉元 拓也	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	無								
DPとの関連	DP1	◎	DP2		DP3		DP4		DP5

授業の概要

解剖学は生理学とともに医学分野の基礎となる学問と考えられます。柔道整復学で学習する各部の損傷でも内臓損傷の合併が起こります。この科目では、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の構造・位置・機能を理解し、内臓学の知識を身につけることを目的とします。

到達目標

泌尿器系の構造を説明できる。
生殖器系の構造を説明できる。
内分泌系の構造を説明できる。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								
評価	評価の実施方法と注意点									
	期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
	【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。									

教科書・参考図書

教科書：解剖学改定第2版 全国柔道整復学校協会監修
参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	泌尿器系 1 泌尿器の概要、腎臓について学ぶ。	対面	尿管、膀胱、尿道について予習する。泌尿器の概要、腎臓を復習する。
2	泌尿器系 2 尿管、膀胱、尿道について学ぶ。	対面	生殖器の概要、男性生殖器の予習をする。尿管、膀胱、尿道を復習する。
3	生殖器系 1 生殖器の概要、男性生殖器について学ぶ。	対面	女性生殖器①（卵巣、卵管、子宮）の予習をする。生殖器の概要、男性生殖器を復習する。
4	生殖器系 2 女性生殖器①（卵巣、卵管、子宮）について学ぶ。	対面	女性生殖器②（会陰、周期的変化、胎盤）を予習する。女性生殖①（卵巣、卵管、子宮）を復習する。
5	生殖器系 3 女性生殖器②（会陰、周期的変化、胎盤）について学ぶ。	対面	内分泌器の概要、下垂体、松果体、甲状腺を予習する。女性生殖器②（会陰、周期、胎盤）を復習する。
6	内分泌系 1 内分泌器の概要、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体について学ぶ。	対面	副腎、膵臓、精巣、卵巣について予習する。内分泌器の概要、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体を復習する。
7	内分泌系 2 副腎、膵臓、精巣、卵巣について学ぶ。	対面	本講義の内容を復習する。
8	まとめ（評価を含む）	対面	

授業シラバス

科目名	解剖学Ⅲ	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	後期		
		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義		
担当者	吉田 勲生	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	無								
DPとの関連	DP1	◎	DP2		DP3		DP4		DP5

授業の概要

解剖学は生理学とともに医学分野の基礎となる学問と考えられます。柔道整復学で学習する各部の損傷でも内臓損傷の合併が起こります。この科目では、心臓・循環器・脈管系の構造・位置・機能を理解し、内臓学の知識を身につけることを目的とします。

心臓の構造を説明できる。
脈管の構造を説明できる。
循環器の構造を説明できる。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								
評価の実施方法と注意点										
期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。										
受験資格・出席について										
【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会監
参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	脈管学総論、脈管系の概要、心臓の位置と形態、心臓の弁について学ぶ	対面	心臓壁の構造、刺激伝導系、心臓の脈管、心臓の神経、心膜を予習する。脈管系の概要、心臓の位置と形態、心臓の弁を復習する。
2	心臓 1 心臓壁の構造、刺激伝導系、心臓の脈管、心臓の神経、心膜について学ぶ。	対面	肺循環、体循環、頭頸部の動脈、上肢の動脈、胸部の動脈を予習する。心臓壁の構造、刺激伝導系、心臓の脈管、心臓の神経、心膜を復習する。
3	心脈管系 1 肺循環、体循環、頭頸部の動脈、上肢の動脈、胸部の動脈について学ぶ。	対面	腹部の動脈、骨盤の動脈、下肢の動脈を予習する。肺循環、体循環、頭頸部の動脈、上肢の動脈、胸部の動脈を復習する。
4	心脈管系 2 腹部の動脈、骨盤の動脈、下肢の動脈について学ぶ	対面	上大静脈、上肢の静脈、上肢の皮静脈、奇静脈系を予習する。腹部の動脈、骨盤の動脈、下肢の動脈を復習する。
5	静脈系 1 上大静脈、上肢の静脈、上肢の皮静脈、奇静脈系について学ぶ。	対面	下大静脈、門脈、骨盤部の静脈、下肢の静脈を予習する。上大静脈、上肢の静脈、上肢の皮静脈、奇静脈系を復習する。
6	静脈系 2 下大静脈、門脈、骨盤部の静脈、下肢の静脈について学ぶ。	対面	胎児循環、リンパ系を予習する。下大静脈、門脈、骨盤部の静脈、下肢の静脈を復習する。
7	胎児循環・リンパ系 胎児循環、リンパ系について学ぶ。	対面	本講義の内容を復習する。
8	まとめ（評価を含む）	対面	

授業シラバス

科目名	体表解剖学	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	前期		
		単位数	1 単位	時間数	15 時間	授業形態	講義		
担当者	棚原 勝平	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	無								
DPとの関連	DP 1	◎	DP 2		DP 3		DP 4		DP 5

授業の概要

柔道整復師として必要な臨床技術の基礎として、体表から識別できる骨格・筋肉・靭帯・神経などの位置関係を理解し、施術に活かせる知識を習得する。

到達目標

- ・ 身体各部の骨・筋・関節・神経・血管等を説明できる。
- ・ 各構造物の位置関係を説明できる。
- ・ 構造物の機能の概要を説明できる。
- ・ 体表から骨や筋、血管などの位置を説明できる。

学修上の助言

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。途中退席は欠席扱いになることがあります。課題の提出を求めることがあります。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	80%							20%	
評価の実施方法と注意点										
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。オンデマンド形式授業の際に課す課題の出来栄え点（20 点満点）と、期末試験（80 点満点）を行い、100 点満点で評価します。合計点が 60 点以上で合格となります。										
受験資格・出席について										
【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：解剖学 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修
 柔道整復学・理論編 改訂第 7 版 全国柔道整復学校協会監修
 参考図書等：触診機能解剖カラーアトラス上・下 竹井仁著、岸清監修 文光堂

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	体表区分・外皮 人体の体表区分と外皮の構造について学ぶ。	対面	運動器の概要、人体の体表区分と外皮の構造について復習する。
2	骨格系の体表解剖 1 骨格系の概要、頭頸部・体幹の骨指標について学ぶ。	対面	四肢の骨指標と生体計測について予習する。骨格系の概要、頭頸部、体幹の骨指標を復習する。
3	骨格系の体表解剖 2 と生体計測 四肢（上肢・下肢）の骨指標と生体計測（身長、体重、胸囲、腹囲、四肢長の計測）について学ぶ。	対面	頭頸部、体幹、上肢の主要筋の位置を予習する。四肢の骨指標と生体計測を復習する。
4	筋系の体表解剖 1 頭頸部、体幹、上肢の主要筋の位置について学ぶ。	対面	下肢の主要筋の位置及び主要血管の位置を予習する。頭頸部、体幹、上肢の主要筋の位置を復習する。
5	筋系の体表解剖 2 と脈管系の体表解剖 下肢の主要筋の位置及び主要血管の位置について学ぶ。	対面	主要神経と感覚器の位置を予習する。下肢の主要筋の位置と主要血管の位置を復習する。
6	神経系と感覚器の体表解剖 主要神経と感覚器の位置について学ぶ。	対面	主要神経と感覚器の位置を復習する。
7	まとめ 1	オンデマンド	本講義の内容を復習する。
8	まとめ 2（評価を含む。）	対面	

授業シラバス

科目名	生理学 I		開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	前期
			単位数	1 単位	時間数	15 時間	授業形態	講義
担当者	小野 富三人 児玉 香菜絵		連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：				
実務経験	無							
DPとの関連	DP 1	◎	DP 2		DP 3		DP 4	DP 5

授業の概要

生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問です。次年度の臨床学などで人体の病的状態を理解する上で大切です。この科目では、その生体の正常な働き、とくに動物性の機能を身につけることを目的とします。

到達目標

生理学とは何かについて説明できる
筋の機能について説明できる。
神経の機能について説明できる。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分		100							
評価	評価の実施方法と注意点									
	期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。									
	合計点が 60 点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：生理学 改訂第 4 版 全国柔道整復学校協会 監修

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション、生理学の基礎 生理学とは何かについて学ぶ	対面	生理学とは何かについて復習する
2	筋の生理 1 筋の構造、筋収縮のしくみについて学ぶ	対面	筋の構造、筋収縮のしくみについて復習する
3	筋の生理 2 筋収縮のエネルギー、骨格筋の収縮の仕方について学ぶ	対面	筋収縮のエネルギー、骨格筋の収縮の仕方について復習する
4	筋の生理 3 筋電図、心筋、平滑筋について学ぶ	対面	筋電図、心筋、平滑筋について復習する
5	神経の生理 1 神経の構造・機能、静止膜電位と活動電位について学ぶ	対面	神経の構造・機能、静止膜電位と活動電位について復習する
6	神経の生理 2 興奮の伝導、シナプス伝達について学ぶ	対面	興奮の伝導、シナプス伝達について復習する
7	神経の生理 3 脳の高次機能、内臓機能の調節について学ぶ	対面	脳の高次機能、内臓機能の調節について復習する
8	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	対面	

授業シラバス

科目名	生理学Ⅱ		開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	前期
			単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義
担当者	中城 光琴 児玉 香菜絵		連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：				
実務経験	無							
DPとの関連	DP1	◎	DP2		DP3		DP4	DP5

授業の概要

生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問です。次年度の臨床学などで人体の病的状態を理解する上で大切です。この科目では、ホルモンの分泌とその作用機序、男性生殖・女性生殖のしくみ、骨の構造と代謝について学習します。

到達目標

ホルモンの分泌とその作用機序について説明できる。
生殖機能について説明できる。
骨の生成について説明できる。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
		評価配分	100							
評価	評価の実施方法と注意点									
	期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
	【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。									

教科書・参考図書

教科書：生理学 改訂第4版 全国柔道整復学校協会 監修
参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	内分泌 1 ホルモンの一般的性質、ホルモンの分類・作用機序について学ぶ	対面	ホルモンの一般的性質、ホルモンの分類・作用機序について復習する
2	内分泌 2 視床下部・下垂体のホルモンについて学ぶ	対面	視床下部・下垂体のホルモンについて復習する
3	内分泌 3 甲状腺、副甲状腺のホルモンについて学ぶ	対面	甲状腺、副甲状腺のホルモンについて復習する
4	内分泌 4 膵臓、副腎、生殖腺のホルモンについて学ぶ	対面	膵臓、副腎、生殖腺のホルモンについて復習する
5	生殖 1 性分化、男性の生殖機能について学ぶ	対面	性分化、男性の生殖機能について復習する
6	生殖 2 女性の生殖機能について学ぶ	対面	女性の生殖機能について復習する
7	骨の生理 骨の構造、骨の成長、カルシウム代謝について学ぶ	対面	骨の構造、骨の成長、カルシウム代謝について
8	まとめ (評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	対面	

授業シラバス

科目名	生理学Ⅲ	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	後期		
		単位数	1 単位	時間数	15 時間	授業形態	講義		
担当者	大黒 恵理子 児玉 香菜絵	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	無								
DPとの関連	DP 1	◎	DP 2		DP 3		DP 4		DP 5

授業の概要

生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問です。次年度の臨床学などで人体の病的状態を理解する上で大切です。この科目では、その生体の正常な働き、とくに生命維持に必須な植物性の機能を身につけることを目的とします。

到達目標

血液の働きを説明できる。
循環機能を説明できる。
呼吸機能を説明できる。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分		100							
評価	評価の実施方法と注意点									
	期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
	【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。									

教科書・参考図書

教科書：生理学 改訂第 4 版 全国柔道整復学校協会 監修
参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	血液 血液の成分と組成、止血、免疫について学ぶ	対面	血液の成分と組成、止血、免疫について復習する
2	循環の生理 1 心臓の機能、心電図について学ぶ	対面	心臓の機能、心電図について復習する
3	循環の生理 2 心周期について学ぶ	対面	心周期について復習する
4	循環の生理 3 循環の調節・血管系・リンパ管系について学ぶ	対面	循環の調節・血管系・リンパ管系について復習する
5	呼吸の生理 1 呼吸器の機能的構造、換気について学ぶ	対面	呼吸器の機能的構造、換気について復習する
6	呼吸の生理 2 ガス交換、酸素の運搬、二酸化炭素の運搬について学ぶ	対面	ガス交換、酸素の運搬、二酸化炭素の運搬について復習する
7	呼吸の生理 3 呼吸を調節するしくみについて学ぶ	対面	呼吸を調節するしくみについて復習する
8	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	対面	

授業シラバス

科目名	生理学Ⅳ		開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	後期
			単位数	1 単位	時間数	15 時間	授業形態	講義
担当者	佐々木 真理 児玉 香菜絵		連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：				
実務経験	無							
DPとの関連	DP 1	◎	DP 2		DP 3		DP 4	DP 5

授業の概要

生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問です。次年度の臨床学などで人体の病的状態を理解する上で大切です。この科目では、その生体の正常な働き、とくに生命時に必須な植物性の機能を身につけることを目的とします。

到達目標

尿の生成と排泄について説明できる。
 栄養と代謝について説明できる。
 消化と吸収について説明できる。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								
評価	評価の実施方法と注意点									
	期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。									
	合計点が 60 点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：生理学 改訂第 4 版 全国柔道整復学校協会 監修
 参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	尿の生成と排泄 1 腎の構造と機能、糸球体でのろ過について学ぶ	対面	腎の構造と機能、糸球体でのろ過について復習する
2	尿の生成と排泄 2 尿細管での再吸収・分泌、腎血流量について学ぶ	対面	尿細管での再吸収・分泌、腎血流量について復習する
3	尿の生成と排泄 3 排尿、腎臓による体液調節について学ぶ	対面	排尿、腎臓による体液調節について復習する
4	栄養素と代謝 栄養素、エネルギー代謝について学ぶ	対面	栄養素、エネルギー代謝について復習する
5	消化と吸収 1 消化器系のはたらき、食物の消化と吸収について学ぶ	対面	消化器系のはたらき、食物の消化と吸収について学ぶ復習する
6	消化と吸収 2 肝臓と胆道系について学ぶ	対面	肝臓と胆道系について復習する
7	消化と吸収 3 栄養素の消化と吸収について学ぶ	対面	栄養素の消化と吸収について復習する
8	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	対面	

授業シラバス

科目名	柔道整復学入門	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	前期		
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義		
担当者	三澤 圭吾	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務								
DPとの関連	DP1		DP2	◎	DP3		DP4		DP5

授業の概要										
柔道整復学の中でも基礎となる科目で、柔道整復術とは何かから、骨の基礎、骨折の概説、関節・筋腱・神経の基礎及び脱臼・軟部組織損傷の概説を学習し、次学期からの柔道整復学各論を理解するための基礎知識を身につけることを目的とします。										
到達目標										
柔道整復師としての確かな判断・施術を行えるように、骨折・脱臼・軟部組織損傷に対する基礎的な内容を理解することができる。										
学修上の助言										
柔道整復師とは何かを学びます。 骨折・脱臼・軟部組織損傷の発生機序・分類・症状・合併症・予後等を学びます。 損傷に欠かせない痛みについて、骨折を含めた柔道整復師の診察の概要を学びます。 教科書を基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。										
成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								100
	評価の実施方法と注意点									
	タブレット・筆記用具・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。									
	受験資格・出席について									
	【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。									
教科書・参考図書										
教科書：柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂 参考図書等：										
授業時間外の学習について										
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。										
特記事項										

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション、柔道整復の概要、人体に加わる力、損傷時に加わる力痛みの基礎・骨の構造と機能、骨折の分類(骨折の性状・程度による分類)	対面	授業内容を復習する 骨折の分類を予習する
2	骨折の分類(骨折線の方向・創部との交通・数・外力の働いた部位による分類外力の働き方・部位による分類)	オンデマンド	授業内容を復習する 骨折の症状を予習する
3	骨折の症状(一般外傷症状・固有症状・全身症状)	オンライン	授業内容を復習する 骨折の合併症を予習する
4	骨折の合併症(併発症・続発症・後遺症)	対面	授業内容を復習する 小児・高齢者骨折の特徴を予習する
5	小児骨折・高齢者骨折の特徴	対面	授業内容を復習する 骨折の癒合日数・治癒経過を予習する
6	骨折の癒合日数・治癒経過	対面	授業内容を復習する 骨折の予後・治癒に与える因子を予習する
7	骨折の予後・治癒に与える因子	対面	授業内容を復習する 骨の連結、関節構成組織損傷を起こす力について予習する
8	関節の構造と機能・関節損傷の分類(分類・症状・合併症・治癒過程・予後)	対面	授業の内容を復習する。 脱臼の概要・分類・症状の予習をする。
9	脱臼1(概要・分類・症状)	対面	授業の内容を復習する。 脱臼の合併症・整復障害因子・予後について予習する。
10	脱臼2(合併症・整復障害因子・予後)	対面	授業の内容を復習する。 筋の構造と機能・筋損傷について予習する。
11	筋の構造と機能・筋損傷(概説・分類・症状・予後)	対面	授業の内容を復習する。 腱損傷・末梢神経損傷について予習する。
12	腱損傷・末梢神経損傷1(構造・機能・概説・分類・症状・予後)	対面	授業の内容を復習する。 末梢神経損傷の分類・症状・予後について予習する。
13	末梢神経損傷(分類・症状・予後)	対面	授業の内容を復習する。 診察について予習する。
14	診察(注意点・流れ・時期・治療計画・施術録)	対面	授業の内容を復習する。
15	まとめ(評価を含む)	対面	試験

授業シラバス

科目名	基礎柔道整復学Ⅰ	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	前期		
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義		
担当者	斎藤 雅高 奥田 香苗	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務								
DPとの関連	DP1	◎	DP2		DP3		DP4		DP5

授業の概要

骨学では骨の名前や位置関係、各骨の特徴的構造を学び体全体の構造を理解し、機能学では生体の正常な機能を学ぶことで病的状態を理解する。柔道整復学では骨折、脱臼、軟部組織損傷の概説を学修する。

到達目標

解剖学、生理学、柔道整復理論を中心とした内容を把握・理解し説明できる。
病気や外傷を理解するための基礎知識を身につける。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								
評価	評価の実施方法と注意点									
	学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
	【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。									

教科書・参考図書

教科書：解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会監修 岸清・石塚寛編 医歯薬出版株式会社
生理学 改訂第4版 全国柔道整復学校協会監修 彼末一之編集 南江堂
柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション、骨学総論、上肢の骨について学ぶ	対面	骨学総論、上肢の骨について予習・復習する
2	骨学 1 上肢の骨、体幹の骨について学ぶ	対面	上肢の骨、体幹の骨について予習・復習する
3	骨学 2 下肢の骨、頭蓋骨について学ぶ	対面	下肢の骨、頭蓋骨について
4	機能学 1 筋肉の構造、筋収縮について学ぶ	対面	筋肉の構造、筋収縮について予習・復習する
5	機能学 2 神経の構造、機能について学ぶ	対面	神経の構造、機能について予習・復習する
6	機能学 3 興奮の伝導、シナプス伝達、脳の機能について学ぶ	対面	興奮の伝導、シナプス伝達、脳の機能について予習・復習する
7	筋学 1 頭頸部、上腕の筋について学ぶ	対面	頭頸部、上腕の筋について予習・復習する
8	筋学 2 前腕、手指、背部の筋について学ぶ	対面	前腕、手指、背部の筋について予習・復習する
9	筋学 3 下肢の筋について学ぶ	対面	下肢の筋について予習・復習する
10	機能学 4 ホルモンの性質、分類、作用機序、下垂体ホルモンについて学ぶ	対面	ホルモンの性質、分類、作用機序、下垂体ホルモンについて予習・復習する
11	機能学 5 甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎のホルモンについて学ぶ	対面	甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎のホルモンについて予習・復習する
12	機能学 6 性分化、男性生殖、女性生殖、骨について学ぶ	対面	性分化、男性生殖、女性生殖、骨について予習・復習する
13	柔道整復学 1 骨折総論について学ぶ	対面	骨折総論について予習・復習する
14	柔道整復学 2 脱臼、軟部組織損傷について学ぶ	対面	脱臼、軟部組織損傷について予習・復習する
15	まとめ（評価を含む） 本講義の内容について確認・復習をする。	対面	

授業シラバス

科目名	基礎柔道整復学Ⅱ	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	後期		
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義		
担当者	斎藤 雅高	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務								
DPとの関連	DP1	◎	DP2		DP3		DP4		DP5

授業の概要

構造学では泌尿器、生殖器、循環器の構造を理解し、機能学では生体の正常な機能を学ぶことで病的状態を理解する。柔道整復学では上肢、体幹の骨折、脱臼を学修する。

到達目標

解剖学、生理学、柔道整復理論を中心とした内容を把握・理解し説明できる。
病気や外傷を理解するための基礎知識を身につける。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分		100							
評価	評価の実施方法と注意点									
	学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
	【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。									

教科書・参考図書

教科書：解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会監修 岸清・石塚寛編 医歯薬出版株式会社
生理学 改訂第4版 全国柔道整復学校協会監修 彼末一之編集 南江堂
柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション 構造学 1 泌尿器系の概要、腎臓について学ぶ	対面	泌尿器系の概要、腎臓について予習・復習する
2	構造学 2 生殖器の概要、構造について学ぶ	対面	生殖器の概要、構造について予習・復習する
3	構造学 3 内分泌系の概要、構造について学ぶ	対面	内分泌系の概要、構造について予習・復習する
4	機能学 1 血液の成分と組成、免疫について学ぶ	対面	血液の成分と組成、免疫について予習・復習する
5	機能学 2 心臓の構造、機能について学ぶ	対面	心臓の構造、機能について予習・復習する
6	機能学 3 呼吸器の構造、機能について学ぶ	対面	呼吸器の構造、機能について予習・復習する
7	脈管学 1 心臓の構造、動脈系について学ぶ	対面	心臓の構造、動脈系について予習・復習する
8	脈管学 2 静脈系、胎児循環について学ぶ	対面	静脈系、胎児循環について予習・復習する
9	機能学 4 腎臓の構造、機能について学ぶ	対面	腎臓の構造、機能について予習・復習する
10	機能学 5 栄養素、エネルギー代謝について学ぶ	対面	栄養素、エネルギー代謝について予習・復習する
11	機能学 6 消化器系の構造、機能について学ぶ	対面	消化器系の構造、機能について予習・復習する
12	機能学 7 肝臓・胆道系の構造、機能について学ぶ	対面	肝臓・胆道系の構造、機能について予習・復習する
13	柔道整復学 1 上肢の骨折、脱臼について学ぶ	対面	上肢の骨折、脱臼について予習・復習する
14	柔道整復学 2 体幹の骨折、脱臼について学ぶ	対面	体幹の骨折、脱臼について予習・復習する
15	まとめ（評価を含む） 本講義の内容について確認・復習をする。	対面	

授業シラバス

科目名	上肢柔道整復学 I	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	後期		
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義		
担当者	秋津 知宏	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務								
DPとの関連	DP 1		DP 2	◎	DP 3		DP 4		DP 5

授業の概要

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします

到達目標

上肢の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解を深める

学修上の助言

鎖骨骨折、鎖骨脱臼、肩甲骨骨折、肩関節脱臼、肩関節軟部組織損傷、上腕部の軟部組織損傷の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
		評価配分	100							
成績評価	評価の実施方法と注意点									
	学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。									
	合計点が60点以上で合格となります									
	授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。									
	途中退出は欠席扱いになることがあります。									
課題の提出を求めることがあります										
受験資格・出席について										
【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション、鎖骨骨折1 鎖骨骨折の概要・発生機序・症状について学ぶ	対面	鎖骨部の解剖を予習しておく 鎖骨骨折の概要・発生機序 症状を復習する
2	鎖骨骨折2 鎖骨骨折 整復法・固定法について学ぶ	オンデマンド	鎖骨骨折の発生機序・症状 を予習しておく 鎖骨骨折の 治療法を復習する
3	鎖骨骨折3、鎖骨脱臼1 鎖骨骨折の後療法・合併症、鎖骨脱臼の概要・分類について学ぶ	オンライン	鎖骨部の解剖を予習しておく 鎖骨骨折の治療法・合併 症、鎖骨脱臼の概要・分類 を復習する
4	鎖骨脱臼2 胸鎖関節脱臼 肩鎖関節脱臼の分類・症状・合併症について学ぶ	対面	鎖骨部の解剖を予習しておく 胸鎖関節脱臼、肩鎖関節 脱臼を復習する
5	鎖骨脱臼3、肩甲骨骨折1 肩鎖関節脱臼の治療、肩甲骨骨折の概要、体部・上角・下角骨折について学ぶ	対面	肩鎖関節・肩甲骨の解剖を 予習しておく 肩鎖関節脱 臼、肩甲骨骨折を復習する
6	肩甲骨骨折2、肩関節脱臼1 肩甲骨関節窩・頸部・肩峰・烏口突起骨折・肩関節脱臼の概要・分類について学ぶ	対面	肩関節の解剖を予習しておく 肩甲骨骨折、肩関節脱臼 の概要を復習する
7	肩関節脱臼2 前方脱臼の発生機序・症状・合併症について学ぶ	対面	肩関節前方脱臼の発生機 序・症状・合併症復習する
8	肩関節脱臼3 前方脱臼の治療法について学ぶ	対面	肩関節前方脱臼の治療法を 復習する
9	肩関節脱臼4 後方・下方・上方脱臼について学ぶ	対面	肩関節後方・下方・上方脱 臼の復習をする
10	肩関節脱臼5、 反復性肩関節脱臼について学ぶ	対面	肩関節の解剖を予習しておく 反復性肩関節脱臼、腱板 損傷を復習する
11	肩関節軟部組織損傷1 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、について学ぶ	対面	肩関節の解剖を予習しておく 腱板上腕二頭筋長頭腱損 傷を復習する
12	肩関節軟部組織損傷2 ベネット損傷・SLAP損傷について学ぶ	対面	肩関節の解剖を予習しておく ベネット損傷・SLAP損傷 を復習する
13	肩関節軟部組織損傷4 リトルリーガー肩、動揺性肩関節について学ぶ	対面	肩関節の解剖を予習しておく リトルリーガー肩、動揺 性肩関節を復習する
14	肩関節軟部組織損傷5 上腕部の軟部組織損傷 神経障害、五十肩、肩の疾患・橈骨・尺骨神経損傷について学ぶ	対面	肩関節の解剖を予習しておく 神経障害、五十肩、肩の 疾患を復習する
15	まとめ（評価を含む）	対面	本講義の内容について確認 をする

授業シラバス

科目名	上肢柔道整復学Ⅱ	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	後期		
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義		
担当者	吉田 勲生	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務								
DPとの関連	DP1		DP2	◎	DP3		DP4		DP5

授業の概要

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします

到達目標

上肢の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解を深める

学修上の助言

上腕骨近位端部骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨遠位端部骨折、肘関節脱臼、肘内障、肘関節部の軟部組織損傷の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								
成績評価	評価の実施方法と注意点									
	学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。									
	合計点が60点以上で合格となります									
	授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。									
	途中退出は欠席扱いになることがあります。									
成績評価	課題の提出を求めることがあります									
	受験資格・出席について									
成績評価	【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。									

教科書・参考図書

教科書：柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	上腕骨近位部骨折 1 上腕骨近位部骨折の概要・骨頭・解剖頸骨折・外科頸骨折の概要・発生機序について学ぶ	対面	肩関節の解剖を予習しておく 上腕骨近位部骨折の概要・骨頭・解剖頸・外科頸骨折を復習する
2	上腕骨近位部骨折 2 外科頸骨折の症状・鑑別・治療法・合併症について学ぶ	オンデマンド	肩関節の解剖を予習しておく 外科頸骨折を復習する
3	上腕骨近位部骨折 3、上腕骨骨幹部骨折 1 大結節・小結節骨折、骨端線離開、上腕骨骨幹部骨折の概要、発生機序、転位、変形について学ぶ	オンライン	肩関節の解剖を予習しておく 上腕骨近位部骨折・上腕骨骨幹部骨折を復習する
4	上腕骨骨幹部骨折 2 骨幹部骨折の治療法・合併症・予後について学ぶ	対面	上腕部の解剖を予習しておく 上腕骨骨幹部骨折を復習する
5	上腕骨遠位部骨折 1 遠位部骨折の概要、顆上骨折の概要・発生機序について学ぶ	対面	肘関節の解剖を予習しておく 顆上骨折を復習する
6	上腕骨遠位部骨折 2 顆上骨折の症状・合併症・整復・固定・について学ぶ	対面	顆上骨折の発生機序を予習しておく 顆上骨折を復習する
7	上腕骨遠位部骨折 3 顆上骨折の後療法・後遺症・予後・外顆骨折の概要・発生機序・について学ぶ	対面	肘関節の解剖を予習しておく 外顆骨折を復習する
8	上腕骨遠位部骨折 4 外顆骨折の転位・症状・治療、内側上顆骨折について学ぶ	対面	肘関節の解剖を予習しておく 外顆・内側上顆骨折を復習する
9	肘関節脱臼 1 肘関節脱臼の概要、後方脱臼の発生機序・症状について学ぶ	対面	肘関節の解剖を予習しておく 肘関節脱臼、後方脱臼を復習する
10	肘関節脱臼 2 後方脱臼の治療・予後について学ぶ	対面	肘関節の解剖を予習しておく 後方脱臼を復習する
11	肘関節脱臼 3 前方・側方・分散脱臼、橈骨頭単独脱臼について学ぶ	対面	肘関節の解剖を予習しておく 肘関節脱臼を復習する
12	肘内障、肘関節軟部組織損傷 1 側副靭帯損傷、PLRI について学ぶ	対面	肘関節の解剖を予習しておく 肘内障、側副靭帯損傷、PLRI を復習する
13	肘関節軟部組織損傷 2 野球肘について学ぶ	対面	肘関節の解剖を予習しておく 野球肘を復習する
14	肘関節軟部組織損傷 3 テニス肘、肘の疾患、パンナー病・変形性肘関節症 について学ぶ	対面	肘関節の解剖を予習しておく テニス肘、肘の疾患を復習する
15	まとめ（評価を含む）	対面	本講義の内容について確認をする

授業シラバス

科目名	体幹柔道整復学	開講年度	2026年度	配当年次	2年	開講期	後期		
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義		
担当者	三澤 圭吾	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務								
DPとの関連	DP1		DP2	◎	DP3		DP4		DP5

授業の概要

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします

到達目標

体幹の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解を深める

学修上の助言

頭部顔面骨折、脊柱の骨折・脱臼、顎関節脱臼、頭部顔面部の軟部組織損傷、脊柱の軟部組織損傷の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
		評価配分	100							
成績評価	評価の実施方法と注意点									
	学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。									
	合計点が60点以上で合格となります									
	授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。									
	途中退出は欠席扱いになることがあります。									
課題の提出を求めることがあります										
受験資格・出席について										
【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション、頭部・顔面骨折1 頭蓋冠骨折、頭蓋底骨折、鼻骨骨折について学ぶ	対面	頭部・顔面の解剖を予習しておく 頭蓋冠骨折、頭蓋底骨折、鼻骨骨折を復習する
2	頭部・顔面骨折2、顔面軟部組織損傷 上顎骨骨折、頬骨骨折、下顎骨骨折、打撲、捻挫について学ぶ	オンデマンド	頭部・顔面の解剖を予習しておく 上顎骨骨折、頬骨骨折、下顎骨骨折、打撲、捻挫を復習する
3	頭部・顔面軟部組織損傷2、顎関節脱臼1 顎関節症、顎関節脱臼の概要、前方脱臼について学ぶ	オンライン	頭部・顔面の解剖を予習しておく 顎関節症、顎関節脱臼を復習する
4	顎関節脱臼2 前方脱臼・後方脱臼・側方脱臼について学ぶ	対面	顎関節の解剖を予習しておくを復習する前方・後方・側方脱臼を復習する
5	頸椎骨折1、頸椎脱臼 上位頸椎骨折、下位頸椎骨折、頸椎脱臼について学ぶ	対面	頸椎の解剖を予習しておく 上位頸椎骨折、下位頸椎骨折、頸椎脱臼を復習する
6	頸部軟部組織損傷1 むちうち、胸郭出口症候群について学ぶ	対面	頸部の解剖を予習しておく むちうち、胸郭出口症候群を復習する。
7	頸部軟部組織損傷2、 胸郭出口症候群、寝違えについて学ぶ	対面	頸部の解剖を予習しておく 胸郭出口症候群、寝違え、を復習する
8	胸部骨折、胸椎骨折 胸椎棘突起・椎体骨折、胸骨骨折について学ぶ	対面	頸部の解剖を予習しておく 胸骨骨折、棘突起・椎体骨折を復習する
9	胸椎骨折、胸椎脱臼 胸骨骨折、棘突起・椎体骨折について学ぶ椎体骨折、脱臼骨折について学ぶ	対面	胸背部の解剖を予習しておく 胸骨・胸椎骨折・椎体骨折、脱臼骨折を復習する
10	胸部骨折1 肋骨骨折の概要、発生機序・症状について学ぶ	対面	胸部の解剖を予習しておく 肋骨骨折を復習する
11	胸部骨折2 肋骨骨折の合併症・治療・予後について学ぶ	対面	胸部の解剖を予習しておく 肋骨骨折を復習する
12	胸背部軟部組織損傷 胸部軟部組織損傷について学ぶ	対面	胸背部の解剖を予習しておく 胸部軟部組織損傷を復習する
13	腰椎骨折、腰椎脱臼 椎体・ Chance・破裂・肋骨突起腰椎脱臼について学ぶ	対面	腰部の解剖を予習しておく 椎体・Chance・破裂・肋骨突起を復習する
14	腰部軟部組織損傷 腰椎捻挫について学ぶ	対面	腰部の解剖を予習しておく 腰椎脱臼、腰椎捻挫を復習する
15	まとめ（評価を含む）	対面	本講義の内容について確認をする

授業シラバス

科目名	基礎柔道整復学演習	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	後期
	I	単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	演習
担当者	奥田 香苗	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：				
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務						
DPとの関連	DP1	DP2	◎	DP3	DP4	DP5	

授業の概要

1年前期に学修した範囲の過去の国家試験問題（解剖学、生理学、柔道整復理論）解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

到達目標

解剖学、生理学、柔道整復理論を中心とした内容を把握・理解し説明できる。
1年生前期に学修した内容の問題に対して、簡単な間違いを減らし、正答率を上げることができる。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								
評価	評価の実施方法と注意点									
	学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
	【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。									

教科書・参考図書

教科書：解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会監修 岸清・石塚寛編 医歯薬出版株式会社
生理学 改訂第4版 全国柔道整復学校協会監修 彼末一之編集 南江堂
柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	骨学 1 解剖学用語、骨の構造、上肢の骨について学ぶ	オンデマンド	解剖学用語、骨の形状、上肢の骨について復習する
2	骨学 2 下肢の骨、体幹の骨、頭蓋骨について学ぶ	オンデマンド	下肢、体幹、頭蓋の骨について復習する
3	筋学 1 筋肉の構造、運動軸、上肢の筋について学ぶ	オンデマンド	上肢の筋肉、身体の運動軸について復習する
4	筋学 2 下肢、体幹の筋肉について学ぶ	オンデマンド	下肢、体幹の筋肉について復習する
5	解剖学 1 消化器系の臓器について学ぶ	オンデマンド	消化器系について復習する
6	解剖学 2 呼吸器系の臓器について学ぶ	オンデマンド	呼吸器系について復習する
7	生理学 1 筋の生理について学ぶ	オンデマンド	筋収縮のしくみについて復習する
8	生理学 2 神経の生理について学ぶ	オンデマンド	神経の機能について復習する
9	生理学 3 内分泌について学ぶ	オンデマンド	各臓器から分泌されるホルモンについて復習する
10	生理学 4 生殖・骨の生理について学ぶ	オンデマンド	内分泌を交えて生殖機能について復習する
11	柔道整復学総論 1 骨折の分類、症状について学ぶ	オンデマンド	骨折の分類、症状について復習する
12	柔道整復学総論 2 小児・高齢者骨折について学ぶ	オンデマンド	小児・高齢者骨折について復習する
13	柔道整復学総論 1 関節の構造、脱臼総論について学ぶ	オンデマンド	関節の構造、脱臼総論について復習する
14	柔道整復学総論 2 筋・腱・神経損傷について学ぶ	オンデマンド	筋・腱・神経損傷について復習する
15	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	対面	

授業シラバス

科目名	物理療法学	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	後期		
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義		
担当者	棚原 勝平	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務・野球チームトレーナー								
DPとの関連	DP 1		DP 2		DP 3	◎	DP 4		DP 5

授業の概要

柔道整復師が行う治療法には整復法・固定法・後療法があり、さらに後療法の中には手技療法・運動療法・物理療法があります。この科目では、治療法の概要を理解した後、各種物理療法についての知識や、適応・禁忌について理解を深めます。

到達目標

治療法について説明できる。物理療法の種類について説明できる。物理療法機器の使用法について説明できる。物理療法の適応と禁忌を説明できる。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分		100							
評価	評価の実施方法と注意点									
	期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。									
	合計点が60点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂
参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション、治療法概論、 治療法の種類、骨折の整復法について学ぶ	対面	治療法の種類、骨折の整復法を復習する
2	整復法 脱臼の整復法、損傷の初期処置について学ぶ	オンデマンド	整復法を予習しておく 脱臼の整復法、損傷の初期処置を復習する
3	固定法 固定法の概要について学ぶ	オンライン	固定法を予習しておく 固定法の概要を復習する
4	電気療法 1 電気療法の分類、低周波電流療法について学ぶ	対面	物理療法の概要を予習しておく 電気療法の分類、低周波電流療法を復習する
5	電気療法 2 中周波電流療法、その他の電気療法について学ぶ	対面	電気療法を予習しておく 中周波電流療法、その他の電気療法を復習する
6	温熱療法 1 伝導熱療法(ホットパック、パラフィン浴)について学ぶ	対面	温熱療法を予習しておく 伝導熱療法を復習する
7	温熱療法 2 伝導熱療法(水治療法)、輻射熱療法について学ぶ	対面	温熱療法を予習しておく 伝導熱療法、輻射熱療法を復習する
8	温熱療法 3 変換熱療法(超短波、極超短波)について学ぶ	対面	温熱療法を予習しておく 変換熱療法を復習する
9	温熱療法 4 変換熱療法(超音波)について学ぶ	対面	温熱療法を予習しておく 変換熱療法を復習する
10	光線療法 低反応レベルレーザー療法について学ぶ	対面	光線療法を予習しておく 低反応レベルレーザー療法を復習する
11	寒冷療法 伝導冷却法、対流冷却法、気化冷却法について学ぶ	対面	寒冷療法を予習しておく 各冷却法を復習する
12	牽引療法 1 頸椎牽引について学ぶ	対面	牽引療法を予習しておく 頸椎牽引を復習する
13	牽引療法 2 腰椎牽引について学ぶ	対面	牽引療法を予習しておく 腰椎牽引を復習する
14	その他の物理療法 間欠的圧迫法などについて学ぶ	対面	各種物理療法を予習しておく 間欠的圧迫法などを復習する
15	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	対面	

授業シラバス

科目名	基礎コミュニケーション論	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	前期
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義
担当者	奥田 香苗	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：				
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務						
DPとの関連	DP1		DP2		DP3		DP4 ◎ DP5

授業の概要

本授業では、柔道整復師として現場で必要となる 患者対応力の基礎知識と医療事故を防ぐための情報共有スキルを修得し、医療人としての 姿勢・態度・倫理観を含め、人間力を育成することを目的とする。

到達目標

医療コミュニケーションの基本概念と重要性、医療接遇の基礎（挨拶・言葉遣い・患者心理への配慮）、傾聴、共感、質問の技法を理解し、適切な身だしなみや立ち振る舞いができる。また、医療現場におけるチーム連携の重要性を説明できるようになることを目標とする。

学修上の助言

用語や内容は声に出したり書き出したりして確認し、自分で説明できるレベルまで定着させてください。計画的に少しずつ覚える習慣を身につけましょう。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分		60		40					
評価の実施方法と注意点										
期末試験（筆記）とレポートの合計 60 点以上で合格とする。										
受験資格・出席について										
【講義・演習】 授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：柔道整復学総論（理論編）改訂版第7班 南江堂

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業計画	授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
------	------	--------------------

授業シラバス

1	オリエンテーション・柔整師とコミュニケーション 授業の目的と評価方法の説明、医療系のコミュニケーションの特徴を理解する。	対面	医療系のコミュニケーションの特徴を復習する。自己理解と他者理解について予習する。
2	自己理解と他者理解（エゴグラム）	対面	自己理解と他者理解について復習する。第1印象と身だしなみについて予習する。
3	非言語① 第1印象と身だしなみ メラビンの法則	対面	第1印象と身だしなみについて復習する。距離感とタッチングについて予習する。
4	非言語② 距離感とタッチング パーソナルスペース	対面	距離感とタッチングについて復習する。傾聴について予習する。
5	言語① 傾聴の技術 医療者に必要な「傾聴」3ステップ、	対面	傾聴について復習する。相づちについて予習する。
6	言語②質問の技術 相づちの種類	対面	相づちの種類について復習する。初診・問診の基本を予習する。
7	初診・問診の基本 導入～主訴の聞き取り	対面	初診・問診の基本を復習する。休刊と受容について予習する。
8	共感と受容（痛みの理解） 痛みの心理的側面	対面	共感と受容について復習する。アサーションを予習する。
9	アサーション（さわやかな自己主張） 患者への指導	対面	アサーションを復習する。医療安全について予習する。
10	医療安全と報・連・相 ヒヤリハット	対面	医療安全について復習する。特殊な状況について予習する。
11	特殊な状況への対応 高齢者、子供など	対面	特殊な状況について復習する。チーム医療と外部連携・クレーム対応について予習する。
12	チーム医療と外部連携・クレーム対応の基礎 外部連携とのコミュニケーション	対面	チーム医療と外部連携クレーム対応について復習する。施術者としての態度、守秘義務について予習する。
13	信頼される柔道整復師のコミュニケーション倫理 施術者としての態度・守秘義務について理解する。	対面	施術者としての態度、守秘義務について復習する。
14	まとめ① 評価機群の解説等	対面	
15	まとめ②（評価を含む） 本講義の内容について確認・復習する。	対面	

授業シラバス

科目名	総合柔道整復演習Ⅰ	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	時間外			
		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義			
担当者	齋藤 雅高	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務									
DPとの関連	DP1		DP2	◎	DP3		DP4		DP5	

授業の概要

過去の国家試験問題に類似した問題を解き、問題・解答に対する解説をしていきます。
柔道整復における様々な整復法、包帯法、固定法を学び、習得していきます。

到達目標

解剖学、生理学、柔道整復理論を中心とした内容を把握・理解し説明できる。
簡単な間違いを減らし、正答率を上げることができる。
骨折・脱臼・捻挫・打撲の処置ができるようになる。

学修上の助言

授業で配布された問題や国家試験の過去問を解き、間違いを直すことで理解を深めてください。
間違えた問題を繰り返し解きなおすことで、正答率を上げてください。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								
評価の実施方法と注意点										
前期終了後、後期終了後にそれぞれ実力判定模試を行う。 後期授業終了後に総合実技試験を行う。										
受験資格・出席について										
【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
生理学 改訂第4版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	解剖学 骨、筋、消化器系について学ぶ 生理学 概論、筋、神経、内分泌、生殖、骨について学ぶ	対面	骨、筋、消化器系について復習する 概論、筋、神経、内分泌、生殖、骨について復習する
2	柔道整復理論 骨折・脱臼・軟部組織損傷について学ぶ	対面	骨折・脱臼・軟部組織損傷について復習する
3	解剖学・生理学・柔道整復理論について学ぶ	対面	解剖学・生理学・柔道整復理論について復習する
4	解剖学 泌尿器系、脈管系について学ぶ 生理学 血液、循環、呼吸、尿、栄養、消化について学ぶ	対面	泌尿器系、脈管系について復習する 血液、循環、呼吸、尿、栄養、消化について復習する
5	柔道整復理論 肩・上腕・肘関節周囲の骨折・脱臼・軟部組織損傷について学ぶ	対面	肩・上腕・肘関節周囲の骨折・脱臼・軟部組織損傷について復習する
6	解剖学・生理学・柔道整復理論について学ぶ	対面	解剖学・生理学・柔道整復理論について復習する
7	整復法、包帯法、固定法について学ぶ。	対面	整復法、包帯法、固定法について復習する
8	整復法、包帯法、固定法について学ぶ。まとめ(評価含む)	対面	整復法、包帯法、固定法について復習する

授業シラバス

科目名	包帯実技	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	前期			
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	実技			
担当者	秋津 知宏	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務									
DPとの関連	DP1		DP2		DP3		DP4		DP5	◎

授業の概要

柔道整復師として施術を行うにあたり、副子固定・包帯固定が必要となる。このため包帯を巻く技術が必要とされる。この科目では、各損傷の固定法を学ぶ前に、基礎となる包帯の技術を習得することを目的とします。

到達目標

患部の処置をするときに被覆や固定を行う基礎包帯法を行うことができる。

学修上の助言

試験は自己の包帯を使用しますので必ず名前を記載してください。写真・動画撮影は禁止する。時計・アクセサリ類は外すこと。脱帽、半袖肌着(白無地)の着用、長袖インナー、寒い場合には長袖インナーを着用または上着を羽織ること。包帯紛失の場合、自己で購入してください。

長ズボン、靴の着用。スリッパ禁止、ハイヒール禁止、髪の毛の長い女性は束ねておくこと。爪を清潔に整えること。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分		50	50						
評価	評価の実施方法と注意点									
	中間試験と期末試験を行い、総合計 100 点満点で評価します。合計点が 60 点以上で合格となります。									
	ケーシーの着用(重ね着不可)、									
	受験資格・出席について									
【実技・実習】授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：包帯固定学

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習(50分程度)を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション、包帯の基礎 包帯の名称、包帯の基本的な操作について学ぶ	対面	包帯の名称や操作方法の復習をする。
2	基本包帯法 1 包帯の基本的な操作について学ぶ 隻指帯・全指帯について学ぶ	対面	隻指帯・全指帯の巻き方を予習しておく。 隻指帯・全指帯の復習をする。
3	基本包帯法 2 包帯の基本的な操作について学ぶ 指頭包か帯・総指包か帯について学ぶ	対面	指頭包か帯・総指包か帯の巻き方を予習しておく。 指頭包か帯・総指包か帯の復習をする。
4	基本包帯法 3 手関節上行・下行麦穂帯について学ぶ	対面	手の麦穂帯の巻き方を予習しておく。 手の麦穂帯の復習をする。
5	基本包帯法 4 前腕の包帯・三角巾について学ぶ	対面	折転帯の巻き方を予習しておく。 折転帯・三角巾の復習をする。
6	基本包帯法 5 肘関節集合・離開亀甲帯について学ぶ	対面	亀甲帯の巻き方を予習しておく 亀甲帯の復習をする
7	基本包帯法 6 肩関節上行・下行麦穂帯について学ぶ	対面	肩の麦穂帯の巻き方を予習しておく。 肩の麦穂帯の復習をする
8	まとめ 1 ここまでの実習内容について復習する	対面	ここまでの実習を復習しておく。 指摘された内容について見直す。
9	基本包帯法 7 鍔帯・総趾包か帯について学ぶ	対面	鍔帯・総趾包か帯の巻き方を予習しておく。 鍔帯・総趾包か帯の復習をする。
10	基本包帯法 8 足関節上行・下行麦穂帯について学ぶ	対面	足の麦穂帯の巻き方を予習しておく。 足の麦穂帯の復習をする。
11	基本包帯法 9 踵離開亀甲帯について学ぶ	対面	亀甲帯の巻き方を予習しておく 亀甲帯の復習をする。
12	基本包帯法 10 下腿の包帯について学ぶ	対面	下腿の折転帯の巻き方を予習しておく 下腿の折転帯の復習をする。
13	基本包帯法 11 膝関節集合・離開亀甲帯について学ぶ	対面	亀甲帯の巻き方を予習しておく 亀甲帯の復習する
14	まとめ 2 本実習の内容について復習する。	対面	本実習の内容を復習する
15	まとめ 3(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする。	対面	

授業シラバス

科目名	固定実技	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	後期			
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	実技			
担当者	奥田 香苗	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務									
DPとの関連	DP1		DP2		DP3		DP4		DP5	◎

授業の概要										
柔道整復師が使用する種々の固定材料の作製方法・固定方法を学び、技術を習得することを目的とする。										
到達目標										
副子の作製ができる。 副子の特性を理解し、適材適所の選択ができる。 副子を用いた固定ができる。										
学修上の助言										
実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシーを着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講すること。 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。 実技の内容により、脱衣が必要になるので、脱衣可能な衣服を用意しておくこと。 授業途中に退室すると欠席扱いとするので、やむを得ず退出するときは事前に担当教員に承諾・確認を得ること。										
成績 評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								
	評価の実施方法と注意点									
	授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となる。									
	期末試験を行い、100点満点で評価する。									
	その他授業態度などで減点する。									
	合計点が60点以上で合格とする。									
受験資格・出席について										
【実技・実習】授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。										
教科書・参考図書										
教科書：柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂 包帯固定学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂										
参考図書等：										
授業時間外の学習について										
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。										
特記事項										

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション、晒包帯作製、固定材料 晒包帯、固定材料について学ぶ	対面	固定材料について復習する
2	副子固定 1 厚紙副子・枕子を使用した固定について学ぶ	対面	軟性固定材料を予習しておく 固定法を復習する
3	副子固定 2 アルミ副子を使用した固定について学ぶ	対面	アルミ副子について予習しておく 固定法の復習をしておく
4	副子固定 3 厚紙副子・アルミ副子・呉氏副子を使用した固定について学ぶ	対面	固定材料の種類を予習しておく 固定法を復習する
5	副子固定 4 上肢のクラーメル固定について学ぶ	対面	上肢のクラーメル固定を復習しておく
6	上肢のクラーメル作製 1、8 字帯 上肢のクラーメル、8 字帯について学ぶ	対面	8 字帯を予習しておく 8 字帯を復習する
7	上肢のクラーメル作製 2 上肢のクラーメルを完成させる	対面	クラーメル副子を予習しておく
8	まとめ 1(評価を含む) ここまでの実習内容について復習する	対面	ここまでの内容を復習しておく
9	副子固定 5 上肢のクラーメル固定及び提肘について学ぶ	対面	クラーメル副子固定・三角巾操作方法を予習しておく クラーメル固定を復習する
10	冠名包帯 ヴェルポー包帯、ジュール包帯について学ぶ	対面	冠名包帯を予習しておく 冠名包帯法を復習する
11	冠名包帯 デゾー包帯について学ぶ	対面	冠名包帯を予習しておく 冠名包帯法を復習する
12	ギプスシーネ ギプスシーネ固定について学ぶ	対面	ギプスシーネを予習しておく ギプスシーネ固定法を復習する
13	熱可塑性キャスト(プライトン固定) 熱可塑性キャスト固定(プライトン固定)について学ぶ	対面	キャスト材について予習しておく キャスト材固定を復習する
14	吸水硬化性キャスト(すだれ副子固定) 吸水硬化性キャスト固定(すだれ副子固定)について学ぶ	対面	吸水性キャスト材での固定法を復習する
15	まとめ 本実習の内容について確認・復習をする	対面	基礎包帯法と硬性材料固定法を復習する

授業シラバス

科目名	ストレッチング実技	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	前期
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	実技
担当者	脇坂 謙三	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：				
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務、接骨院開業						
DPとの関連	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	◎	

授業の概要

本授業では、1年生前期科目という事でストレッチング実技を通じて主要な筋肉の名称・起始・停止・作用を体感的に習得することを主目的とします。ストレッチングの種類と用途を理解する。今回は筋肉を覚えるという観点から選択的ストレッチ（IDストレッチング）を主体に学ぶ。主に頸部・上腕部・前腕部・骨盤帯・大腿部・下腿部のスタティックストレッチ（IDストレッチング）を学習し理解を深める。

到達目標

1. 本授業で扱う筋肉の名前・起始・停止・作用を説明できる。
2. 各筋肉に対して安全かつ効果的なストレッチングを正しいフォームで実施できる。

学修上の助言

1. 解剖学的用語が難しいので分からない場合は必ず質問すること。
2. その時間ごとに復習を行うこと。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
		評価配分	50	30			20			
評価の実施方法と注意点										
指定筋群のストレッチを正しいフォームで実施できるか。筋名称・起始・停止を口頭で説明できるか。のテストを7コマ目と15コマ目に実施する。口頭試問20点・中間テスト30点・期末テスト50点の合計100点満点で評価し合計点60点以上で合格とする。										
受験資格・出席について										
【実技・実習】授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：

参考図書等：IDストレッチング第2版

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション/ストレッチの基礎 種類・目的・効果	対面	ストレッチの種類・目的・ 効果を簡単にまとめる。
2	上肢のストレッチ（三角筋・棘上筋・棘下筋・上腕三頭筋） 筋肉の起始・停止・作用を理解し正しいフォームでストレッチを行う	対面	本日習った筋肉のストレッチを安全に行えるようにする。
3	上肢のストレッチ（上腕二頭筋・烏口腕筋・腕橈骨筋・長橈側手根伸筋） 筋肉の起始・停止・作用を理解し正しいフォームでストレッチを行う	対面	本日習った筋肉のストレッチを安全に行えるようにする。
4	上肢のストレッチ（短橈側手根伸筋・尺側手根伸筋・総指伸筋・橈側手根屈筋） 筋肉の起始・停止・作用を理解し正しいフォームでストレッチを行う	対面	本日習った筋肉のストレッチを安全に行えるようにする。
5	上肢・頸部のストレッチ（尺側手根屈筋・浅指屈筋・深指屈筋・僧帽筋上部） 筋肉の起始・停止・作用を理解し正しいフォームでストレッチを行う	対面	本日習った筋肉のストレッチを安全に行えるようにする。
6	頸部・背部のストレッチ（頭半棘筋・頭板状筋・肩甲挙筋・胸鎖乳突筋） 筋肉の起始・停止・作用を理解し正しいフォームでストレッチを行う	対面	本日習った筋肉のストレッチを安全に行えるようにする。
7	中間評価（2～5コマ目に行った内容のテストを行う）	対面	2～5コマ目の復習をしっかりと行う。
8	背部・胸部のストレッチ（大菱形筋・大胸筋・小胸筋） 筋肉の起始・停止・作用を理解し正しいフォームでストレッチを行う	対面	本日習った筋肉のストレッチを安全に行えるようにする。
9	骨盤部のストレッチ（腸骨筋・大腰筋・大殿筋・中殿筋） 筋肉の起始・停止・作用を理解し正しいフォームでストレッチを行う	対面	本日習った筋肉のストレッチを安全に行えるようにする。
10	骨盤部・大腿部のストレッチ（外旋筋群・縫工筋・恥骨筋・大内転筋） 筋肉の起始・停止・作用を理解し正しいフォームでストレッチを行う	対面	本日習った筋肉のストレッチを安全に行えるようにする。
11	骨盤部・大腿部のストレッチ（薄筋・大腿直筋・内側広筋・外側広筋） 筋肉の起始・停止・作用を理解し正しいフォームでストレッチを行う	対面	本日習った筋肉のストレッチを安全に行えるようにする。
12	骨盤部・大腿部・下腿部のストレッチ（半腱・半膜様筋・大腿二頭筋・腓腹筋（外側頭・内側頭）） 筋肉の起始・停止・作用を理解し正しいフォームでストレッチを行う	対面	本日習った筋肉のストレッチを安全に行えるようにする。
13	下腿部のストレッチ（ヒラメ筋・前脛骨筋・後脛骨筋・長短） 筋肉の起始・停止・作用を理解し正しいフォームでストレッチを行う	対面	本日習った筋肉のストレッチを安全に行えるようにする。
14	総合演習（自由選択） 自分が苦手な部位のストレッチの練習を行う。	対面	6コマ目～13コマ目のストレッチの中から選んで練習を行う。
15	まとめ（評価含む）	対面	6コマ目～13コマ目のストレッチの中から評価をとる。

授業シラバス

科目名	徒手検査法実技 I	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	前期			
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	実技			
担当者	神内伸晃	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務・野球チームトレーナー									
DPとの関連	DP1	○	DP2		DP3		DP4		DP5	◎

授業の概要

柔道整復師が施術を行う上では、来院された患者さんの損傷・疾患が何であるかを判断し、他に合併しているものがないかを確認する必要があります。この科目では、今後学んでいく内容を踏まえ、判断・確認のための診察・検査が行えるように、基本的な知識・技術を身につける力を習得します。

到達目標

基本的な診察・検査の内容を説明できる。
基本的な診察・検査を実施できる。

学修上の助言

実技授業の動画を毎授業で撮影するので復習時に授業資料と動画を確認してください。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分		40%	40%	0	0	20%	0	10%	0
評価	評価の実施方法と注意点									
	この授業は実技試験と口頭試問によって評価を行います。また授業課題の提出物についても評価対象となるので必ず提出するようにしてください。									
	受験資格・出席について									
	【実技・実習】授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。									

教科書・参考図書

教科書：柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂
参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業計画	授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
------	------	--------------------

授業シラバス

1	オリエンテーション、肢長 肢長の計測について学び、方法を実施説明できる。	対面	骨指標を予習しておく 肢長・周径の計測を復習する
2	周径 周径の計測について学び、方法を実施説明できる。	対面	筋の名称を予習しておく 周径の計測を復習する
3	感覚 表在感覚について学び、方法を実施説明できる。	対面	皮膚表面の部位を予習しておく 表在感覚を復習する
4	反射 1 腱反射について学び、方法を実施説明できる。	対面	腱の部位を予習しておく 腱反射を復習する
5	反射 2 病的反射について学び、方法を実施説明できる。	対面	四肢末端の部位を予習しておく 病的反射を復習する
6	反射 3 表在反射・自律神経反射について学び、方法を実施説明できる。	対面	各部の名称を予習しておく 表在反射・自律神経反射を復習する
7	徒手筋力検査 1 上肢の筋力検査について学び、方法を実施説明できる。	対面	上肢の筋を予習しておく 上肢の筋力検査を復習する
8	徒手筋力検査 2 下肢の筋力検査について学び、方法を実施説明できる。	対面	下肢の筋を予習しておく 下肢の筋力検査を復習する
9	関節可動域 1 上肢の関節可動域について学び、方法を実施説明できる。	対面	上肢の関節を予習しておく 上肢の関節可動域を復習する
10	関節可動域 2 下肢の関節可動域について学び、方法を実施説明できる。	対面	下肢の関節を予習しておく 下肢の関節可動域を復習する
11	関節可動域 3 体幹の関節可動域について学び、方法を実施説明できる。	対面	体幹の関節を予習する 体幹の関節可動域を復習する
12	関節弛緩性 関節弛緩性検査について学び、方法を実施説明できる。	対面	各部の関節を予習しておく 関節弛緩性検査を復習する
13	バイタルサイン 脈拍・血圧などについて学び、方法を実施説明できる。	対面	バイタルを予習しておく 脈拍・血圧の検査を復習する
14	施術録 施術録の内容と診察する項目について学び、方法を実施説明できる。	対面	施術録の内容と診察する項目を復習する
15	まとめ 本実習の内容について復習する	対面	本実習内容を復習しておく

授業シラバス

科目名	柔道整復実技 I	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	後期			
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	実技			
担当者	脇坂 謙三	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務、接骨院開業									
DPとの関連	DP 1		DP 2		DP 3		DP 4		DP 5	◎

授業の概要

本科目では鎖骨骨折・肩鎖関節脱臼・上腕骨外科頸骨折・肩関節脱臼・上腕骨骨幹部骨折・上腕骨顆上骨折の施術目的・方法について学習していきます。また、各部位の整復・固定法を学習していきます。
なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

到達目標

柔道整復師として業務を行う上で必要となる上肢の損傷(骨折・脱臼・軟部組織損傷)に対し処置・施術が行えるように、考える力と対応できる能力を身につけることを目的とする。

学修上の助言

実技の授業中は肌着の上にスクラブを着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。
授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。
固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。
欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。
承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								
評価の実施方法と注意点										
期末試験を行い、100点満点で評価します。 忘れ物-2点、その他授業態度などで減点します。 合計点が60点以上で合格となります。										
受験資格・出席について										
【実技・実習】授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂
 柔道整復学・実技編 改訂第2版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂
 包帯固定学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習(50分程度)を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション、冠名包帯法、鎖骨骨折1 鎖骨骨折の固定材料、デゾー包帯、鎖骨骨折の診察・整復法について学ぶ	対面	鎖骨骨折の診察・整復を復習する
2	鎖骨骨折2 鎖骨骨折の固定法について学ぶ	対面	鎖骨骨折の固定を復習する
3	鎖骨骨折3 鎖骨骨折の整復法・固定法について学ぶ	対面	鎖骨骨折の治療を復習する
4	肩鎖関節脱臼1 肩鎖関節脱臼の固定材料、診察・整復法について学ぶ	対面	肩鎖関節脱臼の診察・整復を復習する
5	肩鎖関節脱臼2 肩鎖関節脱臼の固定法について学ぶ	対面	肩鎖関節脱臼の治療を復習する
6	上腕骨外科頸骨折 上腕骨外科頸骨折の診察・整復法・固定法について学ぶ	対面	外科頸骨折を予習しておく 外科頸骨折の治療を復習する
7	肩関節脱臼1 肩関節脱臼の固定材料・診察・整復法について学ぶ	対面	肩関節脱臼を予習しておく 肩関節脱臼の診察・整復を復習する
8	肩関節脱臼2 肩関節脱臼の固定法について学ぶ	対面	肩関節脱臼を予習しておく 肩関節脱臼の固定を復習する
9	肩関節脱臼3 肩関節脱臼の各種整復法について学ぶ	対面	肩関節脱臼を予習しておく 肩関節脱臼の治療を復習する
10	肩関節軟部組織損傷1 肩関節の徒手検査法について学ぶ	対面	肩関節の徒手検査方法を復習する
11	肩関節軟部組織損傷2 腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷に診察・検査法について学ぶ	対面	腱板損傷・長頭腱損傷の診察・検査を復習する
12	上腕骨骨幹部骨折 骨幹部骨折の診察・治療について学ぶ	対面	上腕骨骨幹部骨折の治療を復習する
13	上腕骨顆上骨折 顆上骨折の診察・整復法・固定法について学ぶ	対面	上腕骨顆上骨折を予習しておく 顆上骨折の治療を復習する
14	まとめ1 本実習の内容について復習する	対面	本実習内容を復習しておく
15	まとめ2(評価含む) 本実習の内容について確認・復習をする	対面	

授業シラバス

科目名	徒手療法実技 I	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	前期			
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	実技			
担当者	松下 寿	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務									
DPとの関連	DP 1		DP 2		DP 3		DP 4		DP 5	◎

授業の概要

本科目では柔道整復師として業務を行う上で必要となる後療法の中の手技療法（徒手療法）について実技を行い学習していきます。骨・関節・軟部組織等に対する手技を教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

到達目標

身体各部の運動器官に対して基本的な手技療法が行える能力を養う。

学修上の助言

実技の授業中は無地で白色の肌着の上にスクラブを着用し、長ズボン、スニーカーで受講してください。

1. 授業中の写真・動画撮影は禁止する、飲食は禁止します。 髭は剃ること。ネイルの禁止

実技室の鍵は、クラス委員が授業前に、1階事務所へ取りに行き、授業が始まる前に必ず解錠してください
承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。

時計・イヤリング等のアクセサリ類は外すこと。 脱帽、半袖肌着（白無地）の着用

寒い場合には上着を羽織って下さい。スクラブの下に長袖のインナーウェアの着用は不可とします。

長ズボン、靴の着用。スリッパ禁止、ハイヒール禁止、髪の毛の長い女性は束ねておくこと。爪を切ること

授業で持参して頂く物（タオル等）は連絡しますので忘れないで下さい。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								
評価の実施方法と注意点										
授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。										
2. 期末試験を行い、100点満点で評価します。 学生証携帯すること（仮学生証の発行は可）										
合計点が 60 点以上で合格となります。髪の毛の色はカラーコード7以下、スラックス、革靴、スニーカー着用 その他の注意事項に関しては授業で連絡します。期末試験の規定と内容に関しては別途連絡します。										
受験資格・出席について										
実技授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

解剖学 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。

復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

教室を退出・入室する時は必ず指導教員に連絡すること。

授業の始めに出席点呼確認を行います。座席に着座していなければ遅刻また欠席になります。

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	授業の説明と手技療法の説明、 実技：軽擦法、強擦法、揉捏法、叩打法、振戦法、 圧迫法、伸長法	対面	教科書 P103～P104
2	指部・手部の手技	対面	教科書 P103～P104 (指骨、中手骨)
3	手関節の手技	対面	(手根骨・手関節)
4	前腕と肘関節の手技	対面	(上腕骨・橈骨・尺骨)
5	肩関節部の手技	対面	(上腕骨、肩甲骨、鎖骨)
6	足部の手技	対面	(趾骨、中足骨、足根骨)
7	下腿部の手技	対面	(脛骨・腓骨)
8	膝関節の手技	対面	(大腿骨、下腿骨)
9	股関節の手技	対面	(大腿骨、寛骨臼)
10	骨盤部の手技	対面	(腸骨、坐骨、恥骨 仙骨)
11	体幹の手技	対面	(体幹)
12	その他の部位の手技	対面	上半身、下半身の部位
13	まとめ	対面	1 限目～12 限目までの復習
14	まとめ	対面	1 限目～12 限目までの復習
15	確認評価	対面	1 限目～14 限目までの確認 評価

授業シラバス

科目名	トレーニング実技	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	後期			
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義			
担当者	吉田 勲生	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務									
DPとの関連	DP 1		DP 2		DP 3		DP 4		DP 5	◎

授業の概要

本授業では、トレーニング初心者を対象に、筋力トレーニングを中心とした実技指導を行う。トレーニングルームのマシンやフリーウエイトの使用法、自重トレーニングの基本技術を習得し、安全で効果的な運動実践力を身につけることを目的とする。また、自らの体力や目的に応じたトレーニングメニューを作成・実践できる力を養う。

到達目標

1. トレーニングに関する基本的な理論（過負荷・漸進性・可逆性など）を説明できる。
2. トレーニングルームの各種器具を安全に、正しいフォームで使用できる。
3. 自重による基本的なトレーニング（腕立て伏せ、腹筋運動など）を適切に実施できる。
4. 自分の体力・目的に応じたトレーニングメニューを計画し、実行・評価できる。
5. 他者と協力しながら補助・サポートの基本を実践できる。

学修上の助言

1. 授業では「正しいフォーム」を最も重視します。姿勢や動作のクセに気づき、自分で修正する力を意識しましょう。
2. トレーニングの効果は継続により高まります。授業以外でも自主的に身体を動かすことを推奨します。
3. 器具の使用時には安全第一で行動し、無理に重い負荷を扱わないようにしてください。
4. 疑問点や不安があれば、遠慮なく教員に相談してください。

成績	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								
評価	評価の実施方法と注意点									
	期末試験を行い、100点満点で評価します。									
	合計点が60点以上で合格となります。									
	受験資格・出席について									
【実技・実習】授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：
参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	オリエンテーション・体力測定 授業の目的・内容説明／測定（握力・長座体前屈・垂直跳・シャトルラン）	対面	測定結果を記録し、自分の体力をふり返る。
2	トレーニング原則と自重トレ① トレーニング理論（可逆性・過負荷）／腕立て、腹筋、スクワットなど	対面	トレーニングの原理（過負荷など）を復習。
3	トレーニングルーム入門① マシンの使い方、ルール・マナー／チェストプレス、レッグプレスなど	対面	使用マシンと鍛える筋肉を確認する。
4	トレーニングルーム入門② 基本フォーム・姿勢の確認（ベンチ・ローイング・レッグカール）	対面	習ったマシンの正しいフォームを整理する。
5	自重トレーニング② サーキット形式：腕立て・腹筋・スクワット・バーピーなど	対面	自重トレーニングを1セットやってみる。
6	上肢の筋カトレーニング マシン・フリーウエイトでの胸・肩・腕／ダンベル・バーベル操作	対面	上半身の筋肉の名前と働きを調べる。
7	下肢の筋カトレーニング レッグプレス、スクワット、ランジ／フォームの確認	対面	スクワットのフォームを動画などで確認。
8	背部と姿勢改善 ラットプルダウン・ローイング系／腰背部の強化	対面	良い姿勢と悪い姿勢の違いを考える。
9	自由メニュー体験① 学んだ種目を組み合わせて自分流で実施（半自由形式）	対面	自分が好きな種目を3つ選んでおく。
10	トレーニングメニュー作成 各自の目標設定とメニュー作成（用紙配布・記入）	対面	トレーニングの目標を1つ立てておく。
11	自由メニュー体験② 作成したメニューを実践、講師フィードバック	対面	実施したメニューの感想を簡単に記録。
12	ペアトレーニング・補助技術 2人組での補助・声かけ／ベンチ・スクワット・バランス確認	対面	ペア補助のポイントを復習する。
13	サーキットトレーニング トレ室 or 柔道場でサーキット形式（短時間高強度）	対面	サーキット後の体調・心拍数を記録。
14	総合トレーニング 各自メニューの実践と改善／インストラクター役体験	対面	自分のベストメニューを整理する。
15	まとめ（評価を含む） 本実習の内容について確認・復習をする	対面	体力の変化と今後の運動目標を考える。

授業シラバス

科目名	スポーツマッサージ	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	後期			
	実技	単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	実技			
担当者	棚原 勝平	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務、女子プロ野球チームトレーナー									
DPとの関連	DP1	○	DP2	○	DP3		DP4	◎	DP5	◎

授業の概要

スポーツマッサージは、筋・筋膜や軟部組織に対する徒手的刺激を通じて、コンディショニングの維持・向上、疲労回復、傷害予防および競技復帰支援などを目的として実施される重要な手技である。本科目では、柔道整復師として必要となるスポーツマッサージの基礎理論と基本手技を学び、実技を通じて安全かつ効果的に施術を行う能力を養う。具体的には、施術時の基本姿勢、手指の使い方、圧の加え方、リズムや速度などの基本操作を習得したうえで、頸部、肩部、上肢、腰背部、下肢など各部位に対するスポーツマッサージを段階的に学習する。また、施術者と被施術者の双方を経験することで、適切なコミュニケーション能力や患者対応能力を身につけるとともに、スポーツ現場や臨床現場において安全かつ実践的に活用できる基礎的技術を修得することを目的とする。

到達目標

1. スポーツマッサージの目的および適応、禁忌について説明できる。
2. 施術時の基本姿勢、手指の使用法、圧の方向や強さなど、スポーツマッサージの基本操作を適切に実施できる。
3. 頸部、肩部、上肢、腰背部および下肢に対する基本的なスポーツマッサージ手技を安全かつ正確に実施できる。
4. 被施術者とのコミュニケーションを通じて、状態の確認や圧刺激の調整など、適切な患者対応を行うことができる。
5. スポーツ現場や臨床現場におけるコンディショニング、疲労回復および傷害予防を目的としたスポーツマッサージの活用方法について説明できる。

学修上の助言

スポーツマッサージの技術は、一度見ただけで身につくものではなく、繰り返し実践することで習得される。本科目では、授業中に施術者と被施術者の双方を経験し、手の使い方や圧の強さ、姿勢などを体感しながら学ぶことが重要である。また、解剖学や生理学などの基礎医学の知識と関連付けて学修することで理解が深まる。授業後には実技内容を振り返り、ペア練習やセルフケアを通じて継続的に技術の向上に努めることが望ましい。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	100								
成績評価	評価の実施方法と注意点									
	成績評価は、授業への参加状況および取り組み姿勢などの授業内評価(30%)と実技試験による基本手技の習得度(70%)を総合して評価する。実技科目であるため、欠席や遅刻は技術習得に大きく影響することから、日頃から積極的に実技練習に取り組むことが重要である。また、安全管理や衛生面への配慮、被施術者への適切な声掛けや態度についても評価の対象とする。									
	受験資格・出席について									
【実技・実習】授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：

参考図書等：小林紘二著：筋性疼痛症候の臨床観察：筋の“運動作用”及び“感覚作用”視点からの見解

授業シラバス

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

本科目は実技を中心とした授業であるため、安全管理および衛生管理の観点から、授業にはKCを着用し、規定に則した服装で参加すること。時計、指輪、ネックレス、ピアスなどのアクセサリ類の装着は禁止する。また、実習室内での飲食は衛生面および授業環境の維持のため厳禁とする。受講にあたっては、爪を短く整え、清潔な身だしなみを心掛けるとともに、受講者相互の安全と快適な実習環境の確保に努めること。

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	スポーツマッサージ総論	対面	スポーツマッサージの目的、適応と禁忌、衛生管理、施術者の基本姿勢および手指の使い方を学ぶ。
2	基本手技	対面	徒手療法の基本操作を習得する。
3	股関節・大腿部のスポーツマッサージ1	対面	大殿筋、中小殿筋、ハムストリングス、に対する基本手技を習得する。
4	股関節・大腿部のスポーツマッサージ2	対面	内転筋群、大腿四頭筋などに対する基本手技を習得する。
5	下腿部・足部のスポーツマッサージ	対面	下腿三頭筋、前脛骨筋、腓骨筋群、足底部などに対する基本手技を習得する。
6	腰背部のスポーツマッサージ1	対面	脊柱起立筋群および腰部に対する基本手技を習得する。
7	腰背部のスポーツマッサージ2	対面	肩甲間部を含めた背部全体に対する基本手技を習得する。
8	肩部および頸部のスポーツマッサージ	対面	僧帽筋、肩甲挙筋、頸部の筋群に対する基本手技を習得する。
9	上腕部および前腕部のスポーツマッサージ	対面	上腕二頭筋、上腕三頭筋、前腕屈筋群・伸筋群に対する基本手技を習得する。
10	胸部および腹部のスポーツマッサージ	対面	胸部および腹部への安全な施術方法と注意事項について学ぶ。
11	頭部および顔面部のスポーツマッサージ	対面	頭部および顔面部への安全な施術方法と注意事項について学ぶ。
12	全身スポーツマッサージ1	対面	各部位の手技を組み合わせ、全身施術の基本的な流れと施術順序を習得する。

授業シラバス

13	全身スポーツマッサージ2	対面	スポーツ現場を想定し、コンディショニングおよび疲労回復を目的とした施術を 実践する。
14	全身スポーツマッサージ3	対面	症例や競技特性を想定し、 部位別の組み合わせや施術 時間配分を考慮した実践的 施術を行う。
15	まとめ	対面	授業を復習し試験に備える

授業シラバス

科目名	スポーツ	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	後期			
	バイオメカニクス	単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義			
担当者	神内 伸晃	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務、女子プロ野球チームトレーナー									
DPとの関連	DP1	◎	DP2	◎	DP3		DP4	○	DP5	◎

授業の概要

スポーツ動作を力学的観点から分析し、効率的な動作や障害予防に必要な知識を学ぶ。運動学・運動力学の基礎から、歩行、走行、ジャンプ、投球動作などのスポーツ動作分析までを学習し、臨床やスポーツ現場で活用できる能力を養う。

到達目標

- バイオメカニクスの基本概念を説明できる。
- 力学的視点からスポーツ動作を分析できる。
- 動作分析結果を障害予防やパフォーマンス向上に応用できる。
- スポーツ現場での観察・評価能力を身につける。

学修上の助言

スポーツバイオメカニクスは、人体の運動を科学的・力学的な視点から理解する学問である。授業で学ぶ内容は、解剖学、生理学、運動学、柔道整復学などの関連科目と密接に関係しているため、これらの基礎知識を復習しながら学習することが望ましい。また、スポーツ動作や日常動作を観察する習慣を身につけ、授業で学んだ理論と実際の動きを結び付けて考察することで理解が深まる。さらに、動画分析やグループワークには積極的に参加し、動作分析能力と論理的な考察力の向上に努めること。将来的な臨床現場やスポーツ現場での評価・指導に活用できるよう、主体的な学習姿勢で取り組むことが期待される。

評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
評価配分	80%						20%		100

評価の実施方法と注意点

期末試験（80％）では、スポーツバイオメカニクスの基礎理論、人体運動の力学的原理、およびスポーツ動作分析に関する理解度を評価する。課題（20％）では、授業内容に基づくレポートや動作分析課題等を通して、知識の定着および分析・考察能力を評価する。課題は期限内に提出することを原則とし、正当な理由なく期限を過ぎた場合は減点の対象となる。授業中の演習やグループワークにも積極的に取り組み、主体的な学習姿勢を心掛けること。また、不正行為（カンニング、レポートの盗用・剽窃等）が認められた場合は、学則に基づき厳正に対処する。学習内容は積み上げ型であるため、毎回の授業内容を復習しながら学習を進めることが望ましい。

受験資格・出席について

【実技・実習】授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。

教科書・参考図書

教科書：

参考図書等：スポーツ・バイオメカニクス入門 絵で見る講義ノート 第4版/杏林書院/金子公寿

授業シラバス

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

本科目では、講義に加えて動画や映像資料を用いた動作分析を行う。授業内容の理解を深めるため、日常生活やスポーツ活動における身体運動を観察し、力学的な視点から考察する習慣を身につけることが望ましい。また、授業内でスマートフォン等を用いた動画撮影や動作分析を行う場合があるため、必要に応じて持参すること。関連科目である解剖学、生理学、運動学および柔道整復学の知識を活用しながら学習を進めること。

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	第1回 スポーツバイオメカニクス概論 <input type="checkbox"/> バイオメカニクスとは <input type="checkbox"/> スポーツ科学における役割 <input type="checkbox"/> 運動分析の基本	対面	シラバスを確認し、スポーツバイオメカニクスの役割について調べる。
2	第2回 人体の構造と運動 <input type="checkbox"/> 骨・関節・筋の役割 <input type="checkbox"/> 身体運動のメカニズム <input type="checkbox"/> テコの原理	対面	骨・関節・筋の名称と機能について復習する。
3	第3回 運動学の基礎① <input type="checkbox"/> 位置・距離・変位 <input type="checkbox"/> 速度・加速度 <input type="checkbox"/> ベクトルの考え方	対面	速度、加速度、変位などの基本用語を整理する。
4	第4回 運動学の基礎② <input type="checkbox"/> 直線運動 <input type="checkbox"/> 曲線運動 <input type="checkbox"/> 角運動	対面	日常動作やスポーツ動作における直線運動・角運動の例を調べる。
5	第5回 運動力学の基礎① <input type="checkbox"/> 力と運動の関係 <input type="checkbox"/> ニュートンの運動法則 <input type="checkbox"/> 重力と床反力	対面	ニュートンの運動法則について復習し、身近な例を考える。
6	第6回 運動力学の基礎② <input type="checkbox"/> モーメント <input type="checkbox"/> トルク <input type="checkbox"/> 重心と安定性	対面	重心や安定性についてスポーツ場面での活用例を調べる。
7	第7回 筋力発揮のメカニズム <input type="checkbox"/> 筋収縮様式 <input type="checkbox"/> パワーと仕事 <input type="checkbox"/> カー速度関係	対面	筋収縮様式（求心性・遠心性・等尺性）について復習する。
8	第8回 歩行分析 <input type="checkbox"/> 正常歩行周期 <input type="checkbox"/> 歩行時の関節運動 <input type="checkbox"/> 歩行障害の評価	対面	歩行周期と各相の特徴について整理する。
9	第9回 ランニング分析 <input type="checkbox"/> ランニングフォーム <input type="checkbox"/> 接地と推進	対面	ランニングフォームに関する動画を視聴し、特徴を観察する。

授業シラバス

	<input type="checkbox"/> ランニング障害との関連		
10	第10回 ジャンプ動作分析 <input type="checkbox"/> 垂直跳び <input type="checkbox"/> 着地動作 <input type="checkbox"/> ACL 損傷予防の視点	対面	ジャンプおよび着地動作における障害予防について調べる。
11	第11回 投球・打撃動作分析 <input type="checkbox"/> 運動連鎖（キネティックチェーン） <input type="checkbox"/> 野球投球動作 <input type="checkbox"/> 打撃動作の特徴	対面	投球や打撃動作における運動連鎖について復習する。
12	第12回 各種スポーツ動作分析 <input type="checkbox"/> サッカーキック <input type="checkbox"/> テニスサーブ <input type="checkbox"/> バレーボールスパイク <input type="checkbox"/> 競技特性の理解	対面	自身が興味を持つスポーツの動作を観察し分析する。
13	第13回 動作分析実習① <input type="checkbox"/> スマートフォン動画による分析 <input type="checkbox"/> 関節角度の測定 <input type="checkbox"/> フォーム評価	対面	動画分析結果をまとめ、改善点を考察する。
14	第14回 動作分析実習② <input type="checkbox"/> スポーツバイオメカニクスの復習 <input type="checkbox"/> 臨床応用とスポーツ現場での活用	対面	発表内容を整理し、分析結果を復習する。
15	第15回 総合評価・総括	対面	授業全体を振り返り、重要事項を総復習する。

授業シラバス

科目名	臨床実習 I	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	時間外		
		単位数	1 単位	時間数	45 時間	授業形態	臨床実習		
担当者	神内 伸晃	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：						
実務経験	明治東洋医学院専門学校附属治療所								
DPとの関連	DP 1		DP 2	○	DP 3	○	DP 4	○	DP 5

授業の概要

医療人としての倫理やマナーを理解するために、服装や身だしなみ、挨拶、コミュニケーション等の方法について学びます。また柔道整復師以外の医療職の働き方やスタッフ間連携などを見学することで、他職種との連携の重要性を理解することを目的とする。

到達目標

1. 医療人としての倫理やマナーを理解することが出来る。
2. 仕事の内容を見て職務の概要を理解することが出来る。
3. 柔道整復師がその仕事につくことの意味について考えることが出来る。
4. 患者、利用者とのコミュニケーションについて考えることが出来る。

学修上の助言

1. 現場では患者、利用者の前に出て見学を行います。医療人として、実習生として相応しい態度、身だしなみで実習に臨んでください。※服装は実習先で異なりますので確認すること。
2. 実習先では現地の指導者に従って積極的に実習を行ってください。
3. 実習先で得た個人情報には守秘義務があります。絶対に漏らさないでください。
4. 実習先の仕事の概要等についてはホームページなどで確認し、事前に知識を持っておくようにしてください。

成績	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分					50		50		
評価	評価の実施方法と注意点									
	実習先での現場の評価と提出されたレポート等により評価します。									
	評価の内容・基準は事前に公開します。									
	受験資格・出席について									
【臨床実習】全実習への出席が必要となります。										

教科書・参考図書

教科書：
参考図書等：

授業時間外の学習について

実習の内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力すること。その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習としてください。

特記事項

授業シラバス

科目名	コーチング論 I	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	前期			
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義			
担当者	山根 太治	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	JSP0 - AT、鍼灸師としてラグビー現場でのトレーナー活動。AT 専門教育。									
DPとの関連	DP 1		DP 2	◎	DP 3	◎	DP 4	◎	DP 5	

授業の概要

スポーツ指導者としての基本的な思考、態度、行動、様々な指導現場や環境において必要となる要素を考え、各種関係者、学生間での意見交換・共同作業を通して、コーチングの原点やプロセス、コーチングの計画立案法、効果的なコーチング実践法に関する知識やスキルの獲得及び理論の理解を深めることを学ぶ。

到達目標

コーチング、コーチングのプロセス、コーチングの計画立案法、効果的なコーチング実践法に関する知識やスキルの獲得及び理論の理解を深めるように出来る。

学修上の助言

スポーツ指導者である JSP0-AT として、現状の自分から目標とする自分に成長するために必要な知識やスキルを理解し、それらを習得すべき具体的な行動について考察する。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分					90				10
評価	評価の実施方法と注意点									
	現状の自己評価と目標設定、到達のための具体的な行動指針が立てられているかをレポート評価する。									
	受験資格・出席について									
【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：共通科目リファレンスブック（公益財団法人 日本スポーツ協会）

参考図書等：

授業時間外の学習について

スポーツ指導者としての JSP0-AT の在り方を、自身の日常生活における立ち居振る舞いに反映させる意識を持つ。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	コーチングとは	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
2	コーチングとは	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
3	コーチングとは	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
4	コーチに求められる役割	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
5	コーチに求められる知識とスキル	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
6	他者力を磨こうⅠ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
7	他者力を磨こうⅡ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
8	他者力を磨こうⅢ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
9	他者力を磨こうⅣ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
10	他者力を磨こうⅤ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
11	対自己力を磨こうⅠ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
12	対自己力を磨こうⅡ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
13	対自己力を磨こうⅢ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
14	対自己力を磨こうⅣ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
15	対自己力を磨こうⅤ	対面	

授業シラバス

科目名	コーチング論Ⅱ	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	前期			
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義			
担当者	山根 太治	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	JSP0 - AT、鍼灸師としてラグビー現場でのトレーナー活動。AT 専門教育。									
DPとの関連	DP1		DP2	◎	DP3	◎	DP4	◎	DP5	

授業の概要

コーチングをする上でスポーツの本質・制度・環境について学ぶ。また、近年のスポーツチームや組織において気をつけなければならないガバナンス・暴力・ハラスメント・リスクマネジメントについて学ぶ。

到達目標

コーチングを取り巻く環境様々な環境、問題について考え、理解し、実践の場でもその知識を利用が出来る。

学修上の助言

スポーツ指導者である JSP0-AT として、現状の自分から目標とする自分に成長するために必要な知識やスキルを理解し、それらを習得すべき具体的な行動について考察する。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分					90				10
評価	評価の実施方法と注意点									
	現状の自己評価と目標設定、到達のための具体的行動指針が立てられているかをレポート評価する。									
	受験資格・出席について									
【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：共通科目リファレンスブック（公益財団法人 日本スポーツ協会）

参考図書等：

授業時間外の学習について

スポーツ指導者としての JSP0-AT の在り方を、自身の日常生活における立ち居振る舞いに反映させる意識を持つ。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	スポーツの意義と価値	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
2	スポーツの意義と価値	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
3	スポーツの価値を守るスポーツ権	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
4	スポーツの自治－ガバナンスとコンプライアンス－ 暴力・ハラスメントの根絶Ⅰ)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
5	暴力・ハラスメントの根絶Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
6	暴力・ハラスメントの根絶Ⅲ)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
7	スポーツのインテグリティ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
8	スポーツの事故におけるスポーツ指導者の法的責任	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
9	スポーツ仲裁	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
10	スポーツ倫理	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
11	時代をリードするコーチング	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
12	ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチングⅠ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
13	ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチングⅡ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
14	障がい者とスポーツⅠ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
15	障がい者とスポーツⅡ	対面	

授業シラバス

科目名	アスレティックトレーナーの役割	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	前期			
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義			
担当者	松山 隆文	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	サッカージュニアユース世代のJSP0-ATとして活動									
DPとの関連	DP1	○	DP2		DP3		DP4		DP5	◎

授業の概要

・JSP0-AT や関連資格の役割・業務・制度、法律的観点からの役割と求められる倫理・責任、自身の健康管理の重要性と対処法、スポーツ医・科学チームにおける求められる役割、科学的根拠に基づく情報収集・活用方法、クライアントの特徴理解と連携体制の構築方法について学ぶ。

到達目標

- ・JSP0-AT 及び国内外の関連資格の役割、業務、制度を説明できる。
- ・法律的観点からみた JSP0-AT の役割を理解し、求められる倫理と責任について説明できる。
- ・自身の健康管理の重要性を理解し、その予防や対処法について説明できる。
- ・スポーツ医・科学チームを構成する関連資格の特徴を理解し、JSP0-AT に求められる役割を説明できる。
- ・科学的根拠に基づいた業務推進のための情報収集と活用方法について説明できる。
- ・クライアントの特徴を理解し、連携体制の構築に活用できる。

学修上の助言

- ・非常に幅広く活動する JSP0-AT の仕事内容を理解し、自分がどのようなトレーナーになりたいかを考える。
- ・現場で活躍している各トレーナーの話を聞く姿勢が必要。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分								100%	
評価の実施方法と注意点										
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。										
合計点が 60 点以上で合格となります。										
受験資格・出席について										
【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：専門科目テキスト・共通科目リファレンスブック

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー (JSP0-AT) とは (P1~P38)	対面	予習：範囲の教科書を読む
2	JSP0-AT のコンピテンシーに応じた業務と運営 (P39~P52)	対面	予習：範囲の教科書を読む 復習：前回の授業を振り返る
3	アスレティックトレーナーの実際①	対面	
4	JSP0-AT の活動と倫理および運営管理について① ：AT の倫理と責任、法的諸問題・リスクマネジメント (P54~P73)	対面	予習：範囲の教科書を読む
5	アスレティックトレーナーの実際②	対面	
6	JSP0-AT の活動と倫理および運営管理について②：活動環境、新たな職域 (P74~P86)	対面	予習：範囲の教科書を読む 復習：前々回の授業を振り返る
7	アスレティックトレーナーの実際③	対面	
8	JSP0-AT の安全と健康管理, セルフマネジメント：健康管理・感染症概論・メンタルヘルス (P87~P109)	対面	予習：範囲の教科書を読む 復習：前々回の授業を振り返る
9	アスレティックトレーナーの実際④	対面	
10	スポーツ医・科学チームとスタッフについて (P111~P131)	対面	予習：範囲の教科書を読む 復習：前々回の授業を振り返る
11	アスレティックトレーナーの実際⑤	対面	
12	エビデンスに基づいた運営について① (P133~P149)	対面	予習：範囲の教科書を読む
13	エビデンスに基づいた運営について② (P150~P174)	対面	予習：範囲の教科書を読む 復習：前回の授業を振り返る
14	JSP0-AT とクライアントについて ：関係者とのコミュニケーションと留意点・対象者の特性とコミュニケーション (P175~P213)	対面	予習：範囲の教科書を読む 復習：前回の授業を振り返る
15	まとめ	対面	予習：今までの復習を行う

授業シラバス

科目名	スポーツ予防学 I	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	前期			
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義			
担当者	宮本 直樹	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	大学アメリカンフットボール部トレーナー									
DPとの関連	DP1	○	DP2		DP3		DP4		DP5	◎

授業の概要

・ JAP0-AT としてコンピテンシーの 1 つである「スポーツ活動中の外傷・障害予防」について理解し、それを実践することができるための知識を習得する。

到達目標

・ 上肢の機能解剖、スポーツ傷害の基礎知識を習得する
 ・ スポーツ活動中の外傷・障害予防に対する基礎知識を習得し、後期にて実施されるスポーツ予防学実習へ応用できる様に、常にスポーツ現場を想定し、スポーツ現場で活躍できる姿を想像できるようになる。

学修上の助言

機能解剖、スポーツ傷害の知識が必要な教科であるため、他の教科で学んだ内容も学習に必要となってくる場合がある。授業連携を意識し、当授業に取り組む姿勢が必要である。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分		50%			30%			20%	
評価	評価の実施方法と注意点									
	期末試験にて、まとめのテストを実施する。また、単元毎にレポート、課題の提出を持って評価とする。									
	受験資格・出席について									
【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防、アスレティックトレーナー専門科目テキスト1 運動器の機能と構造、アスレティックトレーナー専門科目テキスト2 スポーツ医学

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	肩甲帯・肩関節・上腕部の機能解剖学①(運動器の機能と構造 p. 62～p. 77)	対面	第1回授業の復習
2	肩甲帯・肩関節・上腕部の機能解剖学②(運動器の機能と構造 p. 78～p. 103)	対面	第2回授業の復習
3	肩関節・上腕の代表的な傷害①(スポーツ医学概論 p. 81～86)	対面	第3回授業の復習
4	肩関節・上腕の代表的な傷害②(スポーツ医学概論 p. 87～91)	対面	第1～4回の授業をまとめる
5	肘関節・前腕部の機能解剖①(運動器の機能と構造 p. 104～p. 110)	対面	第5回授業の復習
6	肘関節・前腕部の機能解剖②(運動器の機能と構造 p. 111～p. 126)	対面	第6回授業の復習
7	肘関節の代表的な傷害(スポーツ医学概論 p. 92～96)	対面	第5～7回の授業をまとめる
8	手関節・手指の機能解剖①(運動器の機能と構造 p. 127～p. 138)	対面	第8回授業の復習
9	手関節・手指の機能解剖②(運動器の機能と構造 p. 139～p. 149)	対面	第9回授業の復習
10	前腕・手・手指の代表的な傷害(スポーツ医学概論 p. 97～113)	対面	第9～10回の授業をまとめる
11	上肢の絞扼神経傷害(スポーツ医学概論 p. 114～122)	対面	第11回授業の復習
12	スポーツ現場における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念について (P1～P9)	対面	第12回授業の復習
13	スポーツ現場におけるスポーツ外傷・障害・事故・疾病の実態 (P11～P22)	対面	第13回授業の復習
14	各種要因が安全・健康管理が及ぼす影響 (P23～P34)	対面	第14回授業の復習
15	まとめ	対面	第1～14回授業内容の疑問点をまとめる

授業シラバス

科目名	スポーツ予防学Ⅱ	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	後期			
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義			
担当者	宮本 直樹	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：木曜日							
実務経験	大学アメリカンフットボール部トレーナー									
DPとの関連	DP1	○	DP2		DP3		DP4		DP5	◎

授業の概要

・ JAP0-AT としてコンピテンシーの1つである「スポーツ活動中の外傷・障害予防」について理解し、それを実践することができるための知識を習得する。

到達目標

・ スポーツ活動中の外傷・障害予防に対する基礎知識を習得し、スポーツ予防学実習へ応用できる様に、常にスポーツ現場を想定し、スポーツ現場で活躍できる姿を想像できるようになる。

学修上の助言

機能解剖、スポーツ傷害の知識が必要な教科であるため、他の教科で学んだ内容も学習に必要となってくる場合がある。授業連携を意識し、当授業に取り組む姿勢が必要である。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分		50%			30%			20%	
評価	評価の実施方法と注意点									
	期末試験にて、まとめのテストを実施する。また、単元毎にレポート、課題の提出を持って評価とする。									
	受験資格・出席について									
【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防
参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	初回ガイダンス	対面	
2	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における JSP0-AT の役割について① (P35～P44)	対面	
3	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における JSP0-AT の役割について② (P45～P54)	対面	
4	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における JSP0-AT の役割について③ (P55～P70)	対面	
5	健康管理と JSP0-AT の役割について (P71～P82)	対面	
6	スポーツ外傷・障害予防の考え方・疫学調査と事例・発症要因について (P83～P103)	対面	
7	スポーツ外傷・障害の発生要因・スポーツ外傷・障害予防プログラムの立案と介入 (P104～P114)	対面	
8	再発予防を踏まえたスポーツ活動への復帰の考え方 (P166～P169)	対面	
9	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応①：性別 (P217～P229)	対面	
10	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応②：年齢・感染症 (P230～P250)	対面	
11	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応③：環境 (P251～P282)	対面	
12	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種評価と情報の活用① (P171～P185)	対面	
13	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種評価と情報の活用② (P185～P208)	対面	
14	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種評価と情報の活用③ (P209～P216)	対面	
15	まとめ	対面	

授業シラバス

科目名	スポーツ予防学実習	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	後期			
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	実技			
担当者	宮本 直樹	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	大学アメリカンフットボール部トレーナー									
DPとの関連	DP1	○	DP2		DP3		DP4		DP5	◎

授業の概要

- ・ JAP0-AT としてコンピテンシーの 1 つである「スポーツ活動中の外傷・障害予防」について理解し、それを実践する。
- ・ 教科書記載の実際のプログラムを参考に、「スポーツ活動中の外傷・障害予防」を目的としたプログラムを作成する。

到達目標

- ・ スポーツ活動中の外傷・障害予防に対するプログラムを実践し、スポーツ現場を想定したスポーツ活動中の外傷・障害予防に対してのプログラム作成と指導ができ、スポーツ現場で活躍できる姿を想像できるようになる。

学修上の助言

実践が主となるため、積極的なエクササイズの実施と指導実践が必要となる。

成 績 評 価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分					80%			20%	
評価の実施方法と注意点										
授業中に指示されたレポートの提出により評価を行う。また、各単元での課題を行い、課題の内容を評価する。実技中心のため、運動ができる服装、水分補給ができる準備をして、授業に望む。										
受験資格・出席について										
【講義・演習】 授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防
参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	予防・再発予防としての動作の実践：走動作（P314～P323）	対面	走動作のプログラムの復習
2	予防・再発予防としての動作の実践：跳動作（P324～P328）	対面	跳動作のプログラムの復習
3	予防・再発予防としての動作の実践：方向転換動作（P329～P338）	対面	方向転換動作のプログラムの復習
4	予防・再発予防としての動作の実践：投球動作（P339～P346）	対面	投球動作のプログラムの復習
5	予防・再発予防としての動作の実践：打撃動作（P347～P351）	対面	打撃動作のプログラムの復習
6	予防・再発予防としての動作の実践：泳動作（P352～P358）	対面	泳動作のプログラムの復習
7	予防・再発予防としての動作の実践：あたり動作（P359～P363）	対面	あたり動作のプログラムの復習
8	予防・再発予防としての動作の実践：滑走動作（P364～P370）	対面	滑走動作のプログラムの復習
9	科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害予防プログラムの実際①：前十字靭帯損傷（P115～P124）	対面	前十字靭帯損傷予防のプログラムの復習
10	科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害予防プログラムの実際②：足関節捻挫（P125～P129）	対面	足関節捻挫予防のプログラムの復習
11	科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害予防プログラムの実際③：肉ばなれ（P130～P134）	対面	肉離れ予防のプログラムの復習
12	科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害予防プログラムの実際④：投球障害（P135～P141）	対面	投球障害予防のプログラムの復習
13	実践①（設定に応じた予防・再発予防としての動作プログラム作成）	対面	実際のプログラム作成を行うポイントの復習
14	実践②（設定に応じた予防・再発予防としての動作プログラム作成）	対面	実際のプログラム作成を行うポイントの復習
15	まとめ	対面	1～14回までの復習

授業シラバス

科目名	救急対応	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	前期			
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義			
担当者	山根 太治	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	JSP0 - AT、鍼灸師としてラグビー現場でのトレーナー活動。AT 専門教育。									
DPとの関連	DP1	◎	DP2	◎	DP3	◎	DP4	◎	DP5	◎

授業の概要

JSP0-AT の役割における救急対応の位置づけを理解したうえで、医療資格者に引き継ぐための現場で出来る最高レベルの救急対応ができる実践的な知識、態度や技術を学ぶ。

到達目標

- ・スポーツ現場における救急対応の重要性やその体制構築における JSP0-AT の役割について説明できる。
- ・救急対応を実施する際に必要な正しい知識と倫理、法的留意点について説明できる。
- ・スポーツ活動現場における救急体制構築や緊急時対応計画（EAP）の立案に必要な要素、具体的な立案方法について説明できる。
- ・緊急性を判断するための的確な方法を活用し、JSP0-AT の役割における救急対応が実践できる。
- ・重症度や外傷、内科的疾患に応じた救急対応が実践できる。
- ・競技・種目特性に応じた緊急時対応計画（EAP）の計画や救急対応が実践できる。

学修上の助言

スポーツ現場での活動を常に想定し、授業を通じて得た知識やスキルを実践的に活用できることを意識すること。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
		評価配分	80							20
評価の実施方法と注意点										
知識を確認することを主な評価基準とするが、実技習得への取り組みも評価基準に組み込む。										
受験資格・出席について										
【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：専門科目テキスト救急対応（公益財団法人 日本スポーツ協会）

参考図書等：

授業時間外の学習について

実技練習を自ら行うこと。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	スポーツ現場と救急対応および救急対応の考え方	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
2	スポーツ現場における救急体制構築の留意点と計画	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
3	スポーツ現場での外傷, 障害の評価とその手順① (初期評価・体位管理・保温)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
4	スポーツ現場での外傷, 障害評価実習① (初期評価・体位管理・保温)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
5	外傷時の救急対応① (創傷・出血)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
6	外傷時の救急対応実習① (創傷・出血)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
7	外傷時の救急対応② (打撲・捻挫・肉ばなれ)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
8	外傷時の救急対応実習② (RICE 処置)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
9	外傷時の救急対応③ (骨折・脱臼)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
10	外傷時の救急対応実習③ (骨折・脱臼に対する固定)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
11	外傷時の救急対応④ (脳震盪)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
12	外傷時の救急対応実習④ (脳震盪)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
13	外傷時の救急対応⑤ (頭部・頸部・脊損における重症外傷)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
14	外傷時の救急対応実習⑤ (頭部・頸部・脊損における重症外傷)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
15	まとめ	対面	

授業シラバス

科目名	救急対応実習	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	時間外			
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義			
担当者	山根 太治	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	JSP0 - AT、鍼灸師としてラグビー現場でのトレーナー活動。AT 専門教育。									
DPとの関連	DP 1	◎	DP 2	◎	DP 3	◎	DP 4	◎	DP 5	◎

授業の概要

JSP0-AT の役割における救急対応の位置づけを理解したうえで、医療資格者に引き継ぐための現場で出来る最高レベルの救急対応ができる実践的な知識、態度や技術を学ぶ。

到達目標

- ・スポーツ現場における救急対応の重要性やその体制構築における JSP0-AT の役割について説明できる。
- ・救急対応を実施する際に必要な正しい知識と倫理、法的留意点について説明できる。
- ・スポーツ活動現場における救急体制構築や緊急時対応計画（EAP）の立案に必要な要素、具体的な立案方法について説明できる。
- ・緊急性を判断するための的確な方法を活用し、JSP0-AT の役割における救急対応が実践できる。
- ・重症度や外傷、内科的疾患に応じた救急対応が実践できる。
- ・競技・種目特性に応じた緊急時対応計画（EAP）の計画や救急対応が実践できる。

学修上の助言

スポーツ現場での活動を常に想定し、授業を通じて得た知識やスキルを実践的に活用できることを意識すること。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
		評価配分	80							20
評価の実施方法と注意点										
実技習得への取り組みも評価基準に組み込み、知識と実技スキル双方を評価する。										
受験資格・出席について										
【実技・実習】授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：専門科目テキスト救急対応（公益財団法人 日本スポーツ協会）

参考図書等：

授業時間外の学習について

実技練習を自ら行うこと。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	外傷時の救急対応⑥ (特殊な外傷)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
2	外傷時の救急対応実習⑥ (特殊な外傷)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
3	スポーツ現場での外傷, 障害の評価とその手順② (搬送法)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
4	スポーツ現場での外傷, 障害評価実習② (搬送法)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
5	内科的疾患に対する救急対応① (心停止)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
6	内科的疾患に対する救急対応実習① (心停止・一次救命処置)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
7	内科的疾患に対する救急対応② (熱中症)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
8	内科的疾患に対する救急対応実習② (熱中症)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
9	内科的疾患に対する救急対応③ (スポーツでよく見られる内科的疾患)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
10	内科的疾患に対する救急対応実習③ (スポーツでよく見られる内科的疾患)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
11	各競技における救急体制の実際①	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
12	各競技における救急体制の実際②	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
13	各競技における救急体制の実際③	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
14	各競技における救急体制の実際④	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
15	まとめ (評価含む)	対面	

授業シラバス

科目名	検査・測定と評価	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	後期			
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義			
担当者	山根 太治	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	JSP0 - AT、鍼灸師としてラグビー現場でのトレーナー活動。AT 専門教育。									
DPとの関連	DP1	◎	DP2	◎	DP3	◎	DP4	◎	DP5	◎

授業の概要

JSP0-AT に必要とされる検査・測定・評価についてその目的と意義を学び、各種具体的な評価手順、実践できる能力を学ぶ。

到達目標

- ・ JSP0-AT による評価の目的と意義を説明できる。
- ・ 形態の評価に関する目的と意義を説明し、実践できる。
- ・ 関節可動性および関節弛緩性、関節動揺性・関節不安定性の評価に関する目的と意義を説明し、実践できる。
- ・ 筋力の評価に関する目的と意義を説明し、徒手的な方法で実践できる。
- ・ 筋パワーの評価に関する目的と意義を説明し、実践できる。
- ・ 持久力の評価に関する目的と意義を説明し、フィールドにおける評価を実践できる。
- ・ 敏捷性の評価、バランス機能の評価に関する目的と意義を説明し、フィールドにおける評価を実践できる。
- ・ 一般的な体力測定に関する目的と意義を説明できる。
- ・ 心理アセスメントに関する目的と意義を説明できる。

学修上の助言

スポーツ現場での活動を常に想定し、授業を通じて得た知識やスキルを実践的に活用できることを意識すること。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	80								20
評価	評価の実施方法と注意点									
	実技習得への取り組みも評価基準に組み込み、知識と実技スキル双方を評価する。									
	受験資格・出席について									
	【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。									

教科書・参考図書

教科書：専門科目テキスト検査・測定と評価（公益財団法人 日本スポーツ協会）

参考図書等：

授業時間外の学習について

実技練習を自ら行うこと。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	JSP0-AT の行う検査・測定・評価とは	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
2	形態の評価	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
3	関節可動性の評価Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
4	関節可動性の評価Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
5	関節弛緩性・関節動揺性・関節不安定性の評価	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
6	筋力の評価Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
7	筋力の評価Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
8	筋パワーの評価Ⅰ)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
9	筋パワーの評価Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
10	持久力の評価Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
11	持久力の評価Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
12	敏捷性の評価	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
13	バランス機能の評価)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
14	一般的な体力測定・心理アセスメントの指標	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
15	まとめ	対面	

授業シラバス

科目名	機能解剖学 I	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	後期			
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義			
担当者	山根 太治	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	JSPO - AT、鍼灸師としてラグビー現場でのトレーナー活動。AT 専門教育。									
DP との関連	DP 1	◎	DP 2	◎	DP 3	◎	DP 4	○	DP 5	○

授業の概要

骨・関節・筋の構造と機能を理解し、各身体部位の構造、スポーツにおける基本動作を理解して学ぶ。

到達目標

- ・ 骨、骨の各部位の名称を説明できる。
- ・ 関節を定義し、関節の構造が関節の働きを決めている理由を説明できる。
- ・ 関節の構造の分類を説明できる。
- ・ 筋の起始と停止、作用を説明できる。
- ・ 身体における代表的な骨、関節、靭帯、筋・腱の特定が実践できる。

学修上の助言

基礎解剖学に加えて機能的な理解を深め、触察や評価法、傷害の理解につながる学習を意識すること。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分		80							20
評価	評価の実施方法と注意点									
	知識と実技スキル双方を評価する。									
	受験資格・出席について									
【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：専門基礎科目テキスト 運動器の機能と構造（文光堂）

参考図書等：

授業時間外の学習について

触察実技や評価実技などの練習を組み合わせることで知識の習得を目指す。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	スポーツ動作と運動器の機能と構造 頭頸部・体幹の機能と構造：総論、スポーツ動作の仕組み	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
2	頭頸部・体幹の構造：頭頸部Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
3	頭頸部・体幹の構造：体幹Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
4	頭頸部・体幹の構造：体幹Ⅱ)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
5	上肢の構造：総論、スポーツ動作の仕組み 肩甲帯・肩関節・上腕部Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
6	上肢の構造：肩甲帯・肩関節・上腕部Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
7	上肢の構造：肘関節・前腕部Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
8	上肢の構造：手関節・手指Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
9	下肢の構造：総論、スポーツ動作の仕組み 骨盤帯・股関節・大腿部Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
10	下肢の構造：骨盤帯・股関節・大腿部Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
11	下肢の構造：膝関節Ⅰ)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
12	下肢の構造：膝関節Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
13	下肢の構造：下腿部・足関節・足部Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
14	下肢の構造：下腿部・足関節・足部Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
15	まとめ	対面	

授業シラバス

科目名	運動生理学	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	後期			
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義			
担当者	山根 太治	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	JSP0 - AT、鍼灸師としてラグビー現場でのトレーナー活動。AT 専門教育。									
DPとの関連	DP1	◎	DP2	◎	DP3	◎	DP4	◎	DP5	◎

授業の概要

体力・運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要な運動生理学の各種の基礎知識について学ぶ。

到達目標

体力・運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要な運動生理学の各種の基礎知識（筋生理、神経生理、代謝、呼吸・循環、内分泌など）について説明できる。

学修上の助言

トレーニング指導を含めたコンディショニングの実践につながることを意識して学習すること。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	80								20
評価の実施方法と注意点										
知識レベルと、それを応用する思考について評価する。										
受験資格・出席について										
【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：専門基礎科目テキスト スポーツ科学概論（文光堂）

参考図書等：

授業時間外の学習について

スポーツ現場で活用するアイデアを具体的に考案する。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	筋生理Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
2	筋生理Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
3	筋生理Ⅲ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
4	神経生理Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
5	神経生理Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
6	神経生理Ⅲ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
7	代謝Ⅰ)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
8	代謝Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
9	代謝Ⅲ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
10	呼吸・循環Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
11	呼吸・循環Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
12	呼吸・循環Ⅲ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
13	内分泌Ⅰ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
14	内分泌Ⅱ	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
15	内分泌Ⅲ	対面	

授業シラバス

科目名	スポーツバイオメカニクス	開講年度	2026年度	配当年次	1年	開講期	後期			
		単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	講義			
担当者	山根 太治	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	JSPO - AT、鍼灸師としてラグビー現場でのトレーナー活動。AT 専門教育。									
DPとの関連	DP1	◎	DP2	◎	DP3	◎	DP4	○	DP5	○

授業の概要										
体力・運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要なバイオメカニクスの各種の基礎知識を学ぶ。										
到達目標										
体力・運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要なバイオメカニクスの各種の基礎知識（運動と力、運動と力のモーメント、流体力、インパクトと外傷・障害など）について説明できる。										
学修上の助言										
望ましいスポーツ動作の習得やトレーニング指導を含めたコンディショニングの実践につながることを意識して学習すること。										
成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分	80							20	100
	評価の実施方法と注意点									
	知識レベルと、それを応用する思考について評価する。									
	受験資格・出席について									
【講義・演習】授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。										
教科書・参考図書										
教科書：専門基礎科目テキスト スポーツ科学概論（文光堂） 参考図書等：										
授業時間外の学習について										
スポーツ現場で活用するアイデアを具体的に考案する。										
特記事項										

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	身体の力学的特性	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
2	運動と力	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
3	運動と力のモーメント	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
4	流体力 (P64~P70)	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
5	よい動きのバイオメカニクスの原則	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
6	スポーツ動作の分析：歩・走動作	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
7	スポーツ動作の分析：跳動作	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
8	スポーツ動作の分析：投動作	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
9	スポーツ動作の分析：打動作	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
10	スポーツ動作の分析：方向転換動作	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
11	スポーツ動作の分析：あたり動作	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
12	スポーツ動作の分析：滑走動作	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
13	スポーツ動作の分析：泳動作	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
14	スポーツ動作の分析：その他	対面	授業内で配布された資料を用いて復習を行う
15	まとめ	対面	

授業シラバス

科目名	スポーツ科学	開講年度	2026 年度	配当年次	1 年	開講期	前期			
		単位数	1 単位	時間数	30 時間	授業形態	講義			
担当者	松山 隆文	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	サッカージュニアユース世代の JSP0-AT として活動									
DP との関連	DP 1	○	DP 2		DP 3		DP 4		DP 5	◎

授業の概要

- ・各種トレーニング、運動形式、様々な個人、環境変化、健康管理、各競技への実践例などを学ぶ。

到達目標

- ・体力・運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要なスポーツ科学の応用的知識（トレーニング科学、運動学習、発育発達、性差、時間生物学、環境による生理学的変化など）について説明できる。
- ・スポーツ科学の基礎的・応用的知識を、運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防を目的とした動きづくりのためのコンディショニング計画と実践に活用できる。
- ・スポーツ科学の基礎的・応用的知識を、スポーツ現場における健康管理の計画と実践に活用できる。

学修上の助言

- ・幅広い内容であり、実務も多く使える為、知識と実務を並行して行うことが大切である。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
		評価配分	100%							
評価の実施方法と注意点										
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。										
合計点が 60 点以上で合格となります。										
受験資格・出席について										
【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。										

教科書・参考図書

教科書：専門科目テキスト・共通科目リファレンスブック

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

授業シラバス

授業計画		授業方法	授業時間外学習 (予習・復習)
1	コンディショニングの基礎 (P119～P125)	対面	予習：教科書の範囲を読む
2	トレーニング各論：筋力・筋パワー (P126～P132)	対面	予習：教科書の範囲を読む 復習：前回の授業の復習
3	トレーニング各論：柔軟性 (P132～P138)	対面	予習：教科書の範囲を読む 復習：前回の授業の復習
4	トレーニング各論：持久力 (P138～P147)	対面	予習：教科書の範囲を読む 復習：前回の授業の復習
5	トレーニング各論：スプリント（スピード） (P147～P154)	対面	予習：教科書の範囲を読む 復習：前回の授業の復習
6	トレーニング各論：アジリティ (P155～P159)	対面	予習：教科書の範囲を読む 復習：前回の授業の復習
7	運動制御・運動学習、発育発達 (P160～P170)	対面	予習：教科書の範囲を読む 復習：前回の授業の復習
8	加齢学、性差 (P171～P178)	対面	予習：教科書の範囲を読む 復習：前回の授業の復習
9	時間生物学、環境による生理学的変化 I (P179～P190)	対面	予習：教科書の範囲を読む 復習：前回の授業の復習
10	環境による生理学的変化 II (P190～P200)	対面	予習：教科書の範囲を読む 復習：前回の授業の復習
11	健康管理への具体的実践例 I (P201～P224)	対面	予習：教科書の範囲を読む 復習：前回の授業の復習
12	健康管理への具体的実践例 II (P201～P224)	対面	予習：教科書の範囲を読む 復習：前回の授業の復習
13	競技種目別の具体的実践例 I (P225～P251)	対面	予習：教科書の範囲を読む 復習：前回の授業の復習
14	競技種目別の具体的実践例 II (P225～P251)	対面	予習：教科書の範囲を読む 復習：前回の授業の復習
15	まとめ	対面	予習：今までの範囲を復習しておく

授業シラバス

科目名	現場実習	開講年度	2026 年度	配当年次	1～2 年	開講期	通年			
		単位数	4 単位	時間数	180 時間	授業形態	実技			
担当者	松山 隆文	連絡先	メールアドレス： 出勤曜日：							
実務経験	サッカージュニアユース世代の JSP0-AT として活動									
DP との関連	DP 1	○	DP 2		DP 3		DP 4		DP 5	◎

授業の概要

- ・ JSP0-AT が様々なスポーツ現場でどのような役割を担い、どのような能力が必要かを見学する。
- ・ スポーツ現場で日頃学んでいることを AT の下、活動を行う。

到達目標

- ・ JSP0-AT の役割についてスポーツ現場で見学する機会を提供し、JSP0-AT のコンピテンシーの習得に必要な技能が何かを知ることを目標とする。
- ・ JSP0-AT の理念のもとスポーツ現場で活動を行う

学修上の助言

- ・ 各スポーツ現場で AT の邪魔にならないように社会人として最低限のマナーを守ること。
- ・ 担当 AT に従い、スポーツ現場で活動を行う。

成績評価	評価方法	期末試験	中間試験	小テスト	レポート	口頭試問	ポートフォリオ	課題	その他	合計
	評価配分					100%				
評価	評価の実施方法と注意点									
	実習日誌等により評価を行う									
	受験資格・出席について									
	【講義・演習】授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。									

教科書・参考図書

教科書：

参考図書等：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

特記事項

第1 柔整学科・第2 柔整学科 授業科目一覧表（2025年度以前入学生）

教育内容		授業科目	授業形態	時間数	必修単位	実務経験のある教員による授業科目	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	自然科学	講義	30	2		
		健康とスポーツ	講義	30	2		
		情報処理	講義	30	2		
		外国語	講義	30	2		
		健康指導法	講義	30	2		
		食と健康	講義	30	2		
		心理学	講義	30	2		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	講義	30	1		
		解剖学Ⅱ	講義	30	1		
		解剖学Ⅲ－1	講義	30	1		
		解剖学Ⅲ－2	講義	30	1		
		解剖学Ⅳ	講義	30	1		
		解剖学Ⅴ	講義	30	1		
		解剖学Ⅵ	講義	30	1		
		体表解剖学	講義	30	1		
		局所解剖学	講義	30	1		
		生理学Ⅰ－1	講義	30	1		
		生理学Ⅰ－2	講義	30	1		
		生理学Ⅱ－1	講義	30	1		
		生理学Ⅱ－2	講義	30	1		
		応用生理学	講義	30	1		
		運動学	講義	30	1		
		疾病と障害	病理学概論Ⅰ	講義	30	1	
			病理学概論Ⅱ	講義	30	1	
	衛生学・公衆衛生学Ⅰ		講義	30	1		
	衛生学・公衆衛生学Ⅱ		講義	30	1		
	一般臨床医学Ⅰ		講義	30	1		
	一般臨床医学Ⅱ		講義	30	1		
	運動傷害学概論		講義	30	1		
	高齢者傷害学概論		講義	30	1		
	外科学概論Ⅰ		講義	30	1		
	外科学概論Ⅱ		講義	30	1		
	リハビリテーション概論		講義	30	1		
	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応	講義	30	2		
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	柔道Ⅰ	実習	30	1		
		柔道Ⅱ－1	実習	30	1		
		柔道Ⅱ－2	実習	30	1		
		柔道Ⅲ	実習	30	1		
		職業倫理	講義	30	1		
		関係法規	講義	30	2		
	臨床コミュニケーション論	講義	30	1			
	社会保障制度	社会保障制度	講義	30	1		
	専門分野	基礎柔道整復学	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	30	1	●
			基礎柔道整復学Ⅱ	講義	30	1	●
			基礎柔道整復学Ⅲ－1	講義	30	1	●
			基礎柔道整復学Ⅲ－2	講義	30	1	●
			基礎柔道整復学Ⅲ－3	講義	30	1	●
			基礎柔道整復学Ⅲ－4	講義	30	1	●
			基礎柔道整復学Ⅲ－5	講義	30	1	●
			基礎柔道整復学Ⅳ－1	講義	30	1	●
基礎柔道整復学Ⅳ－2			講義	30	1	●	
基礎柔道整復学Ⅴ－1			講義	30	1	●	
基礎柔道整復学Ⅴ－2			講義	30	1	●	
臨床柔道整復学			臨床柔道整復学Ⅰ	講義	30	1	●
			臨床柔道整復学Ⅱ	講義	30	1	●
		臨床柔道整復学Ⅲ	講義	30	1	●	
		臨床柔道整復学Ⅳ－1	講義	30	1	●	
		臨床柔道整復学Ⅳ－2	講義	30	1	●	
		臨床柔道整復学Ⅴ	講義	30	1	●	
		臨床柔道整復学Ⅵ	講義	30	1	●	
		臨床柔道整復学Ⅶ	講義	30	1	●	
		臨床柔道整復学Ⅷ	講義	30	1	●	
		総合柔道整復学Ⅰ	講義	30	1		
		総合柔道整復学Ⅱ	講義	30	1		
		総合柔道整復学Ⅲ	講義	30	1		
		総合柔道整復学Ⅳ	講義	30	1		
		総合柔道整復学Ⅴ	講義	30	1		
		総合柔道整復学Ⅵ	講義	30	1		
		総合柔道整復学Ⅶ	講義	30	1		
		総合柔道整復学Ⅷ	講義	30	1		
柔道整復実技		基礎柔道整復実技Ⅰ－1	実習	30	1	●	
		基礎柔道整復実技Ⅰ－2	実習	30	1	●	
		基礎柔道整復実技Ⅱ	実習	30	1	●	
		基礎柔道整復実技Ⅲ－1	実習	30	1	●	
		基礎柔道整復実技Ⅲ－2	実習	30	1	●	
		基礎柔道整復実技Ⅳ	実習	30	1	●	
		基礎柔道整復実技Ⅴ	実習	30	1	●	
		臨床柔道整復実技Ⅰ	実習	30	1	●	
		臨床柔道整復実技Ⅱ	実習	30	1	●	
		臨床柔道整復実技Ⅲ	実習	30	1	●	
		臨床柔道整復実技Ⅳ	実習	30	1	●	
		臨床柔道整復実技Ⅴ	実習	30	1	●	
		臨床柔道整復実技Ⅵ	実習	30	1	●	
		臨床柔道整復実技Ⅶ	実習	30	1	●	
		伝承柔道整復実技	実習	30	1	●	
		総合柔道整復実技Ⅰ	実習	30	1		
		総合柔道整復実技Ⅱ	実習	30	1		
臨床実習		臨床実習Ⅰ	実習	45	1	●	
		臨床実習Ⅱ	実習	45	1	●	
		臨床実習Ⅲ	実習	45	1	●	
		臨床実習Ⅳ	実習	45	1	●	
合 計				2,790	100	1,230単位時間	
指定規則外 自由選択科目	インターンシップ実習Ⅰ	実習	40	1			
	インターンシップ実習Ⅱ	実習	40	1			
	インターンシップ実習Ⅲ	実習	40	1			
	インターンシップ実習Ⅳ	実習	40	1			

【柔整学科授業シラバス】

科目名	健康指導法	単位数	2 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	岩内 和也	E-mail		実施時期	2 年 後期		

授業の目的

スポーツの意義と価値、体力・トレーニング理論、コーチングなど、スポーツ全般に関する認識を深めることを目的とする。

到達目標

スポーツの意義と価値、体力・トレーニング理論、コーチングなど、スポーツ全般に関する認識を深めるとともに、ライフステージに応じたスポーツの考え方、取り組み方を身につけ、健康社会の実現に寄与し、また個々人の健康課題の改善やスポーツライフスタイルの確立に貢献できる医療人となることを目標とする。

授業の内容

アスレチックトレーナーに必要となる、スポーツの意義と価値、体力・トレーニング理論、コーチング学などを学びます。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合がありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、無断での途中退出や早退は「欠席」となります。注意してください。
 ※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

成績評価

【評価について】
 授業時数の3分の2以上出席したものを評価対象とします。
 評価は期末試験（筆記試験）にて行います。

テキスト

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
 時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	スポーツとは	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	スポーツの起源、スポーツの意義と価値を説明できる	
2	授業内容	体力とトレーニング理論	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	体力の分類とトレーニング理論、筋肉の特徴と働きを説明できる	
3	授業内容	スポーツ指導者とは	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	スポーツ指導者の心構え、スポーツ指導法を説明できる	
4	授業内容	コーチングとは	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	コーチングとは何か、コーチングの目的を説明できる	
5	授業内容	ジュニア期のスポーツ指導①	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	発育と発達、発育期の体格と体力、発達に応じたコーチングを説明できる	
6	授業内容	ジュニア期のスポーツ指導②	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	動きの発達…機序と特徴、心の発達…認知的発達、社会的発達とスポーツの関係を説明できる	
7	授業内容	思春期・青年期のスポーツ指導①	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	レクリエーションスポーツと競技スポーツ、思春期・青年期に必要な体力要素を説明できる	
8	授業内容	思春期・青年期のスポーツ指導②	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	思春期・青年期に必要なトレーニング、実施上の留意点を説明できる	
9	授業内容	中高齢者のスポーツ指導①	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	中高齢者のスポーツの現状、加齢にともなう身体の衰え、中高齢者に必要な体力要素を説明できる	
10	授業内容	中高齢者のスポーツ指導②	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	中高齢者に必要なトレーニング、医療との連携、実施上の留意点を説明できる	
11	授業内容	女性とスポーツ①	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	女性の身体的・体力的特徴、スポーツに関わって起こる女性特有の諸問題を説明できる	
12	授業内容	女性とスポーツ②	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	スポーツを実施する上での留意点、月経とコンディショニングを説明できる	
13	授業内容	障害者とスポーツ①	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	生涯・病気とは、障害とスポーツ、リハビリテーションとハビリテーションを説明できる	
14	授業内容	障害者とスポーツ②	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	障害者に可能なトレーニング、医療との連携、実施上の留意点、障害者スポーツの歴史を説明できる	
15	授業内容	まとめ	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	健康社会の実現、スポーツライフスタイルの確立、スポーツ文化の構築、スポーツをみんなのものにを説明できる	

【授業シラバス】

科目名	食と健康	単位数	2 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	桑原 彩 和辻 直	E-mail		実施時期	2 年前期		

授業の目的

人間の身体活動を支える栄養素に関する基礎的理解をはかると共に、生命活動と密接に関わる各種栄養素について考察し、さらに実践的な食事へ反映させることができるようになる。

到達目標

人間の身体活動を支える栄養素について理解することができる

授業の内容

人間の身体活動の基礎となる各種栄養素について解説する。生活に密着した食事内容や水分補給、サプリメントの知識等を扱うこととする。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合がありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、無断での途中退出や早退は「欠席」となります。注意してください。
※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

成績評価

【評価について】

授業時数の3分の2以上出席したものを評価対象とします。
評価は期末試験（筆記試験）にて行います。

テキスト

プリント配布

参考文献・図書

「栄養の基礎がわかる図解辞典」 成美堂出版
「栄養科学NEXTシリーズスポーツ・運動栄養学（第3版）」加藤秀夫／中坊幸弘／中村亜紀編
「スポーツ栄養学」 田中紀子／平野直美 編 （化学同人）

オフィスアワーについて

曜日：

時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	栄養学の基礎	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	栄養学の基礎が説明できる。	
2	授業内容	栄養素の働き（糖質）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	糖質の働きが説明できる。	
3	授業内容	栄養素の働き（脂質）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	脂質働きが説明できる。	
4	授業内容	栄養素の働き（たんぱく質）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	たんぱく質の働きが説明できる。	
5	授業内容	栄養素の働き（ビタミン）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	ビタミンの働きが説明できる。	
6	授業内容	栄養素の働き（ビタミン）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	ビタミンの働きが説明できる。	
7	授業内容	水分補給	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	水分補給について説明できる。	
8	授業内容	日本人の食事摂取基準とバランスガイド	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	日本人の食事摂取基準を説明できる。	
9	授業内容	ウエイトコントロール	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	ウエイトコントロールについて説明できる。	
10	授業内容	障害予防の食事・サプリメント	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	障害予防の食事・サプリメントが説明できる。	
11	授業内容	試合期の食事	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	試合期の食事について説明できる。	
12	授業内容	ライフステージ別の栄養（ジュニア期）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	ライフステージ別の栄養（ジュニア期）が説明できる。	
13	授業内容	ライフステージ別の栄養（シニア期）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	ライフステージ別の栄養（シニア期）が説明できる。	
14	授業内容	食品衛生・アセスメント	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	食品衛生・アセスメントが説明できる。	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	まとめポイントを熟読する
	到達目標	スポーツ栄養学が説明できる。	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	心理学	単位数	2 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	岩原 昭彦	E-mail				実施時期	3 年 前期

授業の目的

脳の働きと行動の仕組みの基礎を学ぶことで、生物としての人間について知り、人間が人間たるゆえんについて考える。また、人間は社会性をもった存在であるがゆえに、その心のあり様には他者や環境からの影響を大きく受けている。人間の行動の特徴を心理社会的側面から理解し、心理的支援や対人関係の構築に関わる基礎的なスキルを獲得する。

到達目標

心の健康を増進するための方法について理解することを目指す。具体的には、①心の仕組みについて理解すること、②自己と他者について理解すること、③心の健康に関わる理論について説明できること、④ライフステージやフィールドに対応した心の健康を高めるための方法について説明できることを到達目標とする。

授業の内容

本講義では心の健康について、生物-心理-社会モデルから考える。前半は人間の心の仕組みと脳の健康について考えてみたい。後半では生理学的機能についても触れながら、心の健康について、心理社会的要因をベースに考えてみたい。人間の心の働きや心の健康問題を通して幸福とは何かについても考察する。

注意事項

授業時間数の2/3以上の出席がないと受験資格を認めません。

成績評価

ミニレポート課題と期末試験から総合的に評価します。

テキスト

テキストは使用しません。資料を配付します。

参考文献・図書

適宜に紹介します。

オフィスアワーについて

曜日： 木曜日

時間： 授業終了後

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

授業計画

授業時間外学習（予習・復習）

【柔整学科授業シラバス】

1	授業内容	感覚と知覚 1－知覚のメカニズム	人間が人間たるゆえんは何であるのかについて進化論的かつ適応的な視点から考える
	到達目標	知覚情報処理過程の基礎について学ぶ	
2	授業内容	感覚と知覚 2－幻覚と錯覚	人間の認知機能が歪みやすいことと環境に適応することの関係性について考える
	到達目標	認知機能の主観性と歪みについて理解する	
3	授業内容	学習と記憶 1－学習・記憶のメカニズム	記憶力を高めるためにはどうすればよいのかについて考え、自分にあった学習法について知る
	到達目標	記憶のしくみについて学ぶ	
4	授業内容	学習と記憶 2－記憶障害・特異な記憶力	記憶を失うことが私達に与える影響について考え、自分という存在の実態を感じる
	到達目標	認知機能の障害について理解する	
5	授業内容	言語と思考 1－問題解決	人間はなぜ誤りを犯しやすいのかについて進化論的かつ適応的な視点から考える
	到達目標	思考のしくみと歪みについて学ぶ	
6	授業内容	言語と思考 2－推論	直感的に思考することの効用や否定的な思考を修正する方法について考える
	到達目標	思考の柔軟性や肯定的な思考のあり方を理解する	
7	授業内容	感情と社会性 1－社会的認知と感情	豊かな対人関係を構築するためにはどうすればいいのかについて考える
	到達目標	感情の生起メカニズムと対人関係について学ぶ	
8	授業内容	感情と社会性 2－社会性の障害	誤解がなぜ生じるのかについて考えるとともに他者に共感することの意味について考える
	到達目標	コミュニケーション障害と発達障害について理解する	
9	授業内容	生存と適応－生きるとは	人間が幸せな人生を送るためには何が必要なのかについて考える
	到達目標	人間が幸福に生きることの意味について理解する	
10	授業内容	ストレス 1－ストレスの生起メカニズム	なぜ同じ状況がある人にはストレスで別の人にはストレスではないのかについて考える
	到達目標	ストレスが生じる仕組みについて学ぶ	
11	授業内容	ストレス 2－ストレス対処	ストレスを対処するための方法を理解したうえで、自分に適したストレス対処法を考える
	到達目標	ストレス社会を生き抜くためのスキルについて理解する	
12	授業内容	ライフスタイルと健康－食生活と運動習慣	食習慣を変更したり、運動習慣を確立したりすることがなぜ難しいのかについて考える
	到達目標	生活習慣が形成される心理学的メカニズムについて学ぶ	
13	授業内容	健康増進行動 1－健康行動の変容	分かっているのに不健康な習慣を変えられないのはなぜかについて考える
	到達目標	健康的な行動に変容することの難しさについて学ぶ	
14	授業内容	健康増進行動 2－健康心理学的支援	健康的な生活習慣を確立するためにはどのような支援をする必要があるかについて考える
	到達目標	健康的な行動に変容することを支援する方法について学ぶ	
15	授業内容	ポジティブ・ヘルス－ポジティブ心理学と健康	ポジティブ志向がなぜ健康を増進するのかを理解し、自分に適した実践方法を考える
	到達目標	ポジティブ心理学的な介入法について理解する	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	解剖学Ⅴ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	吉元 拓也	E-mail			実施時期	2 年 前期	

授業の目的							
解剖学は生理学とともに医学分野の基礎となる学問と考えられます。この科目では、身体の諸器官を連絡・調整している神経系の中でも特に高次機能を担う中枢神経系、外部からの刺激を受け取る感覚器に対する知識を身につけることを目的とします。							
到達目標							
神経系の基礎を説明できる。 脳・脊髄を説明できる。 感覚器系を説明できる。 伝導路を説明できる。							
授業の内容							
中枢神経系について学びます。 感覚器系について学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。							
注意事項							
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退席は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。							
成績評価							
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。							
テキスト							
解剖学 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 岸清、石塚寛編 南江堂							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
曜日： 時間： 時 分～ 時 分							
授業時間外の学習について							
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、神経系の基礎1 神経系の区分と特徴、神経組織について学ぶ	神経系の区分と特徴、神経組織を復習する
	到達目標	神経系の区分と特徴、神経組織を説明できる	
2	授業内容	神経系の基礎2、中枢神経系1 髄膜と脳室系、大脳皮質について学ぶ	頭蓋・脊柱を予習しておく 髄膜と脳室系、大脳皮質を復習する
	到達目標	髄膜と脳室系、大脳皮質を説明できる	
3	授業内容	中枢神経系2 大脳皮質について学ぶ	大脳皮質の区分を予習しておく 大脳皮質を復習する
	到達目標	大脳皮質を説明できる	
4	授業内容	中枢神経系3 大脳髄質、大脳核について学ぶ	神経系の特徴を予習しておく 大脳髄質、大脳核を復習する
	到達目標	大脳髄質、大脳核を説明できる	
5	授業内容	中枢神経系4 間脳・中脳・橋について学ぶ	神経組織、大脳髄質を予習しておく 間脳・中脳・橋を復習する
	到達目標	間脳・中脳・橋を説明できる	
6	授業内容	中枢神経系5 延髄・小脳について学ぶ	神経組織を予習しておく 延髄・小脳を復習する
	到達目標	延髄・小脳を説明できる	
7	授業内容	中枢神経系6 脊髄について学ぶ	神経組織を予習しておく 脊髄を復習する
	到達目標	脊髄を説明できる	
8	授業内容	感覚器系1 外皮について学ぶ	組織を予習しておく 外皮を復習する
	到達目標	外皮を説明できる	
9	授業内容	感覚器系2 視覚器について学ぶ	頭蓋骨を予習しておく 視覚器を復習する
	到達目標	視覚器を説明できる	
10	授業内容	感覚器系3 視覚器、平衡聴覚器について学ぶ	頭蓋骨、大脳皮質を予習しておく 視覚器、平衡聴覚器を復習する
	到達目標	視覚器、平衡聴覚器を説明できる	
11	授業内容	感覚器系4 平衡聴覚器について学ぶ	頭蓋骨、大脳皮質を予習しておく 平衡聴覚器を復習する
	到達目標	平衡聴覚器を説明できる	
12	授業内容	感覚器系5、伝導路1 味覚器・嗅覚器、反射路について学ぶ	頭蓋、内臓系を予習しておく 味覚器・嗅覚器、反射路を復習する
	到達目標	味覚器・嗅覚器、反射路を説明できる	
13	授業内容	伝導路2 上行性伝導路について学ぶ	脳・脊髄を予習しておく 上行性伝導路を復習する
	到達目標	上行性伝導路を説明できる	
14	授業内容	伝導路3 下行性伝導路について学ぶ	脳・脊髄を予習しておく 下行性伝導路を復習する
	到達目標	下行性伝導路を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	解剖学Ⅵ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	吉元 拓也	E-mail		実施時期	2 年 後期		

授業の目的							
解剖学は生理学とともに医学分野の基礎となる学問と考えられます。この科目では、身体の諸器官を連絡・調整している神経系の中でも特に中枢神経と身体各部を結びつける末梢神経系に対する知識を身につけることを目的とします。							
到達目標							
脳・脊髄神経を説明できる。 自律神経を説明できる。 末梢神経の分布を説明できる。							
授業の内容							
末梢神経系について学びます。 筋・皮膚・内臓への分布について学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。							
注意事項							
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退席は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。							
成績評価							
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。							
テキスト							
解剖学 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 岸清、石塚寛編 南江堂							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
曜日： 時間： 時 分～ 時 分							
授業時間外の学習について							
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、末梢神経の基礎、脳神経1 末梢神経・脳神経の概要、第Ⅰ・Ⅱ脳神経について学ぶ	末梢神経・脳神経の概要、第Ⅰ・Ⅱ脳神経を復習する
	到達目標	末梢神経・脳神経の概要、第Ⅰ・Ⅱ脳神経を説明できる	
2	授業内容	脳神経2 第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ脳神経について学ぶ	頭蓋、視覚器を予習しておく 第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ脳神経を復習する
	到達目標	第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ脳神経を説明できる	
3	授業内容	脳神経3 第Ⅶ・Ⅷ脳神経について学ぶ	頭蓋、顔面の筋、平衡聴覚器を予習しておく 第Ⅶ・Ⅷ脳神経を復習する
	到達目標	第Ⅶ・Ⅷ脳神経を説明できる	
4	授業内容	脳神経4 第Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ脳神経について学ぶ	頭蓋、内臓、頭頸部の筋を予習しておく 第Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ脳神経を復習する
	到達目標	第Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ脳神経を説明できる	
5	授業内容	脊髄神経1 脊髄神経の概要、頸神経叢について学ぶ	脊柱・脊髄、脊柱の筋、頸部の筋を予習しておく 脊髄神経の概要、頸神経叢を復習する
	到達目標	脊髄神経の概要、頸神経叢を説明できる	
6	授業内容	脊髄神経2 腕神経叢について学ぶ	上肢の筋を予習しておく 腕神経叢を復習する
	到達目標	腕神経叢を説明できる	
7	授業内容	脊髄神経3 腕神経叢について学ぶ	上肢の筋を予習しておく 腕神経叢を復習する
	到達目標	腕神経叢を説明できる	
8	授業内容	脊髄神経4 腕神経叢、胸神経について学ぶ	上肢・胸腹部の筋を予習しておく 腕神経叢、胸神経を復習する
	到達目標	腕神経叢、胸神経を説明できる	
9	授業内容	脊髄神経5 腰神経叢について学ぶ	下肢の筋を予習しておく 腰神経叢を復習する
	到達目標	腰神経叢を説明できる	
10	授業内容	脊髄神経6 仙骨神経叢について学ぶ	下肢の筋を予習しておく 仙骨神経叢を復習する
	到達目標	仙骨神経叢を説明できる	
11	授業内容	脊髄神経7 陰部神経叢、デルマトームなどについて学ぶ	ここまでの脳脊髄神経を予習しておく 陰部神経叢、デルマトームなどを復習する
	到達目標	陰部神経叢、デルマトームなどを説明できる	
12	授業内容	自律神経1 自律神経の基礎、交感神経について学ぶ	内臓系を予習しておく 自律神経の基礎、交感神経を復習する
	到達目標	自律神経の基礎、交感神経を説明できる	
13	授業内容	自律神経2 副交感神経、関連痛について学ぶ	内臓系を予習しておく 副交感神経、関連痛を復習する
	到達目標	副交感神経、関連痛を説明できる	
14	授業内容	まとめ1 本講義の内容について復習する	本講義の内容を復習する
	到達目標	本講義の内容を説明できる	
15	授業内容	まとめ2(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	局所解剖学	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	吉田 勲生	E-mail			実施時期	2 年	前期

授業の目的							
柔道整復師の施術と鑑別に必要な各部の構造と機能を学び、学んだ内容が柔道整復学・実技に生かされることを目的とします。							
到達目標							
各部の骨・筋・関節・神経・血管等を説明できる。 各構造物の位置関係を説明できる。 構造物の機能の概要を説明できる。							
授業の内容							
構造物を各部に分けて学習する。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。							
注意事項							
教科書、筆記用具、ノート、配布プリントを持参してください。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退室は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。							
成績評価							
出席日数が授業日数の 2/3 に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。 成績は期末試験にて評価し 60 点以上で合格となります。							
テキスト							
解剖学 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 岸清、石塚寛編 南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
曜日： 時間： 時 分～ 時 分							
授業時間外の学習について							
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのまませず、必ず質問に来てください。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、背部・腰部1 背部・腰部の解剖と機能について学ぶ	背部・腰部の解剖と機能を復習する
	到達目標	背部・腰部の解剖と機能を説明できる	
2	授業内容	腰部2・足部1 腰部・足部の解剖と機能について学ぶ	腰部・足部の解剖を予習しておく 腰部・足部の解剖と機能を復習する
	到達目標	腰部・足部の解剖と機能を説明できる	
3	授業内容	足部2・前腕部 足部・前腕部の解剖と機能について学ぶ	足部・前腕部の解剖を予習しておく 足部・前腕部と機能を復習する
	到達目標	足部・前腕部の解剖と機能を説明できる	
4	授業内容	骨盤部 骨盤部の解剖と機能を学ぶ	骨盤部の解剖を予習しておく 骨盤部の解剖と機能を復習する
	到達目標	骨盤部の解剖と機能を説明できる	
5	授業内容	手関節 手関節の解剖と機能を学ぶ	手関節の解剖を予習しておく 手関節の解剖と機能を復習する
	到達目標	手関節の解剖と機能を説明できる	
6	授業内容	股関節 股関節の解剖と機能、体表解剖について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 股関節の解剖と機能、体表解剖を復習する
	到達目標	股関節の解剖と機能、体表解剖を説明できる	
7	授業内容	手指部 手指部の解剖と機能について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 手指部の解剖と機能を復習する
	到達目標	手指部の解剖と機能、体表解剖を説明できる	
8	授業内容	頭頸部 頭頸部の内臓について学ぶ	頭頸部の解剖を予習しておく 頭頸部の内臓を復習する
	到達目標	頭頸部の内臓を説明できる	
9	授業内容	胸部 胸部の内臓について学ぶ	胸部の解剖を予習しておく 胸部の内臓を復習する
	到達目標	胸部の内臓を説明できる	
10	授業内容	腹部 腹部の内臓について学ぶ	腹部の解剖を予習しておく 腹部の内臓を復習する
	到達目標	腹部の内臓を説明できる	
11	授業内容	上肢1 上肢の解剖について復習する	上肢の解剖を予習しておく 上肢の解剖を復習する
	到達目標	上肢の解剖を説明できる	
12	授業内容	上肢2 上肢の解剖について復習する	上肢の解剖を予習しておく 上肢の解剖を復習する
	到達目標	上肢の解剖を説明できる	
13	授業内容	下肢1 下肢の解剖について復習する	下肢の解剖を予習しておく 下肢の解剖を復習する
	到達目標	下肢の解剖を説明できる	
14	授業内容	下肢2 下肢の解剖について学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 下肢の解剖を復習する
	到達目標	下肢の解剖を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	応用生理学	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	齊藤 昌久	E-mail			実施時期	2 年 前期	

授業の目的

高齢者は若年者とは明らかに異なる生理機能を持ちます。また、競技者も競技をしていないものとは生理的特性が異なります。この授業では、柔道整復師として知っておきたい高齢者の生理的特徴や変化、高齢期特有の疾患・障害、競技者の外傷予防のための運動生理学、競技者の生理的特徴を理解することを目的とします。

到達目標

加齢による身体の変化を説明できる。
 高齢者の生理的特徴を説明できる。
 運動能力の発達を説明できる。
 競技者の生理的特徴を説明できる。

授業の内容

加齢によって起きる細胞・組織・臓器の機能の変化とそれに伴う疾患・障害を学びます。
 成長に伴うからだや運動能力の発達、競技者の生理的特徴・変化を学びます。

注意事項

応用生理学は、通常の生理学を理解した上での応用的な内容となる。そのため、これまでに習った生理学を復習し、十分に理解しておくことが重要となる。

成績評価

本授業での 2/3 以上の出席を学期末試験の受験資格とする。
 成績は学期末試験で評価する。

テキスト

生理学改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 根来英雄・貴邑富久子 著 南江堂
 競技者の外傷予防 全国柔道整復学校協会監修 小林直行・高橋康輝 著 医歯薬出版

参考文献・図書

オフィスアワーについて

本科目の各授業の終了後をオフィスアワーとします。

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、加齢現象 加齢による細胞・水分量の変化について学ぶ	加齢による細胞・水分量の変化を復習する
	到達目標	加齢による細胞・水分量の変化を説明できる	
2	授業内容	高齢者の生理的特徴 1 神経系・運動器系の変化について学ぶ	神経系・運動系を予習しておく 神経系・運動器系の変化を復習する
	到達目標	神経系・運動器系の変化を説明できる	
3	授業内容	高齢者の生理的特徴 2 感覚器系の変化について学ぶ	感覚器系を予習しておく 感覚器系の変化を復習する
	到達目標	感覚器系の変化を説明できる	
4	授業内容	高齢者の生理的特徴 3 循環器系・消化器系の変化について学ぶ	循環器系・消化器系を予習しておく 循環器系・消化器系の変化を復習する
	到達目標	循環器系・消化器系の変化を説明できる	
5	授業内容	高齢者の生理的特徴 4 高齢者に多い疾患・障害について学ぶ	高齢者の特徴を予習しておく 高齢者に多い疾患・障害を復習する
	到達目標	高齢者に多い疾患・障害を理説明できる	
6	授業内容	高齢者の生理的特徴 5 歩行の変化について学ぶ	高齢者の特徴を予習しておく 歩行の変化を復習する
	到達目標	変性、壊死を説明できる	
7	授業内容	高齢者の生理的特徴 6 平衡機能の変化、反応時間について学ぶ	高齢者の特徴を予習しておく 平衡機能の変化、反応時間を復習する
	到達目標	平衡機能の変化、反応時間を説明できる	
8	授業内容	運動能力の発達 1 発育曲線、青年期までの発育の特徴について学ぶ	小児期から青年期までの変化を予習しておく 発育曲線、青年期までの発育の特徴を復習する
	到達目標	発育曲線、青年期までの発育の特徴を説明できる	
9	授業内容	運動能力の発達 2 呼吸循環系機能、運動の影響について学ぶ	呼吸器・循環器を予習しておく 呼吸循環系機能、運動の影響を復習する
	到達目標	呼吸循環系機能、運動の影響を説明できる	
10	授業内容	運動能力の発達 3 運動の発達と習熟について学ぶ	歩行・走行を予習しておく 運動の発達と習熟を復習する
	到達目標	運動の発達と習熟を説明できる	
11	授業内容	競技者の生理的特徴・変化 1 筋・心肺機能の変化について学ぶ	筋・呼吸循環器を予習しておく 筋・心肺機能の変化を復習する
	到達目標	筋・心肺機能の変化を説明できる	
12	授業内容	競技者の生理的特徴・変化 2 神経機構について学ぶ	神経系を予習しておく 神経機構を復習する
	到達目標	神経機構を説明できる	
13	授業内容	競技者の生理的特徴・変化 3 姿勢調節能力について学ぶ	神経系・感覚器系を予習しておく 姿勢調節能力を復習する
	到達目標	姿勢調節能力を説明できる	
14	授業内容	競技者の生理的特徴・変化 4 眼球運動と姿勢制御について学ぶ	神経系・感覚器系を予習しておく 眼球運動と姿勢制御を復習する
	到達目標	眼球運動と姿勢制御を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	運動学	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	奥田 正作	E-mail			実施時期	2 年 後期	

授業の目的							
柔道整復術を施行する上で、体の動きに関して知ることが必要になります。この科目では、体の動きを可能にしている構造とそのメカニズムを身につけることを目的とします。							
到達目標							
身体の構造を説明できる。 姿勢・歩行・発達などを説明できる。							
授業の内容							
身体を動かす仕組みについて学習します。 姿勢・歩行・のメカニズムについて学習します。 運動の発達と学習について学習します。							
注意事項							
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退回は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。							
成績評価							
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。							
テキスト							
運動学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 齋藤宏・鴨下弘著 医歯薬出版株式会社							
参考文献・図書							
解剖学 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 岸清・石塚寛編 医歯薬出版株式会社							
オフィスアワーについて							
曜日： 時間：							
授業時間外の学習について							
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画		授業時間外学習（予習・復習）	
1	授業内容	オリエンテーション、運動の目的・表し方 運動学の目的、運動の表示方法について学ぶ	運動学の目的、運動の表示方法を復習する
	到達目標	運動学の目的、運動の表示方法を説明できる	
2	授業内容	身体運動と力学 身体運動に関する力、構造、運動の法則、仕事、エネルギーについて学ぶ	ベクトル、てこの構造を予習しておく 身体運動に関する力、構造、運動の法則、仕事、エネルギーを復習する
	到達目標	身体運動に関する力、構造、運動の法則、仕事、エネルギーを説明できる	
3	授業内容	運動器の構造と機能 1 骨・関節の構造・機能について学ぶ	骨・関節について予習しておく 骨・関節の構造・機能を復習する
	到達目標	骨・関節の構造・機能を説明できる	
4	授業内容	運動器の構造と機能 2 筋の構造・機能について学ぶ	骨格筋について予習しておく 筋の構造・機能を復習する
	到達目標	筋の構造・機能を説明できる	
5	授業内容	神経の構造と機能 神経細胞、末梢・中枢神経について学ぶ	神経の概要を予習しておく 神経細胞、末梢・中枢神経を復習する
	到達目標	神経細胞、末梢・中枢神経を説明できる	
6	授業内容	運動感覚 感覚と制御機構について学ぶ	感覚器を予習しておく 感覚と制御機構を復習する
	到達目標	感覚と制御機構を説明できる	
7	授業内容	反射と随意運動 反射、連合・共同運動、随意運動について学ぶ	神経と骨格筋を予習しておく 反射、連合・共同運動、随意運動を復習する
	到達目標	反射、連合・共同運動、随意運動を説明できる	
8	授業内容	四肢と体幹の運動 1 上肢の運動について学ぶ	上肢の構造を予習しておく 上肢の運動を復習する
	到達目標	上肢の運動を説明できる	
9	授業内容	四肢と体幹の運動 2 下肢の運動について学ぶ	下肢の構造を予習しておく 下肢の運動を復習する
	到達目標	下肢の運動を説明できる	
10	授業内容	四肢と体幹の運動 3 体幹と脊柱、顔面と頭部の運動について学ぶ	体幹・脊柱・頭部の構造を予習しておく 体幹と脊柱、顔面と頭部の運動を復習する
	到達目標	体幹と脊柱、顔面と頭部の運動を説明できる	
11	授業内容	姿勢 概要、立位姿勢、機能肢位について学ぶ	身体の各部の名称を予習しておく 概要、立位姿勢、機能肢位を復習する
	到達目標	概要、立位姿勢、機能肢位を説明できる	
12	授業内容	歩行 歩行周期、分析、筋活動、代謝、走行、異常歩行について学ぶ	骨・筋を予習しておく 歩行周期、分析、筋活動、代謝、走行、異常歩行を復習する
	到達目標	歩行周期、分析、筋活動、代謝、走行、異常歩行を説明できる	
13	授業内容	運動発達と運動学習 神経組織の成熟と各部の運動発達、運動学習について学ぶ	反射・随意運動を予習しておく 神経組織の成熟と各部の運動発達、運動学習を復習する
	到達目標	神経組織の成熟と各部の運動発達、運動学習を説明できる	
14	授業内容	まとめ 1 本講義の内容について復習をする	本講義の内容を復習する
	到達目標	本講義の内容を説明できる	
15	授業内容	まとめ 2(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	病理学概論 I	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	河井 正隆	E-mail		実施時期	2 年 後期		

授業の目的

基礎的な科目と臨床的な科目をリンクさせ、人体の疾病についての原因と病態を考察するために、基礎的・基本的な病理学的知識を習得することを目的とします。

到達目標

疾病の基本構造を説明できる。
 疾病の病因を説明できる。

授業の内容

基本的な疾病の基本構造について学習します。
 疾病を起こす一般的な病因について、細胞レベルの変化として学習します。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
 途中退出は欠席扱いになることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
 期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

病理学概論 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 関根一郎著 医歯薬出版株式会社

参考文献・図書

適宜、授業の中で紹介します。

オフィスアワーについて

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。
 復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、病理学とは、疾病の一般 病理学の概要、疾病の概要について学ぶ	病理学の概要、疾病の概要を復習 する
	到達目標	病理学の概要、疾病の概要を説明できる	
2	授業内容	病因1 素因について学ぶ	遺伝・免疫を予習しておく 素因を復習する
	到達目標	素因を説明できる	
3	授業内容	病因2 内分泌障害、物理的外因について学ぶ	ホルモン、物理的因子を予習して おく 内分泌障害、物理的外因を復習す る
	到達目標	内分泌障害、物理的外因を説明できる	
4	授業内容	病因3 化学的外因、生物学的外因について学ぶ	化学的・生物学的因子を予習して おく 化学的外因、生物学的外因を復習 する
	到達目標	化学的外因、生物学的外因を説明できる	
5	授業内容	細胞傷害(退行性病変)1 萎縮、変性について学ぶ	細胞構造について予習しておく 萎縮、変性を復習する
	到達目標	萎縮、変性を説明できる	
6	授業内容	細胞傷害(退行性病変)2 変性、壊死について学ぶ	細胞小器官について予習してく おく 変性、壊死を復習する
	到達目標	変性、壊死を説明できる	
7	授業内容	循環障害1 充血、うっ血について学ぶ	血液循環を予習しておく 充血、うっ血を復習する
	到達目標	充血、うっ血を説明できる	
8	授業内容	循環障害2 貧血、虚血について学ぶ	血液成分を予習しておく 貧血、虚血を復習する
	到達目標	貧血、虚血を説明できる	
9	授業内容	循環障害3 出血、血栓について学ぶ	血行動態を予習しておく 出血、血栓を復習する
	到達目標	出血、血栓を説明できる	
10	授業内容	循環障害4 塞栓、梗塞について学ぶ	大循環・小循環を予習しておく 塞栓、梗塞を復習する
	到達目標	塞栓、梗塞を説明できる	
11	授業内容	循環障害5 浮腫、ショックについて学ぶ	全身循環を予習しておく 浮腫、ショックを復習する
	到達目標	浮腫、ショックを説明できる	
12	授業内容	免疫異常・アレルギー1 免疫不全、自己免疫疾患について学ぶ	免疫細胞を予習しておく 免疫不全、自己免疫疾患を復習す る
	到達目標	免疫不全、自己免疫疾患を説明できる	
13	授業内容	免疫異常・アレルギー2 アレルギーについて学ぶ	免疫細胞を予習しておく アレルギーを復習する
	到達目標	アレルギーを説明できる	
14	授業内容	免疫異常・アレルギー3 アレルギーについて学ぶ	免疫細胞を予習しておく アレルギーを復習する
	到達目標	アレルギーを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	病理学概論Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	河井 正隆	E-mail		実施時期	3 年 前期		

授業の目的

基礎的な科目と臨床的な科目をリンクさせ、人体の疾病についての原因と病態を考察するために、基礎的・基本的な病理学的知識を習得することを目的とします。

到達目標

疾病の基本構造を説明できる。
 疾病の病因を説明できる。

授業の内容

基本的な疾病の基本構造について学習します。
 疾病を起こす一般的な病因について、細胞レベルの変化として学習します。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
 途中退出は欠席扱いになることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
 期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

病理学概論 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 関根一郎著 医歯薬出版株式会社

参考文献・図書

適宜、授業の中で紹介します。

オフィスアワーについて

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。
 復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、免疫異常・アレルギー4 移植について学ぶ	免疫のしくみを予習しておく 移植を復習する
	到達目標	移植を説明できる	
2	授業内容	進行性病変と細胞・組織の適応1 肥大・増殖、再生について学ぶ	細胞・組織を予習しておく 肥大・増殖、再生を復習する
	到達目標	肥大・増殖、再生を説明できる	
3	授業内容	進行性病変と細胞・組織の適応2 再生、化生について学ぶ	細胞・組織を予習しておく 再生、化生を復習する
	到達目標	再生、化生を説明できる	
4	授業内容	進行性病変と細胞・組織の適応3 肉芽組織、異物処理について学ぶ	細胞・組織を予習しておく 肉芽組織、異物処理を復習する
	到達目標	肉芽組織、異物処理を説明できる	
5	授業内容	炎症1 炎症の概念、病変について学ぶ	微小循環系を予習しておく 炎症の概念、病変を復習する
	到達目標	炎症の概念、病変を説明できる	
6	授業内容	炎症2 炎症の分類について学ぶ	炎症の滲出物を予習しておく 炎症の分類を復習する
	到達目標	炎症の分類を説明できる	
7	授業内容	炎症3 炎症の分類について学ぶ	炎症の滲出物を予習しておく 炎症の分類を復習する
	到達目標	炎症の分類を説明できる	
8	授業内容	腫瘍1 腫瘍の概念、良性・悪性腫瘍について学ぶ	組織について予習しておく 腫瘍の概念、良性・悪性腫瘍を復習する
	到達目標	腫瘍の概念、良性・悪性腫瘍を説明できる	
9	授業内容	腫瘍2 腫瘍の種類、浸潤について学ぶ	組織について予習しておく 腫瘍の種類、浸潤を復習する
	到達目標	腫瘍の種類、浸潤を説明できる	
10	授業内容	腫瘍3 腫瘍の転移、発生原因について学ぶ	動静脈系、リンパ管系を予習しておく 腫瘍の転移、発生原因を復習する
	到達目標	腫瘍の転移、発生原因を説明できる	
11	授業内容	腫瘍4 腫瘍の分類について学ぶ	内臓器を予習しておく 腫瘍の分類を復習する
	到達目標	腫瘍の分類を説明できる	
12	授業内容	先天性異常1 代謝異常と奇形について学ぶ	遺伝について予習しておく 代謝異常と奇形を復習する
	到達目標	代謝異常と奇形を説明できる	
13	授業内容	先天性異常2 奇形について学ぶ	奇形の原因を予習しておく 奇形を復習する
	到達目標	奇形を説明できる	
14	授業内容	まとめ1 病理学概論を全体的に復習する	病理学概論を全体的に復習する
	到達目標	病理学概論を全体的に説明している	
15	授業内容	まとめ2(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	本授業内容を再度復習する
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験 の有無	有・ 
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	今村 行雄	E-mail		実施時期	2年 後期		

授業の目的

衛生学・公衆衛生学は、人々の疾病予防と健康の保持・増進のための科学であり、活動である。従って保健や医療に従事する者にとっては必須の知識・技術である。この科目では医療従事者である柔道整復師に必要な基本的な内容についての知識を身につけることを目的とします。

到達目標

公衆衛生の概要を説明できる。
健康と疾病との関わりを説明できる。

授業の内容

公衆衛生の概要について学習します。
母子保健、学校保健の概要について学習します。
健康と生活習慣について学習します。
環境衛生について学習します。
疫学、保健統計について学習します。

注意事項

授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止する。
途中無断退出は欠席扱いになることがある。
出席カードの提出を求めます。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となり、出席点として30点が配分される。
さらに、期末試験（選択問題と記述問題）を行い、出席点と併せて100点満点で評価する。
合計点が60点以上で合格とする。

テキスト

衛生学・公衆衛生学 改訂第5版 全国柔道整復学校協会監修 鈴木庄亮著 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画		授業時間外学習（予習・復習）	
1	授業内容	オリエンテーション、歴史と公衆衛生活動 衛生学・公衆衛生学の歴史・公衆衛生活動について学ぶ	衛生学・公衆衛生学の歴史・公衆衛生活動を復習する
	到達目標	衛生学・公衆衛生学の歴史・公衆衛生活動を説明できる	
2	授業内容	健康の概念 健康と生活習慣、健康の測定について学ぶ	健康の定義を予習しておく 健康と生活習慣、健康の定義を復習する
	到達目標	健康と生活習慣、健康の測定を説明できる	
3	授業内容	疾病予防と健康管理 段階による疾病予防と健康管理について学ぶ	疾病の危険因子を予習しておく 段階による疾病予防と健康管理を復習する
	到達目標	段階による疾病予防と健康管理を説明できる	
4	授業内容	環境保健 環境及び環境要因について学ぶ	自然環境を予習しておく 環境及び環境要因を復習する
	到達目標	環境及び環境要因を説明できる	
5	授業内容	公害 大気汚染、水質汚濁について学ぶ	大気・水の組成を予習しておく 大気汚染、水質汚濁を復習する
	到達目標	大気汚染、水質汚濁を説明できる	
6	授業内容	生活環境 上下水道について学ぶ	水質基準を予習しておく 上下水道を復習する
	到達目標	上下水道を説明できる	
7	授業内容	環境問題 地球環境と温暖化等への取り組みについて学ぶ	人口増加・開発を予習しておく 地球環境と温暖化等への取り組みを復習する
	到達目標	地球環境と温暖化等への取り組みを説明できる	
8	授業内容	産業保健 労働災害と職業病について学ぶ	最近の労働条件を予習しておく 労働災害と職業病を復習する
	到達目標	労働災害と職業病を説明できる	
9	授業内容	母子保健 母子保健の指標、行政・対策について学ぶ	ライフサイクルを予習しておく 母子保健の指標、行政・対策を復習する
	到達目標	母子保健の指標、行政・対策を説明できる	
10	授業内容	学校保健 学校保健の組織・管理・教育について学ぶ	学校関係者を予習しておく 学校保健の組織・管理・教育を復習する
	到達目標	学校保健の組織・管理・教育を説明できる	
11	授業内容	成人・高齢者保健 生活習慣病、保健・福祉対策について学ぶ	生活習慣病を予習しておく 生活習慣病、保健・福祉対策を復習する
	到達目標	生活習慣病、保健・福祉対策を説明できる	
12	授業内容	疫学1 疫学の意義、調査方法について学ぶ	疫学について予習しておく 疫学の意義、調査方法を復習する
	到達目標	疫学の意義、調査方法を説明できる	
13	授業内容	疫学2 疫学の意義、調査方法について学ぶ	疫学について予習しておく 疫学の意義、調査方法を復習する
	到達目標	疫学の意義、調査方法を説明できる	
14	授業内容	保健統計 集団の把握、健康指標について学ぶ	疫学の調査方法を予習しておく 集団の把握、健康指標を復習する
	到達目標	集団の把握、健康指標を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	今村 行雄	E-mail			実施時期	3 年	前期

授業の目的

衛生学・公衆衛生学は、人々の疾病予防と健康の保持・増進のための科学であり、活動である。従って保健や医療に従事する者にとっては必須の知識・技術である。この科目では医療従事者である柔道整復師に必要な基本的な内容についての知識を身につけることを目的とします。

到達目標

公衆衛生の概要を説明できる。
健康と疾病との関わりを説明できる。

授業の内容

感染症について学習します。
食品と疾病について学習します。

注意事項

授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止する。
途中無断退出は欠席扱いになることがある。
出席カードの提出を求めます。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となり、出席点として 30 点が配分される。
さらに、期末試験（選択問題と記述問題）を行い、出席点と併せて 100 点満点で評価する。合計点が 60 点以上で合格とする。

テキスト

衛生学・公衆衛生学 改訂第 5 版 全国柔道整復学校協会監修 鈴木庄亮著 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日： 木曜日
時間： 授業終了後 10 分間

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画		授業時間外学習（予習・復習）	
1	授業内容	オリエンテーション、感染症 1 微生物概論	病原微生物を予習しておく 病原微生物を復習する
	到達目標	感病原微生物を説明できる	
2	授業内容	感染症 2 パンデミックについて学ぶ	病原微生物を予習しておく 病原微生物を復習する
	到達目標	インフルエンザ等を説明できる	
3	授業内容	感染症 3 感染症の発生要因と予防対策について学ぶ	予防の種類を予習しておく 感染症の発生要因と予防対策を 復習する
	到達目標	感染症の発生要因と予防対策を説明できる	
4	授業内容	感染症 4 免疫と予防接種について学ぶ	免疫の種類を予習しておく 免疫と予防接種を復習する
	到達目標	免疫と予防接種を説明できる	
5	授業内容	感染症 5 感染症の類型について学ぶ	病原微生物を予習しておく 感染症の類型を復習する
	到達目標	感染症の類型を説明できる	
6	授業内容	感染症 6 感染症の類型について学ぶ	病原微生物を予習しておく 感染症の類型を復習する
	到達目標	感染症の類型を説明できる	
7	授業内容	感染症 7 感染症の類型について学ぶ	病原微生物を予習しておく 感染症の類型を復習する
	到達目標	感染症の類型を説明できる	
8	授業内容	消毒 消毒の意義と消毒方法について学ぶ	消毒薬を予習しておく 消毒の意義と消毒方法を復習す る
	到達目標	消毒の意義と消毒方法を説明できる	
9	授業内容	食品と疾病 1 栄養素の欠乏または過剰について学ぶ	栄養素について予習しておく 栄養素の欠乏または過剰を復習 する
	到達目標	栄養素の欠乏または過剰を説明できる	
10	授業内容	食品と疾病 2 食中毒の概要について学ぶ	食中毒の種類を予習しておく 食中毒の概要を復習する
	到達目標	食中毒の概要を説明できる	
11	授業内容	食品と疾病 3 微生物性食中毒、細菌学の基礎について学ぶ	病原微生物を予習しておく 微生物性食中毒、細菌学の基礎を 復習する
	到達目標	微生物性食中毒、細菌学の基礎を説明できる	
12	授業内容	食品と疾病 4 細菌性及びウイルス性食中毒について学ぶ	病原微生物を予習しておく 細菌性及びウイルス性食中毒を 復習する
	到達目標	細菌性及びウイルス性食中毒を説明できる	
13	授業内容	食品と疾病 5 寄生虫性食中毒について学ぶ	病原微生物を予習しておく 寄生虫性食中毒を復習する
	到達目標	寄生虫性食中毒を説明できる	
14	授業内容	食品と疾病 6 自然毒及び化学物質性食中毒について学ぶ	カビ・化学物質を予習しておく 自然毒及び化学物質性食中毒を 復習する
	到達目標	自然毒及び化学物質性食中毒を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	一般臨床医学Ⅰ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	児玉 香菜絵	E-mail			実施時期	2 年 後期	

授業の目的							
臨床に欠かせない正確な病態把握、施術の適否の判断、適切な施術法を決定するための基礎的な知識を身につけることを目的とします。							
到達目標							
診察法の内容を説明できる。 診察法を実際に行うことができる。							
授業の内容							
診察に必要な基礎的な知識を学びます。 柔道整復師として必要な主な内科的疾患を学びます。 診察内容と各内科的疾患を結び付けていきます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。							
注意事項							
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退席は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。							
成績評価							
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。							
テキスト							
一般臨床医学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 奈良信雄他著編 医歯薬出版株式会社							
参考文献・図書							
The Merck Manual（世界的に有名な医学テキスト）の日本語訳が無料で閲覧できます： 「 http://merckmanual.jp/mmpej/index.html 」 X 線画像等も無料							
オフィスアワーについて							
曜日： 時間： 時 分～ 時 分							
授業時間外の学習について							
(1)解剖学、生理学、病理学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。(2) 復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなして記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。 予習：講義の範囲の教科書を用いて 45 分程度の予習を行って下さい。わからない語句は事前に調べておく。 復習：小テストにおいて不正解や授業内容に疑問、理解不足な点につき教科書を用いて 45 分程度調べる。また次回の小テストに向け、授業のポイントをまとめる。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、診察概論 診察の意義、診察の進め方について学ぶ	診察の意義、診察の進め方を復習する
	到達目標	診察の意義、診察の進め方を説明できる	
2	授業内容	医療面接、視診1 医療面接の概要、体格・体型、体位・姿勢、栄養状態について学ぶ	運動器の解剖を予習しておく 医療面接の概要、体格・体型、体位・姿勢、栄養状態を復習する
	到達目標	医療面接の概要、体格・体型、体位・姿勢、栄養状態を説明できる	
3	授業内容	視診2 精神状態、不随意運動、麻痺について学ぶ	神経系・筋骨格系を予習しておく 精神状態、不随意運動、麻痺を復習する
	到達目標	精神状態、不随意運動、麻痺を説明できる	
4	授業内容	視診3 運動失調、歩行、皮膚の状態について学ぶ	運動器・皮膚の構造を予習しておく 運動失調、歩行、皮膚の状態を復習する
	到達目標	運動失調、歩行、皮膚の状態を説明できる	
5	授業内容	視診4 頭部・顔面の視診について学ぶ	頭部・顔面を予習しておく 頭部・顔面の視診を復習する
	到達目標	頭部・顔面の視診を説明できる	
6	授業内容	視診5 頸部・胸部・腹部の視診について学ぶ	頸部・胸部・腹部を予習しておく 頸部・胸部・腹部の視診を復習する
	到達目標	頸部・胸部・腹部の視診を説明できる	
7	授業内容	視診6 背部・腰部・四肢の視診について学ぶ	背部・腰部・四肢を予習しておく 背部・腰部・四肢の視診を復習する
	到達目標	背部・腰部・四肢の視診を説明できる	
8	授業内容	打診、聴診 打診・聴診の概要、各部の打診・聴診について学ぶ	胸部・腹部を予習しておく 打診・聴診の概要、各部の打診・聴診を復習する
	到達目標	打診・聴診の概要、各部の打診・聴診を説明できる	
9	授業内容	触診、生命徴候1 触診の概要、各部の触診、体温について学ぶ	内臓の位置を予習しておく 触診の概要、各部の触診、体温を復習する
	到達目標	触診の概要、各部の触診、体温を説明できる	
10	授業内容	生命徴候2、感覚検査1 血圧・脈拍・呼吸、感覚検査の概要について学ぶ	呼吸系・脈管系を予習しておく 血圧・脈拍・呼吸、感覚検査の概要を復習する
	到達目標	血圧・脈拍・呼吸、感覚検査の概要を説明できる	
11	授業内容	感覚検査2、反射検査1 各感覚検査、反射検査の概要について学ぶ	反射の生理を予習しておく 各感覚検査、反射検査の概要を復習する
	到達目標	各感覚検査、反射検査の概要を説明できる	
12	授業内容	反射検査2、検査法 各反射検査、心電図・脳波・筋電図検査について学ぶ	反射の生理を予習しておく 各反射検査、心電図・脳波・筋電図検査を復習する
	到達目標	各反射検査、心電図・脳波・筋電図検査を説明できる	
13	授業内容	呼吸器疾患1 かぜ症候群、気管支炎、肺炎などについて学ぶ	呼吸系を予習しておく かぜ症候群、気管支炎、肺炎などを復習する
	到達目標	かぜ症候群、気管支炎、肺炎などを説明できる	
14	授業内容	呼吸器疾患2 慢性閉塞性肺疾患、肺癌などについて学ぶ	呼吸系を予習しておく 慢性閉塞性肺疾患、肺癌などを復習する
	到達目標	慢性閉塞性肺疾患、肺癌などを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	一般臨床医学Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	児玉 香菜絵	E-mail			実施時期	3 年 前期	

授業の目的
臨床に欠かせない正確な病態把握、施術の適否の判断、適切な施術法を決定するための基礎的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標
代表的な内科的疾患を、主要臓器別に列挙でき、これら内科的疾患の病態生理、診断、治療方法を説明できる。現代医療における主要な課題について説明できる。
授業の内容
柔道整復師として必要な主な内科的疾患を学びます。 診察内容と各内科的疾患を結び付けていきます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退席は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。
テキスト
一般臨床医学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 奈良信雄他著編 医歯薬出版株式会社
参考文献・図書
The Merck Manual（世界的に有名な医学テキスト）の日本語訳が無料で閲覧できます： 「 http://merckmanual.jp/mmpej/index.html 」 X線画像等も無料
オフィスアワーについて
曜日： 時間： 時 分～ 時 分
授業時間外の学習について
(1)解剖学、生理学、病理学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。(2) 復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなして記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。 予習：講義の範囲の教科書を用いて 45 分程度の予習を行って下さい。わからない語句は事前に調べておく。 復習：小テストにおいて不正解や授業内容に疑問、理解不足な点につき教科書を用いて 45 分程度調べる。また次回の小テストに向け、授業のポイントをまとめる。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、循環器疾患1 虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患などについて学ぶ	心臓の解剖を予習しておく 虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患などを復習する
	到達目標	虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患などを説明できる	
2	授業内容	循環器疾患2 心不全、高血圧、動脈瘤、バージャー病などについて学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく 心不全、高血圧、動脈瘤、バージャー病などを復習する
	到達目標	心不全、高血圧、動脈瘤、バージャー病などを説明できる	
3	授業内容	消化器疾患1 食道疾患、胃疾患などについて学ぶ	食道、胃・十二指腸の解剖・機能を復習しておく 食道疾患、胃疾患などを復習する
	到達目標	食道疾患、胃疾患などを説明できる	
4	授業内容	消化器疾患2 虫垂炎、腸疾患などについて学ぶ	小腸・大腸の解剖を予習しておく 虫垂炎、腸疾患などを復習する
	到達目標	虫垂炎、腸疾患などを説明できる	
5	授業内容	消化器疾患3 肝・胆・膵疾患などについて学ぶ	肝・胆・膵の解剖・機能を予習しておく 肝・胆・膵疾患などを復習する
	到達目標	肝・胆・膵疾患などを説明できる	
6	授業内容	代謝疾患1 糖尿病・脂質異常症などについて学ぶ	膵臓の機能を予習しておく 糖尿病・脂質異常症などを復習する
	到達目標	糖尿病・脂質異常症などを説明できる	
7	授業内容	代謝疾患2 メタボリックシンドローム、痛風などについて学ぶ	代謝機能を予習しておく メタボリックシンドローム、痛風などを復習する
	到達目標	メタボリックシンドローム、痛風などを説明できる	
8	授業内容	内分泌疾患1 概要、下垂体疾患、甲状腺疾患などについて学ぶ	内分泌系を予習しておく 概要、下垂体疾患、甲状腺疾患などを復習する
	到達目標	概要、下垂体疾患、甲状腺疾患などを説明できる	
9	授業内容	内分泌疾患2 副腎疾患、褐色細胞腫、性腺疾患などについて学ぶ	内分泌系を予習しておく 副腎疾患、褐色細胞腫、性腺疾患などを復習する
	到達目標	副腎疾患、褐色細胞腫、性腺疾患などを説明できる	
10	授業内容	血液・造血器疾患 赤血球・白血球・リンパ系疾患などについて学ぶ	血液の生理を予習しておく 赤血球・白血球・リンパ系疾患などを復習する
	到達目標	赤血球・白血球・リンパ系疾患などを説明できる	
11	授業内容	腎・尿路疾患 腎・糸球体疾患、尿路疾患などについて学ぶ	泌尿器系を予習しておく 腎・糸球体疾患、尿路疾患などを復習する
	到達目標	腎・糸球体疾患、尿路疾患などを説明できる	
12	授業内容	神経疾患 脳血管障害・腫瘍、パーキンソン病などについて学ぶ	中枢神経を予習しておく 脳血管障害・腫瘍、パーキンソン病などを復習する
	到達目標	脳血管障害・腫瘍、パーキンソン病などを説明できる	
13	授業内容	感染症 感染症の概要、各疾患について学ぶ	病原微生物を予習しておく 感染症の概要、各疾患などを復習する
	到達目標	感染症の概要、各疾患を説明できる	
14	授業内容	リウマチ、膠原病、アレルギー 膠原病・アレルギーの概要、各疾患などについて学ぶ	免疫を予習しておく 膠原病・アレルギーの概要、各疾患などを復習する
	到達目標	膠原病・アレルギーの概要、各疾患などを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	運動傷害学概論	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	秋津 知宏	E-mail		実施時期	2年 後期		

授業の目的

柔道整復師が施術を行う上では、業務外の病態との鑑別も必要となります。この科目ではとくに整形外科領域の疾患の病態及びその診察法・治療法を把握することを目的とします。

到達目標

整形外科的疾患の病態を把握できる。
整形外科的疾患の診察法・治療法を説明できる。

授業の内容

整形外科的疾患の概要及び主要疾患の病態を学びます。
整形外科的疾患の診察法・治療法を学びます。
教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退中は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

整形外科学 改訂第 4 版 全国柔道整復学校協会監修 松下隆・福林徹・田淵健一編 南江堂

参考文献・図書

標準整形外科学 医学書院

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、整形外科的診察法 1 疾患把握に必要な知識について学ぶ	疾患把握に必要な診察を復習する
	到達目標	疾患把握に必要な知識について説明できる	
2	授業内容	整形外科的診察法 2 疾患把握に必要な姿勢・肢長・周径などについて学ぶ	運動器の解剖を予習しておく 疾患把握に必要な診察を復習する
	到達目標	疾患把握に必要な姿勢・肢長・周径などを説明できる	
3	授業内容	整形外科的診察法 3 疾患把握に必要な歩行・拘縮などについて学ぶ	運動器の解剖を予習しておく 疾患把握に必要な診察を復習する
	到達目標	疾患把握に必要な歩行・拘縮などを説明できる	
4	授業内容	整形外科的検査法 1 画像・骨密度・関節鏡・超音波検査などについて学ぶ	骨の構造を予習しておく 整形外科的検査法を復習する
	到達目標	画像・骨密度・関節鏡・超音波検査などを説明できる	
5	授業内容	整形外科的検査法 2 画像・骨密度・関節鏡・超音波検査などについて学ぶ	骨の構造を予習しておく 整形外科的検査法を復習する
	到達目標	画像・骨密度・関節鏡・超音波検査などを説明できる	
6	授業内容	整形外科的検査法 3 画像・骨密度・関節鏡・超音波検査などについて学ぶ	骨の構造を予習しておく 整形外科的検査法を復習する
	到達目標	画像・骨密度・関節鏡・超音波検査などを説明できる	
7	授業内容	整形外科的治療法 整形外科で行われる保存療法・観血療法について学ぶ	骨折・脱臼等の治療法を予習しておく 整形外科的治療法を復習する
	到達目標	整形外科で行われる保存療法・観血療法を説明できる	
8	授業内容	感染性疾患 骨・関節の感染性疾患について学ぶ	骨の構造を予習しておく 骨・関節の感染性疾患を復習する
	到達目標	骨・関節の感染性疾患を説明できる	
9	授業内容	骨腫瘍 骨の悪性・良性腫瘍について学ぶ	骨の構造・感染性疾患を予習しておく 骨の悪性・良性腫瘍を復習する
	到達目標	骨の悪性・良性腫瘍を説明できる	
10	授業内容	軟部腫瘍 運動器の軟部組織の悪性・良性腫瘍について学ぶ	運動器の構造を予習しておく 運動器の軟部組織の悪性・良性腫瘍を復習する
	到達目標	運動器の軟部組織の悪性・良性腫瘍を説明できる	
11	授業内容	全身性骨・軟部疾患 骨系統疾患、神経線維腫症、代謝・内分泌疾患について学ぶ	骨の構造、代謝を予習しておく 骨系統疾患、神経線維腫症、代謝・内分泌疾患を復習する
	到達目標	骨系統疾患、神経線維腫症、代謝・内分泌疾患を説明できる	
12	授業内容	骨端症 1 下肢の骨端症について学ぶ	成長期の骨を予習しておく 下肢の骨端症を復習する
	到達目標	下肢の骨端症を説明できる	
13	授業内容	骨端症 2 上肢、その他の骨端症について学ぶ	成長期の骨を予習しておく 骨端症を復習する
	到達目標	上肢、その他の骨端症を説明できる	
14	授業内容	四肢の循環障害 末梢動脈疾患、レイノー症候群、深部静脈血栓症、静脈瘤について学ぶ	四肢の循環障害を復習する
	到達目標	骨粗鬆症を説明できる	
15	授業内容	まとめ（評価を含む） 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	高齢者傷害学概論	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	秋津 知宏	E-mail			実施時期	3 年	前期

授業の目的

柔道整復師が施術を行う上では、業務外の病態との鑑別も必要となります。この科目ではとくに整形外科領域のとくに高齢者などにみられる疾患、病態及びその診察法・治療法を把握することを目的とします。

到達目標

整形外科的疾患の病態を把握できる。
 整形外科的疾患の診察法・治療法を説明できる。

授業の内容

整形外科的疾患の概要及び主要疾患の病態を学びます。
 整形外科的疾患の診察法・治療法を学びます。
 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
 途中退中は欠席扱いになることがあります。
 課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

整形外科学 改訂第 4 版 全国柔道整復学校協会監修 松下隆・福林徹・田淵健一編 南江堂

参考文献・図書

標準整形外科学 医学書院

オフィスアワーについて

曜日：
 時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 運動傷害学概論Ⅰの復習	運動傷害学概論Ⅰの内容を復習しておく
	到達目標	運動傷害学概論Ⅰの内容を説明できる	
2	授業内容	非感染性疾患 1 変形性関節症・関節リウマチについて学ぶ	関節の構造を予習しておく 変形性関節症・関節リウマチを復習する
	到達目標	変形性関節症・関節リウマチを説明できる	
3	授業内容	非感染性疾患 2 痛風・偽性痛風、血友病性関節症について学ぶ	代謝疾患・血友病を予習しておく 痛風・偽性痛風、血友病性関節症を復習する
	到達目標	痛風・偽性痛風、血友病性関節症を説明できる	
4	授業内容	非感染性疾患 3 離断性骨軟骨炎・関節遊離体・その他の関節症について学ぶ	関節の解剖を予習しておく 離断性骨軟骨炎・関節遊離体・その他の関節症を復習する
	到達目標	離断性骨軟骨炎・関節遊離体・その他の関節症を説明できる	
5	授業内容	非感染性疾患 4 骨粗鬆症について学ぶ	骨の構造・組織を予習しておく 骨粗鬆症を復習する
	到達目標	末梢動脈疾患、レイノー症候群、深部静脈血栓症、静脈瘤を説明できる	
6	授業内容	神経・筋疾患 1 神経麻痺、絞扼性神経障害について学ぶ	末梢神経の走行を予習しておく 神経麻痺、絞扼性神経障害を復習する
	到達目標	神経麻痺、絞扼性神経障害を説明できる	
7	授業内容	神経・筋疾患 2 腕神経叢損傷・分娩麻痺について学ぶ	腕神経叢の構成を予習しておく 腕神経叢損傷・分娩麻痺を復習する
	到達目標	腕神経叢損傷・分娩麻痺を説明できる	
8	授業内容	神経・筋疾患 3 全身性神経・筋疾患、脊髄腫瘍・損傷について学ぶ	脊髄の構造を予習しておく 全身性神経・筋疾患、脊髄腫瘍・損傷を復習する
	到達目標	神経・筋疾患 1 神経麻痺、絞扼性神経障害を説明できる	
9	授業内容	部位別各論 体幹 1 頸部・胸部の損傷・疾患について学ぶ	頸部・胸部の解剖を予習しておく 頸部・胸部の損傷・疾患を復習する
	到達目標	頸部・胸部の損傷・疾患を説明できる	
10	授業内容	部位別各論 体幹 2 腰部の損傷・疾患について学ぶ	腰部の解剖を予習しておく 腰部の損傷・疾患を復習する
	到達目標	腰部の損傷・疾患を説明できる	
11	授業内容	部位別各論 上肢 1 肩関節・肩甲帯の損傷・疾患について学ぶ	上肢の構造を予習しておく 肩関節・肩甲帯の損傷・疾患を復習する
	到達目標	肩関節・肩甲帯の損傷・疾患を説明できる	
12	授業内容	部位別各論 上肢 2 上腕・肘関節の損傷・疾患について学ぶ	上肢の構造を予習しておく 上腕・肘関節の損傷・疾患を復習する
	到達目標	上腕・肘関節の損傷・疾患を説明できる	
13	授業内容	部位別各論 下肢 1 骨盤・股関節の損傷・疾患について学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 骨盤・股関節の損傷・疾患を復習する
	到達目標	骨盤・股関節の損傷・疾患を説明できる	
14	授業内容	部位別各論 下肢 2 大腿・膝関節の損傷・疾患について学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 大腿・膝関節の損傷・疾患を復習する
	到達目標	大腿・膝関節の損傷・疾患を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】


科目名	外科学概論Ⅰ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	角谷 英治	E-mail			実施時期	2 年 後期	

授業の目的							
柔道整復師が施術を行う上では、業務外の病態との鑑別も必要となります。この科目ではとくに外科領域の疾患・損傷とそれに対する対処法・治療法を理解し、柔道整復師として必要な知識を習得することを目的とします。							
到達目標							
外科的疾患・損傷及び対処法・治療法を説明できる。 以上の事項を柔道整復師としての業務に応用できる。							
授業の内容							
外科学の基礎的な内容を学びます。 主要な疾患・損傷の概要を学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。							
注意事項							
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退席は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。							
成績評価							
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。							
テキスト							
外科学概論 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 炭山嘉伸編 南江堂 柔道整復師のための救急医学 全国柔道整復学校協会監修 太田祥一編 南江堂							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
曜日： 時間： 時 分～ 時 分							
授業時間外の学習について							
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、外科学とは、損傷 外科学の概要、損傷の分類、各部の損傷について学ぶ	外科学の概要、損傷の分類、各部の損傷を復習する
	到達目標	外科学の概要、損傷の分類、各部の損傷を説明できる	
2	授業内容	創傷 創傷の処置、感染予防、治療過程について学ぶ	皮膚の構造を予習しておく 創傷の処置、感染予防・治療過程を復習する
	到達目標	創傷の処置、感染予防、治療過程を説明できる	
3	授業内容	熱傷 熱傷の原因・分類、評価、処置・治療、合併症について学ぶ	皮膚の構造を予習しておく 熱傷の原因・分類、評価、処置・治療、合併症を復習する
	到達目標	熱傷の原因・分類、評価、処置・治療、合併症を説明できる	
4	授業内容	炎症と外科感染症 炎症の定義・分類、発症メカニズム、各外科感染症について学ぶ	炎症、病原微生物を予習しておく 炎症の定義・分類、発症メカニズム、各外科感染症を復習する
	到達目標	炎症の定義・分類、発症メカニズム、各外科感染症を説明できる	
5	授業内容	腫瘍 腫瘍の概要、種類・発育形式・症状・診断・治療・疫学について学ぶ	組織・臓器を予習しておく 腫瘍の概要、種類・発育形式・症状・診断・治療・疫学を復習する
	到達目標	腫瘍の概要、種類・発育形式・症状・診断・治療・疫学を説明できる	
6	授業内容	ショック ショックの種類と緊急処置について学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく ショックの種類と緊急処置を復習する
	到達目標	ショックの種類と緊急処置を説明できる	
7	授業内容	輸血・輸液 輸血の概要と実際、一般輸液・高カロリー輸液について学ぶ	体液の成分を予習しておく 輸血の概要と実際、一般輸液・高カロリー輸液を復習する
	到達目標	輸血の概要と実際、一般輸液・高カロリー輸液を説明できる	
8	授業内容	消毒と滅菌 消毒薬の種類、消毒の実際、滅菌方法について学ぶ	病原微生物を予習しておく 消毒薬の種類、消毒の実際、滅菌方法を復習する
	到達目標	消毒薬の種類、消毒の実際、滅菌方法を説明できる	
9	授業内容	手術 手術の準備と各種手術法について学ぶ	皮膚の構造・消毒を予習しておく 手術の準備と各種手術法を復習する
	到達目標	手術の準備と各種手術法を説明できる	
10	授業内容	麻酔 麻酔の概要・準備、全身・局所麻酔について学ぶ	呼吸系・脈管系を予習しておく 麻酔の概要・準備、全身・局所麻酔を復習する
	到達目標	麻酔の概要・準備、全身・局所麻酔を説明できる	
11	授業内容	移植と免疫 移植に関連する用語、代表的臓器移植について学ぶ	血液成分・免疫を予習しておく 移植に関連する用語、代表的臓器移植を復習する
	到達目標	移植に関連する用語、代表的臓器移植を説明できる	
12	授業内容	出血と止血 出血の概要と種類、止血方法について学ぶ	脈管系を予習しておく 出血の概要と種類、止血方法を復習する
	到達目標	出血の概要と種類、止血方法を説明できる	
13	授業内容	心肺蘇生法 意識障害、心肺蘇生法の実際について学ぶ	呼吸系・脈管系を予習しておく 意識障害、心肺蘇生法の実際を復習する
	到達目標	意識障害、心肺蘇生法の実際を説明できる	
14	授業内容	まとめ1 本講義の内容について復習をしていく	
	到達目標	本講義の内容を説明している	
15	授業内容	まとめ2(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	外科学概論Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	角谷 英治	E-mail			実施時期	3年 前期	

授業の目的

柔道整復師が施術を行う上では、業務外の病態との鑑別も必要となります。この科目ではとくに外科領域の疾患・損傷とそれに対する対処法・治療法を理解し、柔道整復師として必要な知識を習得することを目的とします。

到達目標

外科的疾患・損傷及び対処法・治療法を説明できる。
以上の事項を柔道整復師としての業務に応用できる。

授業の内容

外科学の基礎的な内容を学びます。
主要な疾患・損傷の概要を学びます。
教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退回は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

外科学概論 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 炭山嘉伸編 南江堂
柔道整復師のための救急医学 全国柔道整復学校協会監修 太田祥一編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、脳神経外科疾患1 脳神経系の構造、疾患の主要徴候について学ぶ	脳・神経系の構造、疾患の主要徴候を復習する
	到達目標	脳神経系の構造、疾患の主要徴候を説明できる	
2	授業内容	脳神経外科疾患2 中枢性疾患特有の病態、検査について学ぶ	脳・神経系の構造を予習しておく 中枢性疾患特有の病態、検査を復習する
	到達目標	中枢性疾患特有の病態、検査を説明できる	
3	授業内容	脳神経外科疾患3 主な神経性疾患について学ぶ	頭部の構造を予習しておく 主な神経性疾患を復習する
	到達目標	主な神経性疾患を説明できる	
4	授業内容	甲状腺・頸部疾患、胸壁・呼吸器疾患1 甲状腺疾患、頸部疾患、胸部の検査と手術について学ぶ	頸部・胸部の解剖を予習しておく 甲状腺疾患、頸部疾患、胸部の検査と手術を復習する
	到達目標	甲状腺疾患、頸部疾患、胸部の検査と手術を説明できる	
5	授業内容	胸壁・呼吸器疾患2 肺疾患、胸膜疾患、胸部損傷について学ぶ	胸部の構造を予習しておく 肺疾患、胸膜疾患、胸部損傷を復習する
	到達目標	肺疾患、胸膜疾患、胸部損傷を説明できる	
6	授業内容	心臓・脈管疾患1 検査法・手術、先天性心疾患、弁膜症、心膜炎について学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく 検査法・手術、先天性心疾患、弁膜症、心膜炎を復習する
	到達目標	検査法・手術、先天性心疾患、弁膜症、心膜炎を説明できる	
7	授業内容	心臓・脈管疾患2 心筋症、心臓腫瘍、心筋炎、虚血性心疾患について学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく 心筋症、心臓腫瘍、心筋炎、虚血性心疾患を復習する
	到達目標	心筋症、心臓腫瘍、心筋炎、虚血性心疾患を説明できる	
8	授業内容	心臓・脈管疾患3 動脈・静脈疾患について学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく 動脈・静脈疾患を復習する
	到達目標	動脈・静脈疾患を説明できる	
9	授業内容	乳腺疾患 乳腺部の診断・主な疾患について学ぶ	乳腺部の解剖を予習しておく 乳腺部の診断・主な疾患を復習する
	到達目標	乳腺部の診断・主な疾患を説明できる	
10	授業内容	腹部外科疾患1 消化器の解剖と生理について学ぶ	消化器の解剖・機能を予習しておく 消化器の解剖と生理を復習する
	到達目標	消化器の解剖と生理を説明できる	
11	授業内容	腹部外科疾患2 腹部疾患の主な症状について学ぶ	消化器の解剖・機能を予習しておく 腹部疾患の主な症状を復習する
	到達目標	腹部疾患の主な症状を説明できる	
12	授業内容	腹部外科疾患3 腹部疾患の主な検査について学ぶ	消化器の解剖・機能を予習しておく 腹部疾患の主な検査を復習する
	到達目標	腹部疾患の主な検査を説明できる	
13	授業内容	腹部外科疾患4 食道疾患、胃十二指腸疾患、大腸疾患について学ぶ	消化管を予習しておく 食道疾患、胃十二指腸疾患、大腸疾患を復習する
	到達目標	食道疾患、胃十二指腸疾患、大腸疾患を説明できる	
14	授業内容	腹部外科疾患5 肝・胆・膵疾患、その他の腹部外科疾患について学ぶ	消化腺を予習しておく 肝・胆・膵疾患、その他の腹部外科疾患を復習する
	到達目標	肝・胆・膵疾患、その他の腹部外科疾患を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	リハビリテーション 概論	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	木村 篤史	E-mail			実施時期	3 年 前期	

授業の目的

柔道整復師は医療の一端を担う一員として障害に対するリハビリテーションの現場に就職するものもいます。この科目では、様々な職種と協力してリハビリテーションに臨めるように柔道整復師として必要な知識を身につけることを目的とします。

到達目標

リハビリテーション医学の概要を説明できる。
 障害に対する評価法と治療法を説明できる。
 リハビリテーションの実際を説明できる。

授業の内容

リハビリテーション医学の概要・評価法・治療法を学びます。
 リハビリテーションが必要な疾患について学びます。
 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
 途中退中は欠席扱いになることがあります。
 課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

リハビリテーション医学 改訂第 4 版 全国柔道整復学校協会監修 三上真弘編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日： 月曜日
 時間： 授業終了後

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、概論1 リハビリテーションの歴史と日常生活動作について学ぶ	リハビリテーションの歴史と日常生活動作を復習する
	到達目標	リハビリテーションの歴史と日常生活動作を説明できる	
2	授業内容	概論2 国際障害分類と国際生活機能分類について学ぶ	障害の分類を予習しておく 国際障害分類と国際生活機能分類を復習する
	到達目標	国際障害分類と国際生活機能分類を説明できる	
3	授業内容	概論3 障害とそれに対するアプローチについて学ぶ	障害について予習しておく 障害とアプローチを復習する
	到達目標	障害とそれに対するアプローチを説明できる	
4	授業内容	概論4 高齢者を中心とする社会保障制度などについて学ぶ	高齢者医療を予習しておく 運動器の評価を復習する
	到達目標	高齢者を取り巻く環境と制度を説明できる	
5	授業内容	評価 正常発達を含む基本的な評価を学ぶ	基礎的な解剖学用語を予習しておく 基本的な評価を復習する
	到達目標	基本的な評価を説明できる	
6	授業内容	治療1 神経筋疾患に対する評価と治療について学ぶ	神経筋疾患を予習しておく 神経筋疾患の評価と治療を復習する
	到達目標	神経筋疾患に対する評価と治療について説明できる	
7	授業内容	治療2 中枢神経損傷に対する評価と治療について学ぶ	中枢神経損傷を予習しておく 中枢神経損傷に対する評価と治療を復習する
	到達目標	中枢神経損傷に対する評価と治療について説明できる	
8	授業内容	治療3 高次脳機能障害(失語症など)について学ぶ	高次脳機能障害(失語症など)を予習しておく 失語症を復習する
	到達目標	高次脳機能障害(失語症など)について説明できる	
9	授業内容	治療4 高次脳機能障害(失行・失認など)について学ぶ	高次脳機能障害(失行・失認など)を予習しておく 失行・失認について復習する
	到達目標	高次脳機能障害(失行・失認など)について説明できる	
10	授業内容	治療5 構音障害・嚥下について学ぶ	構音障害・嚥下を予習しておく 嚥下のメカニズムを復習する
	到達目標	構音障害・嚥下について説明できる	
11	授業内容	治療6 慢性疼痛について学ぶ	疼痛について予習しておく 慢性疼痛について復習する
	到達目標	慢性疼痛について説明できる	
12	授業内容	治療7 基本的なリハビリテーションの治療技術について学ぶ	リハビリテーション治療技術を予習しておく 基本的なリハビリテーションの治療技術を復習する
	到達目標	基本的なリハビリテーションの治療技術について説明できる	
13	授業内容	治療8 補装具について学ぶ	補装具について予習しておく 補装具について復習する
	到達目標	補装具について説明できる	
14	授業内容	治療9 障害者スポーツについて学ぶ	障害者スポーツを予習しておく 障害者スポーツを復習する
	到達目標	障害者スポーツについて説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	柔道Ⅱ-1	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	吉田 勲生	E-mail			実施時期	2年 前期	

授業の目的

1. 投技・固技の基本的な動きを身につける。
2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができるようにする。
3. 柔道衣の管理や柔道場の安全を確かめるなど、健康や安全に留意する態度がとれるようにする。
4. 受け身の重要性を充分理解し、できるようにする。

到達目標

相手を尊重しながら投技や固技を行うことができるようになる。
安全な柔道ができる環境を理解する。

授業の内容

1. 教員が実技を行いながら口頭で説明する。
2. 教員の説明を理解し、指示された実技を行う。
3. 柔道衣の着方を身につける。
4. 審判規定を理解する。

注意事項

1. 受け身の重要性を充分理解すること。
2. 準備体操を怠らないようにすること。

成績評価

1. 試験期間中に実技試験を行い、その結果と平常の態度（出席、受講態度等）で評価を行う。
2. 総授業回数の4/5以上出席した者を評価の対象とする。1/5以上欠席した者は評価対象外（単位認定の対象外）となるので出席の管理は個人の責任において行うこと。
3. 平常点（出席・態度）20点、実技点80点、合計100点で評価を行う。
4. 実技試験と平常の成績の合計点数が60点以上の者を及第とし単位を認定する。
5. 試験内容は、礼法、前回り受け身、形を行う。
6. 見学者は、授業終了後にレポートを提出すること。当日未提出者については3点減点とする。

テキスト

柔道

参考文献・図書

講道館柔道DVD投の形（講道館）

オフィスアワーについて

曜日：

時間：


授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、柔道Ⅰの復習	受け身を予習しておく 受身を復習する
	到達目標	受身ができている	
2	授業内容	投技・寝技の対人的技能1 投の形（礼法）について学ぶ	投の形を行う時の礼法を予習しておく 礼法を復習する
	到達目標	形演武時の受け身の取り方を理解できる	
3	授業内容	投技・寝技の対人的技能2 投の形（浮落）について学ぶ	浮落を予習しておく 浮落（右）の形を復習する
	到達目標	浮落の取りと受けができる	
4	授業内容	投技・寝技の対人的技能3 投の形（浮落）について学ぶ	浮落を予習しておく 浮落（左）の形を復習しておく
	到達目標	浮落の取りと受けができる	
5	授業内容	投技・寝技の対人的技能4 投の形（背負投）について学ぶ	背負投を予習しておく 背負投（右）の形を復習する
	到達目標	背負投げの取りと受けができる	
6	授業内容	投技・寝技の対人的技能5 投の形（背負投）について学ぶ	背負投を予習しておく 背負投（左）の形を復習する
	到達目標	背負投げの取りと受けができる	
7	授業内容	投技・寝技の対人的技能6 投の形（肩車）について学ぶ	肩車を予習しておく 肩車（右）の形を復習する
	到達目標	肩車の取りと受けができる	
8	授業内容	投技・寝技の対人的技能7 投の形（肩車）について学ぶ	肩車を予習しておく 肩車（左）の形を復習する
	到達目標	肩車の取りと受けができる	
9	授業内容	投技・寝技の対人的技能8 投の形（手技）について学ぶ	浮落を予習しておく 浮落（対人）を復習する
	到達目標	手技の取りと受けができる	
10	授業内容	投技・寝技の対人的技能9 投の形（手技）について学ぶ	背負投を予習しておく 背負投（対人・右）を復習する
	到達目標	手技の取りと受けができる	
11	授業内容	投技・寝技の対人的技能10 投の形（手技）について学ぶ	背負投を予習しておく 背負投（対人・左）を復習する
	到達目標	手技の取りと受けができる	
12	授業内容	投技・寝技の対人的技能11 投の形（手技）について学ぶ	肩車を予習しておく 肩車（対人・右）を復習する
	到達目標	手技の取りと受けができる	
13	授業内容	投技・寝技の対人的技能12 投の形（手技）について学ぶ	肩車を予習しておく 肩車（対人・左）を復習する
	到達目標	手技の取りと受けができる	
14	授業内容	まとめ1 本実習の内容について復習する	本実習の内容について確認・復習をする
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ2 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	柔道Ⅱ-2	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	吉田 勲生	E-mail			実施時期	2年 後期	

授業の目的

1. 投技・固技の基本的な動きを身につける。
2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができるようにする。
3. 受け身の重要性を充分理解し、できるようにする。
4. 初段程度の技量の習得する

到達目標

受身・投技・固め技について初段程度の技量を習得する。
有段者は昇段もしくは形大会入賞レベルの技量を習得する。

授業の内容

1. 教員が実技を行いながら口頭で説明する。
2. 教員の説明を理解し、指示された実技を行う。
3. 形を理解し、指示された実技を行う。

注意事項

1. 受け身の重要性を充分理解すること。
2. 準備体操を怠らないようにすること。

成績評価

1. 試験期間中に実技試験を行い、その結果と平常の態度（出席、受講態度等）で評価を行う。
2. 総授業回数の4／5以上出席した者を評価の対象とする。1／5以上欠席した者は評価対象外（単位認定の対象外）となるので出席の管理は個人の責任において行うこと。
3. 平常点（出席・態度）20点、実技点80点、合計100点で評価を行う。
4. 実技試験と平常の成績の合計点数が60点以上の者を及第とし単位を認定する。
5. 試験内容は、礼法、前回り受け身、形を行う。
6. 見学者は、授業終了後にレポートを提出すること。当日未提出者については3点減点とする。

テキスト

柔道

参考文献・図書

講道館柔道DVD投の形（講道館）

オフィスアワーについて

曜日：

時間：


授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 投の形について学ぶ	受身を予習しておく 投の形を復習する
	到達目標	投の形について理解できる	
2	授業内容	対人的技能 1 投の形（礼法）、（浮落）について学ぶ	浮落を予習する 対人的技能（浮落）を復習する
	到達目標	浮落の受けと取りができる	
3	授業内容	対人的技能 2 投の形（背負投）について学ぶ	背負投を予習しておく 対人的技能（背負投）を復習する
	到達目標	背負投の受けと取りができる	
4	授業内容	対人的技能 3 投の形（肩車）について学ぶ	肩車を予習しておく 対人的技能（肩車）を復習する
	到達目標	肩車の受けと取りができる	
5	授業内容	対人的技能 4 投の形（一本背負投）について学ぶ	一本背負投を予習しておく 対人的技能（一本背負投）を復習する
	到達目標	一本背負投の受けと取りができる	
6	授業内容	対人的技能 5 投の形（浮腰）について学ぶ	浮腰を予習しておく 対人的技能（浮腰）を復習する
	到達目標	浮腰の受けと取りができる	
7	授業内容	対人的技能 6 投の形（釣込腰）について学ぶ	釣込腰を予習しておく対人的技能（釣込腰）を復習する
	到達目標	釣込腰の受けと取りができる	
8	授業内容	対人的技能 7 投の形（払腰）について学ぶ	払腰を予習しておく 対人的技能（払腰）を復習する
	到達目標	払腰の受けと取りができる	
9	授業内容	対人的技能 8 投の形（送足払）について学ぶ	送足払を予習しておく 対人的技能（送足払）を復習する
	到達目標	送足払の受けと取りができる	
10	授業内容	対人的技能 9 投の形（支釣込足）について学ぶ	支釣込足を予習しておく 対人的技能（支釣込足）を復習する
	到達目標	支釣込足の受けと取りができる	
11	授業内容	対人的技能 10 投の形（内股）について学ぶ	内股を予習しておく 対人的技能（内股）を復習する
	到達目標	内股の受けと取りができる	
12	授業内容	対人的技能 11 固の形（袈裟固）について学ぶ	袈裟固を予習しておく 対人的技能（袈裟固）を復習する
	到達目標	袈裟固の受けと取りができる	
13	授業内容	対人的技能 12 固の形（上四方固）について学ぶ	上四方固を予習しておく 対人的技能（上四方固）を復習する
	到達目標	上四方固の受けと取りができる	
14	授業内容	まとめ 1 本実習の内容について復習する	
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ 2(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	柔道Ⅲ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	吉田 勲生	E-mail		実施時期	3 年 前期		

授業の目的							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 認定実技審査までに、投技・形の基本的な動きを身につける。 2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができるようにする。 3. 柔道衣の管理や柔道場の安全を確かめるなど、健康や安全に留意する態度がとれるようにする。 4. 受け身の重要性を充分理解し、できるようにする。 5. 初段程度の技量を習得する。 							
到達目標							
<p>受身・投技・固め技について初段程度の技量を取得する。</p> <p>有段者は昇段もしくは形大会入賞レベルの技量を取得する。</p>							
授業の内容							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員が実技を行いながら口頭で説明する。 2. 教員の説明を理解し、指示された実技を行う。 3. 形を理解し、指示された実技を行う。 4. 乱取り（連続技）を理解し、できるようにする。 							
注意事項							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け身の重要性を充分理解すること。 2. 準備体操を怠らないようにすること。 							
成績評価							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験期間中に実技試験を行い、その結果と平常の態度（出席、受講態度等）で評価を行う。 2. 総授業回数の 4 / 5 以上出席した者を評価の対象とする。1 / 5 以上欠席した者は評価対象外（単位認定の対象外）となるので出席の管理は個人の責任において行うこと。 3. 平常点（出席・態度）20 点、実技点 80 点、合計 100 点で評価を行う。 4. 実技試験と平常の成績の合計点数が 60 点以上の者を及第とし単位を認定する。 5. 試験内容は、礼法、前回り受け身、形を行う。 6. 見学者は、授業終了後にレポートを提出すること。当日未提出者については 3 点減点とする。 							
テキスト							
柔道							
参考文献・図書							
講道館柔道 DVD 投の形（講道館）							
オフィスアワーについて							
授業時間外の学習について							
<p>授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。</p>							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 投の形について学ぶ	投の形を覚えておく 受身を復習する
	到達目標	形の受けができる	
2	授業内容	投の形 1 礼法、浮落について学ぶ	礼法・浮落を予習しておく 礼法・浮落を復習する
	到達目標	礼法と浮落ができる	
3	授業内容	投の形 2 背負投・肩車について学ぶ	背負投・肩車を予習しておく 背負投・肩車を復習する
	到達目標	背負投と肩車ができる	
4	授業内容	投の形 3 浮腰・払腰について学ぶ	浮腰・払腰を予習しておく 浮腰・払腰を復習する
	到達目標	浮腰・払腰ができる	
5	授業内容	投の形 4 釣込腰・送足払について学ぶ	釣込腰・送足払を予習しておく 釣込腰・送足払を復習する
	到達目標	釣込腰・送足払ができる	
6	授業内容	投の形 5 支釣込足・内股について学ぶ	支釣込足・内股を予習しておく 支釣込足・内股を復習する
	到達目標	支釣込足・内股ができる	
7	授業内容	約束乱取り 約束乱取りを行う	投技を予習しておく 礼法・受身・形・乱取を復習する
	到達目標	約束乱取りができる	
8	授業内容	柔道実技 まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
9	授業内容	柔道実技 まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
10	授業内容	柔道実技 まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
11	授業内容	柔道実技 まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
12	授業内容	柔道実技 まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
13	授業内容	柔道実技 まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
14	授業内容	柔道実技 まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
15	授業内容	柔道実技 まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	職業倫理	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	北川 肇	E-mail			実施時期	2 年	後期

授業の目的							
柔道整復師免許取得後は医療の現場で働くこととなります。この科目では医療の現場に必要な医療人としての職業倫理を中心とした倫理を身につけることを目的とします。							
到達目標							
職業倫理について説明できる。 医療人としての職業倫理について説明できる。							
授業の内容							
職業倫理・医療人としての職業倫理を学びます。 グループに分かれ、職業倫理について話し合います。 総意を発表し、それに対し議論をします。							
注意事項							
筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退中は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。							
成績評価							
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。 学期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。							
テキスト							
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 全国柔道整復学校協会							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
曜日： 時間：							
授業時間外の学習について							
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、職業倫理1 職業倫理の概要について学ぶ	職業倫理の概要を復習する
	到達目標	職業倫理の概要を説明できる	
2	授業内容	職業倫理2 医の倫理について学ぶ	医療者の倫理を予習しておく 医の倫理を復習する
	到達目標	医の倫理を説明できる	
3	授業内容	個人情報1 個人情報の概要、法律について学ぶ	個人情報に関する法律を予習しておく 概要、法律を復習する
	到達目標	個人情報の概要、法律を説明できる	
4	授業内容	個人情報2 個人情報と医療との関連について学ぶ	個人情報に関する法律を予習しておく 医療との関連を復習する
	到達目標	個人情報と医療との関連を説明できる	
5	授業内容	守秘義務1 法律、開示について学ぶ	守秘義務に関する法律を予習しておく 法律、開示を復習する
	到達目標	法律、開示を説明できる	
6	授業内容	守秘義務2 SNS などについて学ぶ	守秘義務に関する法律を予習しておく SNSなどを復習する
	到達目標	SNSなどを説明できる	
7	授業内容	インフォームド・コンセント 説明・同意、対象者などについて学ぶ	インフォームド・コンセントに関する法律・宣言を予習しておく インフォームド・コンセントを復習する
	到達目標	説明・同意、対象者などを説明ができる	
8	授業内容	インフォームド・アセント 説明・同意、対象者などについて学ぶ	インフォームド・アセントに関する法律・宣言を予習しておく インフォームド・アセントを復習する
	到達目標	説明・同意、対象者などを説明ができる	
9	授業内容	ハラスメント1 ハラスメントの内容について学ぶ	ハラスメントの種類を予習しておく ハラスメントの内容を復習する
	到達目標	ハラスメントの内容を説明できる	
10	授業内容	ハラスメント2 グループワークを行い、意見を出し合う	ハラスメントについて自分の考えをまとめておく ハラスメントの内容を復習する
	到達目標	ハラスメントの内容を説明できる	
11	授業内容	差別1 障害者・人種などに対する差別について学ぶ	種々の差別について予習しておく 障害者・人種などに対する差別を復習する
	到達目標	障害者・人種などに対する差別を説明できる	
12	授業内容	差別2 グループワークを行い、意見を出し合う	差別に対して自分の考えをまとめておく 差別について復習する
	到達目標	障害者・人種などに対する差別を説明できる	
13	授業内容	尊厳死・安楽死 グループワークを行い、意見を出し合う	死や延命について自分の考えをまとめておく 尊厳死・安楽死を復習する
	到達目標	尊厳死・安楽死を説明できる	
14	授業内容	延命医療 グループワークを行い、意見を出し合う	死や延命について自分の考えをまとめておく 延命医療を復習する
	到達目標	延命医療を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	関係法規	単位数	2 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	田中 健吾	E-mail			実施時期	3 年	前期

授業の目的

現代法は禁止・罰則のためだけのものではなく、社会における人の権利を守ることも目的の一つです。医療の分野においても、安心して安全な医療を享受・提供する上で関係法規は必要不可欠であり、それを知ることを目的とします。

到達目標

柔道整復師および柔道整復に関する法規を説明できる。
医療従事者として必要な法規を説明できる。

授業の内容

柔道整復師の免許・業務に関する法を学習します。
施術所に関する法を学習します。
医療従事者の資格法、医療法、社会福祉・社会保険関係法規を学習します。

注意事項

教科書、筆記用具、ノート、配布プリントを持参してください。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退室は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

出席日数が授業日数の 2/3 に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。
成績は期末試験にて評価し 60 点以上で合格となります。

テキスト

関係法規 ○○○版 全国柔道整復学校協会 監修

参考文献・図書

官報 <https://kanpou.npb.go.jp/index.html>
法令検索 <http://www.e-gov.go.jp/index.html>

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、序論1 法の意義と体系について学ぶ	法の意義と体系を復習する
	到達目標	法の意義と体系を説明できる	
2	授業内容	序論2 患者の権利、医療事故と医療過誤について学ぶ	患者の権利を予習しておく 患者の権利、医療事故と医療過誤を復習する
	到達目標	患者の権利、医療事故と医療過誤を説明できる	
3	授業内容	柔道整復師法1 総則について学ぶ	柔道整復師法を予習しておく 総則を復習する
	到達目標	総則を説明できる	
4	授業内容	柔道整復師法2 免許要件について学ぶ	免許要件を予習しておく 免許要件を復習する
	到達目標	免許要件を説明できる	
5	授業内容	柔道整復師法3 柔道整復師名簿について学ぶ	柔道整復師名簿を予習しておく 柔道整復師名簿を復習する
	到達目標	柔道整復師名簿を説明できる	
6	授業内容	柔道整復師法4 免許証について学ぶ	柔道整復師の免許証を予習しておく 免許証を復習する
	到達目標	免許証を説明できる	
7	授業内容	柔道整復師法5 業務について学ぶ	柔道整復師の業務を予習しておく 業務を復習する
	到達目標	業務を説明できる	
8	授業内容	柔道整復師法6 施術所について学ぶ	施術所を予習しておく 施術所を復習する
	到達目標	施術所を説明できる	
9	授業内容	柔道整復師法7 広告について学ぶ	広告を予習しておく 広告を復習する
	到達目標	広告を説明できる	
10	授業内容	柔道整復師法8 罰則について学ぶ	罰則を予習しておく 罰則を復習する
	到達目標	罰則を説明できる	
11	授業内容	医療従事者の資格法1 医師法について学ぶ	医師法を予習しておく 医師法を復習する
	到達目標	医師法を説明できる	
12	授業内容	医療従事者の資格法2 保健師助産師看護師法他について学ぶ	保健師助産師看護師法を予習しておく 保健師助産師看護師法他を復習する
	到達目標	保健師助産師看護師法他を説明できる	
13	授業内容	関係法規1 医療法について学ぶ	医療法を予習しておく 医療法を復習する
	到達目標	医療法を説明できる	
14	授業内容	関係法規2 社会福祉関係法規について学ぶ	社会保険関係法規を予習しておく 社会保険関係法規を復習する
	到達目標	社会福祉関係法規を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床 コミュニケーション論	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	秋津 知宏	E-mail			実施時期	3 年	後期

授業の目的

柔道整復師が診療するにあたり、必ず問診・医療面接が必要になります。この科目では実際の診療に即した形での問診・医療面接を中心とした診察法と、その注意点や進め方について学び、診察法を身につけることを目的とします。

到達目標

問診・医療面接を実施できる。
 施術録を記載できる。
 医療人としての倫理を理解できる。

授業の内容

問診・医療面接などの診察法と、注意点・進め方などについて学びます。
 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
 途中退出は欠席扱いになることがあります。
 課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
 期末試験(筆記試験)を行い、100 点満点で評価します。
 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂
 一般臨床医学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 奈良信雄他著編 医歯薬出版株式会社

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
 時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、診察1 診察の意義と診断のプロセスについて学ぶ	診察の意義と診断のプロセスを復習する
	到達目標	診察の意義と診断のプロセスを説明できる	
2	授業内容	診察2 診察の進め方について学ぶ	診察について予習しておく 診察の進め方を復習する
	到達目標	診察の進め方を説明できる	
3	授業内容	診察3 診察の注意点について学ぶ	診察について予習しておく 診察の注意点を復習する
	到達目標	診察の注意点を説明できる	
4	授業内容	医療面接1 医療面接の目的について学ぶ	医療面接について予習しておく 医療面接の目的を復習する
	到達目標	医療面接の目的を説明できる	
5	授業内容	医療面接2 医療面接の概要について学ぶ	医療面接について予習しておく 医療面接の概要を復習する
	到達目標	医療面接の概要を説明できる	
6	授業内容	医療面接3 初診患者さんとのコミュニケーションについて学ぶ	医療面接について予習しておく 初診患者さんとのコミュニケーションの仕方を復習する
	到達目標	初診患者さんとのコミュニケーションの仕方を説明できる	
7	授業内容	医療面接4 初診患者さんからの情報収集について学ぶ	医療面接について予習しておく 初診患者さんからの情報収集を復習する
	到達目標	初診患者さんからの情報収集を実施できる	
8	授業内容	医療面接5 再診患者さんとのコミュニケーションについて学ぶ	医療面接について予習しておく 再診患者さんとのコミュニケーションの仕方を復習する
	到達目標	再診患者さんとのコミュニケーションの仕方を説明できる	
9	授業内容	医療面接6 再診患者さんからの情報収集について学ぶ	医療面接について予習しておく 再診患者さんからの情報収集を復習する
	到達目標	再診患者さんからの情報収集を実施できる	
10	授業内容	コミュニケーション技法 円滑なコミュニケーションを行うための技法について学ぶ	初診・再診患者さんとのコミュニケーションを予習しておく コミュニケーション技法を復習する
	到達目標	円滑なコミュニケーションを行うための技法を説明できる	
11	授業内容	施術録 施術録の記載方法について学ぶ	施術録について予習しておく 施術録の記載方法を復習する
	到達目標	施術録を記載することができる	
12	授業内容	医療面接の実際1 課題を与えてグループに分かれてロールプレイを行う	ここまでの授業内容を復習しておく
	到達目標	医療面接をすることができる	
13	授業内容	医療面接の実際2 課題を与えてグループに分かれてロールプレイを行う	ここまでの授業内容を復習しておく
	到達目標	医療面接をすることができる	
14	授業内容	医療面接の実際3 課題を与えてグループに分かれてロールプレイを行う	ここまでの授業内容を復習しておく
	到達目標	医療面接をすることができる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	社会保障制度	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	田中 健吾	E-mail			実施時期	3年 後期	

授業の目的

柔道整復学は開業することが可能であることから医療費等の社会保障制度を理解することにより、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるような知識を身につけることを目的とします。

到達目標

社会保障制度の概要を説明できる。
 柔道整復師が関わる保険制度を説明できる。
 柔道整復師の保険施術料金を計算説明できる。

授業の内容

社会保障制度の概要を学びます。
 柔道整復師が関わる保険制度について学びます。
 保険施術料金を学びます。
 グループに分かれて計算し、解答を導き出します。

注意事項

筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
 途中退出は欠席扱いになることがあります。
 課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 全国柔道整復学校協会

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
 時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、社会保障制度 1 社会保障の概要について学ぶ	社会保障の概要を復習する
	到達目標	社会保障の概要を説明できる	
2	授業内容	社会保障制度 2 社会保険について学ぶ	社会保障制度を予習しておく 社会保険を復習する
	到達目標	社会保険を説明できる	
3	授業内容	社会保障制度 3 社会福祉について学ぶ	社会保障制度を予習しておく 社会福祉を復習する
	到達目標	社会福祉を説明できる	
4	授業内容	社会保障制度 4 公的扶助について学ぶ	社会保障制度を予習しておく 公的扶助を復習する
	到達目標	公的扶助を説明できる	
5	授業内容	社会保障制度 5 保健医療・公衆衛生について学ぶ	社会保障制度を予習しておく 保険医療・公衆衛生を復習する
	到達目標	保健医療・公衆衛生を説明できる	
6	授業内容	医療費 1 医療保険、国民医療費について学ぶ	医療費を予習しておく 医療保険、国民医療費を復習する
	到達目標	医療保険、国民医療費を説明できる	
7	授業内容	医療費 2 保険診療について学ぶ	医療費を予習しておく 保険診療を復習する
	到達目標	保険診療を説明できる	
8	授業内容	医療費 3 医療保険財政について学ぶ	医療費を予習しておく 医療保険財政を復習する
	到達目標	医療保険財政を説明できる	
9	授業内容	医療費 4 診療報酬制度について学ぶ	医療費を予習しておく 診療報酬制度を復習する
	到達目標	診療報酬制度を説明できる	
10	授業内容	医療費 5 柔道整復師が関連する療養費について学ぶ	医療費を予習しておく 柔道整復師が関連する療養費を 復習する
	到達目標	柔道整復師が関連する療養費を説明できる	
11	授業内容	医療費 6 療養費の算定について学ぶ	医療費を予習しておく 療養費の算定を復習する
	到達目標	療養費の算定を説明できる	
12	授業内容	医療費 7 療養費の計算をグループワーク	療養費を予習しておく 療養費の算定を復習する
	到達目標	療養費の計算ができる	
13	授業内容	医療費 8 療養費の計算をグループワーク	療養費を予習しておく 療養費の算定を復習する
	到達目標	療養費の計算ができる	
14	授業内容	医療費 9 労働保険、交通事故の費用について学ぶ。適応・不適応をグ ループワークにおいて話し合う	労働災害・交通事故を予習しておく 労働保険、交通事故の費用を復習 する
	到達目標	労働保険、交通事故の費用、適応・不適応を説明できる	
15	授業内容	まとめ（評価も含む） 本講義の内容について最終的な確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅲ-3	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊦ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	秋津 知宏	E-mail		実施時期	2 年 前期		

授業の目的

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。

到達目標

上肢の損傷について内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解を深める。

授業の内容

肘内障、前腕骨近位部骨折、肘関節軟部組織損傷、前腕骨骨幹部骨折、前腕部軟部組織損傷、前腕骨遠位部骨折の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。

授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。

途中退席は欠席扱いになることがあります。

課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。

学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。

合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

柔道整復学・実技編 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、肘内障、前腕骨近位部骨折1 肘内障、近位部骨折の概要、橈骨近位端部骨折について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 肘内障、橈骨近位端部骨折を復習する
	到達目標	肘内障、近位部骨折の概要、橈骨近位端部骨折を説明できる	
2	授業内容	前腕骨近位部骨折2 橈骨近位端部骨折、肘頭骨折について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 前腕骨近位部骨折を復習する
	到達目標	橈骨近位端部骨折、肘頭骨折を説明できる	
3	授業内容	肘関節軟部組織損傷1 側副靭帯損傷、PLRIについて学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 側副靭帯損傷、PLRIを復習する
	到達目標	側副靭帯損傷、PLRIを説明できる	
4	授業内容	肘関節軟部組織損傷2 野球肘について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 野球肘を復習する
	到達目標	野球肘を説明できる	
5	授業内容	肘関節軟部組織損傷3 テニス肘、肘の疾患について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく テニス肘、肘の疾患を復習する
	到達目標	テニス肘、肘の疾患を説明できる	
6	授業内容	前腕骨骨幹部骨折1 骨幹部骨折の概要、橈骨骨幹部骨折について学ぶ	前腕部の解剖を予習しておく 骨幹部骨折の概要、橈骨骨幹部骨折を復習する
	到達目標	骨幹部骨折の概要、橈骨骨幹部骨折を説明できる	
7	授業内容	前腕骨骨幹部骨折2 ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折について学ぶ	前腕部の解剖を予習しておく ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折を復習する
	到達目標	ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折を説明できる	
8	授業内容	前腕骨骨幹部骨折3 モンテギア骨折、両骨骨幹部骨折の概要・発生機序について学ぶ	前腕部の解剖を予習しておく モンテギア骨折、両骨骨幹部骨折を復習する
	到達目標	モンテギア骨折、両骨骨幹部骨折の概要・発生機序を説明できる	
9	授業内容	前腕骨骨幹部骨折4 両骨骨幹部骨折の転位・症状・合併症・治療について学ぶ	前腕部の解剖を予習しておく 両骨骨幹部骨折の転位・症状・合併症・治療を復習する
	到達目標	両骨骨幹部骨折の転位・症状・合併症・治療を説明できる	
10	授業内容	前腕部軟部組織損傷1 コンパートメント症候群、腱交叉症候群について学ぶ	前腕部の解剖を予習しておく コンパートメント症候群、腱交叉症候群を復習する
	到達目標	コンパートメント症候群、腱交叉症候群を説明できる	
11	授業内容	前腕部軟部組織損傷2 正中神経障害、橈骨神経障害について学ぶ	前腕部の解剖を予習しておく 正中神経障害、橈骨神経障害を復習する
	到達目標	正中神経障害、橈骨神経障害を説明できる	
12	授業内容	前腕部軟部組織損傷3、前腕骨遠位部骨折1 尺骨神経障害、橈骨遠位端部骨折の概要、コーレス骨折の発生機序について学ぶ	前腕部・手関節の解剖を予習しておく 尺骨神経障害、コーレス骨折を復習する
	到達目標	尺骨神経障害、橈骨遠位端部骨折の概要、コーレス骨折の発生機序を説明できる	
13	授業内容	前腕骨遠位部骨折2 コーレス骨折の症状・合併症について学ぶ	手関節の解剖を予習しておく コーレス骨折を復習する
	到達目標	コーレス骨折の症状・合併症を説明できる	
14	授業内容	前腕骨遠位部骨折3 コーレス骨折の治療、スミス骨折について学ぶ	コーレス骨折の転位を予習しておく コーレス骨折、スミス骨折を復習する
	到達目標	コーレス骨折、スミス骨折を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅲ-4	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊦・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務・野球チームトレーナー					
担当者	神内 伸晃	E-mail		実施時期	2年 前期		

授業の目的

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。

到達目標

上肢の損傷について内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解を深める。

授業の内容

前腕骨遠位部骨折、手根骨骨折、手関節脱臼、中手骨骨折、手指部脱臼、指骨骨折、手関節軟部組織損傷の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂
柔道整復学・実技編 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、前腕骨遠位部骨折 4 Barton骨折、ショウファー骨折、骨端線離開について学ぶ	手関節の解剖を予習しておく 橈骨遠位部骨折を復習する
	到達目標	Barton骨折、ショウファー骨折、骨端線離開を説明できる	
2	授業内容	手根骨骨折 1 手根骨骨折の概要、舟状骨骨折について学ぶ	手根骨の構成・解剖を予習しておく 舟状骨骨折を復習する
	到達目標	手根骨骨折の概要、舟状骨骨折を説明できる	
3	授業内容	手根骨骨折 2 三角骨・有鉤骨骨折について学ぶ	手根部の解剖を予習しておく 三角骨・有鉤骨骨折を復習する
	到達目標	三角骨・有鉤骨骨折を説明できる	
4	授業内容	手根骨骨折 3 その他の手根骨骨折について学ぶ	手根部の解剖を予習しておく 手根骨骨折を復習する
	到達目標	その他の手根骨骨折を説明できる	
5	授業内容	手関節部脱臼 1 遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼について学ぶ	手関節の解剖を予習しておく 手関節部脱臼を復習する
	到達目標	遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼を説明できる	
6	授業内容	手関節部脱臼 2 月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼について学ぶ	手根骨の解剖を予習しておく 月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼を復習する
	到達目標	月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼を説明できる	
7	授業内容	中手骨骨折 1 中手骨頭部・頸部・骨幹部骨折について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 中手骨骨折を復習する
	到達目標	中手骨頭部・頸部・骨幹部骨折を説明できる	
8	授業内容	中手骨骨折 2 中手骨骨幹部・基部骨折について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 中手骨骨折を復習する
	到達目標	中手骨骨幹部・基部骨折を説明できる	
9	授業内容	手根中手関節脱臼、指部脱臼 1 手根中手関節脱臼、中手指節関節脱臼について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 手根中手関節脱臼、中手指節関節脱臼を復習する
	到達目標	手根中手関節脱臼、中手指節関節脱臼を説明できる	
10	授業内容	指部脱臼 2 指節間関節脱臼について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 指節間関節脱臼を復習する
	到達目標	指節間関節脱臼を説明できる	
11	授業内容	指骨骨折 1 基節骨骨折について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 基節骨骨折を復習する
	到達目標	基節骨骨折を説明できる	
12	授業内容	指骨骨折 2 中節骨骨折について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 中節骨骨折を復習する
	到達目標	中節骨骨折を説明できる	
13	授業内容	指骨骨折 3 末節骨骨折、マレットフィンガーについて学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 末節骨骨折、マレットフィンガーを復習する
	到達目標	末節骨骨折、マレットフィンガーを説明できる	
14	授業内容	手関節軟部組織損傷 1 TFCC 損傷、ド・ケルバン病について学ぶ	手関節の解剖を予習しておく TFCC 損傷、ド・ケルバン病を復習する
	到達目標	TFCC 損傷、ド・ケルバン病を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について最終的な確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅲ-5	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊟ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務・野球チームトレーナー					
担当者	脇坂 謙三	E-mail		実施時期	2年 後期		

授業の目的

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。

到達目標

上肢及び下肢・体幹の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解を深める。

授業の内容

手関節軟部組織損傷、手指部軟部組織損傷、股関節軟部組織損傷、頸椎骨折・脱臼、頭部・顔面の骨折・軟部組織損傷の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。

授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。

途中退席は欠席扱いになることがあります。

課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。

学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。

合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

柔道整復学・実技編 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、手関節軟部組織損傷 2 神経障害、キーンバック病について学ぶ	手関節の解剖を予習しておく 神経障害、キーンバック病を復習する
	到達目標	神経障害、キーンバック病を説明できる	
2	授業内容	手関節軟部組織損傷 3 マーデルング変形、その他の疾患について学ぶ	手関節の解剖を予習しておく マーデルング変形、その他の疾患を復習する
	到達目標	マーデルング変形、その他の疾患を説明できる	
3	授業内容	手指部軟部組織損傷 1 指の靭帯損傷について学ぶ	指部の解剖を予習しておく 指の靭帯損傷を復習する
	到達目標	指の靭帯損傷を説明できる	
4	授業内容	手指部軟部組織損傷 2 ロッキングフィンガー、ばね指について学ぶ	指部の解剖を予習しておく ロッキングフィンガー、ばね指を復習する
	到達目標	ロッキングフィンガー、ばね指を説明できる	
5	授業内容	手指部軟部組織損傷 3 手指部の拘縮、変形などについて学ぶ	指部の解剖を予習しておく 手指部の拘縮、変形などを復習する
	到達目標	手指部の拘縮、変形などを説明できる	
6	授業内容	股関節軟部組織損傷 2 股関節拘縮、乳児期の疾患について学ぶ	骨盤部・股関節の解剖を予習しておく 股関節拘縮、乳児期の疾患を復習する
	到達目標	股関節拘縮、乳児期の疾患を説明できる	
7	授業内容	股関節軟部組織損傷 3 大腿骨頭すべり症、骨頭壊死、変形性関節症について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 大腿骨頭すべり症、骨頭壊死、変形性関節症を復習する
	到達目標	大腿骨頭すべり症、骨頭壊死、変形性関節症を説明できる	
8	授業内容	頸椎骨折 1 上位頸椎骨折について学ぶ	頸椎の解剖を予習しておく 上位頸椎骨折を復習する
	到達目標	上位頸椎骨折を説明できる	
9	授業内容	頸椎骨折 2、頸椎脱臼 下位頸椎骨折、頸椎脱臼について学ぶ	頸椎の解剖を予習しておく 下位頸椎骨折、頸椎脱臼を復習する
	到達目標	下位頸椎骨折、頸椎脱臼を説明できる	
10	授業内容	頭部・顔面骨折 1 頭蓋冠骨折について学ぶ	頭部・顔面の解剖を予習しておく 頭蓋冠を復習する
	到達目標	頭蓋冠骨折を説明できる	
11	授業内容	頭部・顔面骨折 2 頭蓋底骨折、鼻骨骨折について学ぶ	頭部・顔面の解剖を予習しておく 頭蓋底骨折、鼻骨骨折を復習する
	到達目標	頭蓋底骨折、鼻骨骨折を説明できる	
12	授業内容	頭部・顔面骨折 3 上顎骨骨折、頬骨骨折について学ぶ	頭部・顔面の解剖を予習しておく 上顎骨骨折、頬骨骨折を復習する
	到達目標	上顎骨骨折、頬骨骨折を説明できる	
13	授業内容	頭部・顔面骨折 4、頭部・顔面軟部組織損傷 1 下顎骨骨折、打撲、捻挫について学ぶ	頭部・顔面の解剖を予習しておく 下顎骨骨折、打撲、捻挫を復習する
	到達目標	下顎骨骨折、打撲、捻挫を説明できる	
14	授業内容	頭部・顔面軟部組織損傷 2 顎関節症について学ぶ	頭部・顔面の解剖を予習しておく 顎関節症を復習する
	到達目標	顎関節症を説明できる	
15	授業内容	まとめ（評価も含む） 本講義の内容について最終的な確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅳ-2	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊦ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	奥田 香苗	E-mail		実施時期	2年 前期		

授業の目的							
<p>柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。</p>							
到達目標							
<p>下肢・体幹の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。 画像に対する理解を深める。</p>							
授業の内容							
<p>下腿骨遠位部骨折、足根骨骨折、中足骨骨折、趾骨骨折、足根部損傷、趾脱臼、足趾部軟部組織損傷、胸椎骨折・脱臼、胸背部軟部組織損傷の各論について学びます。</p> <p>教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。</p> <p>なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。</p>							
注意事項							
<p>教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。</p> <p>授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。</p> <p>途中退席は欠席扱いになることがあります。</p> <p>課題の提出を求めることがあります。</p>							
成績評価							
<p>授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。</p> <p>学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。</p> <p>合計点が 60 点以上で合格となります。</p>							
テキスト							
<p>柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂</p> <p>柔道整復学・実技編 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂</p>							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
曜日：							
時間： 時 分～ 時 分							
授業時間外の学習について							
<p>授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。</p>							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、下腿骨遠位部骨折1 果部骨折の概要、足関節脱臼について学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 果部骨折の概要、足関節脱臼を復習する
	到達目標	果部骨折の概要、足関節脱臼を説明できる	
2	授業内容	下腿骨遠位部骨折2 果部骨折外転型・内転型について学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 果部骨折を復習する
	到達目標	果部骨折外転型・内転型を説明できる	
3	授業内容	下腿骨遠位部骨折3、足根骨骨折1 果部骨折軸圧型、距骨骨折について学ぶ	足関節部の解剖を予習しておく 果部骨折、距骨骨折を復習する
	到達目標	果部骨折軸圧型、距骨骨折を説明できる	
4	授業内容	足根骨骨折2 踵骨骨折について学ぶ	足関節部の解剖を予習しておく 踵骨骨折を復習する
	到達目標	踵骨骨折を説明できる	
5	授業内容	足根骨骨折3 舟状骨・立方骨・楔状骨骨折について学ぶ	足趾部の解剖を予習しておく 足根骨骨折を復習する
	到達目標	足根骨骨折を説明できる	
6	授業内容	中足骨骨折 中足骨骨折について学ぶ	足趾部の解剖を予習しておく 中足骨骨折を復習する
	到達目標	中足骨骨折を説明できる	
7	授業内容	趾骨骨折、足根部損傷1 趾骨骨折、横足根関節損傷について学ぶ	足趾部の解剖を予習しておく 趾骨骨折、横足根関節損傷を復習する
	到達目標	趾骨骨折、横足根関節損傷を説明できる	
8	授業内容	足根部損傷2 足根中足関節損傷、扁平足障害について学ぶ	足趾部の解剖を予習しておく 足根中足関節損傷、扁平足障害を復習する
	到達目標	足根中足関節損傷、扁平足障害を説明できる	
9	授業内容	趾脱臼、足趾部軟部組織損傷1 趾脱臼、セーバー病、アキレス腱滑液炎、外脛骨について学ぶ	足趾部の解剖を予習しておく 趾脱臼、セーバー病、アキレス腱滑液炎、外脛骨を復習する
	到達目標	趾脱臼、セーバー病、アキレス腱滑液炎、外脛骨を説明できる	
10	授業内容	足趾部軟部組織損傷2 足底腱膜炎、第1ケーラー病、足根管症候群、前足部の疾患について学ぶ	足趾部の解剖を予習しておく 足底腱膜炎、第1ケーラー病、足根管症候群、前足部の疾患を復習する
	到達目標	足底腱膜炎、第1ケーラー病、足根管症候群、前足部の疾患を説明できる	
11	授業内容	胸椎骨折1 棘突起・椎体骨折について学ぶ	胸背部の解剖を予習しておく 胸椎骨折を復習する
	到達目標	棘突起・椎体骨折を説明できる	
12	授業内容	胸椎骨折2、胸椎脱臼 椎体骨折、脱臼骨折について学ぶ	胸背部の解剖を予習しておく 胸椎骨折・脱臼を復習する
	到達目標	椎体骨折、脱臼骨折を説明できる	
13	授業内容	胸背部軟部組織損傷1 背部軟部組織損傷について学ぶ	胸背部の解剖を予習しておく 背部軟部組織損傷を復習する
	到達目標	背部軟部組織損傷を説明できる	
14	授業内容	胸背部軟部組織損傷2 胸部軟部組織損傷について学ぶ	胸背部の解剖を予習しておく 胸部軟部組織損傷を復習する
	到達目標	胸部軟部組織損傷を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学V-2	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊟・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務・野球チームトレーナー					
担当者	神内 伸晃	E-mail		実施時期	2年 前期		

授業の目的

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。

到達目標

下肢・体幹の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解を深める。

授業の内容

胸部骨折、腰椎骨折・脱臼、腰部軟部組織損傷、骨盤骨骨折、骨盤部疾患、大腿骨近位部骨折、股関節脱臼、股関節軟部組織損傷の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。

授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。

途中退出は欠席扱いになることがあります。

課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。

学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。

合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

柔道整復学・実技編 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、胸部骨折1 肋骨骨折の概要、発生機序・症状について学ぶ	胸部の解剖を予習しておく 肋骨骨折の概要、発生機序・症状を復習する
	到達目標	肋骨骨折の概要、発生機序・症状を説明できる	
2	授業内容	胸部骨折2 肋骨骨折の合併症・治療・予後について学ぶ	胸部の解剖を予習しておく 肋骨骨折を復習する
	到達目標	肋骨骨折の合併症・治療・予後を説明できる	
3	授業内容	胸部骨折3、腰椎骨折1 胸骨骨折、椎体・チャンス・破裂骨折について学ぶ	胸部・腰椎の解剖を予習しておく 胸骨骨折、腰椎骨折を復習する
	到達目標	胸骨骨折、椎体・チャンス・破裂骨折を説明できる	
4	授業内容	腰椎骨折2、腰椎脱臼、腰部軟部組織損傷1 肋骨突起骨折、腰椎脱臼、腰椎捻挫について学ぶ	腰部の解剖を予習しておく 腰椎骨折・脱臼、腰椎捻挫を復習する
	到達目標	肋骨突起骨折、腰椎脱臼、腰椎捻挫を説明できる	
5	授業内容	腰部軟部組織損傷2 腰椎捻挫、腰部の疾患などについて学ぶ	腰部の解剖を予習しておく 腰椎捻挫、腰部の疾患などを復習する
	到達目標	腰椎捻挫、腰部の疾患などを説明できる	
6	授業内容	骨盤骨骨折1 骨盤骨骨折の概要、骨盤骨単独骨折について学ぶ	骨盤部の解剖を予習しておく 骨盤骨骨折を復習する
	到達目標	骨盤骨骨折の概要、骨盤骨単独骨折を説明できる	
7	授業内容	骨盤骨骨折2、骨盤部の疾患 骨盤輪骨折、骨盤部の疾患について学ぶ	骨盤部の構成を予習しておく 骨盤輪骨折、骨盤部の疾患を復習する
	到達目標	骨盤輪骨折、骨盤部の疾患を説明できる	
8	授業内容	大腿骨近位部骨折1 大腿骨近位部骨折の概要、骨頭部骨折、頸部骨折の発生機序について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 骨頭部・頸部骨折を復習する
	到達目標	大腿骨近位部骨折の概要、骨頭部骨折、頸部骨折の発生機序を説明できる	
9	授業内容	大腿骨近位部骨折2 頸部骨折の分類・症状・治療について学ぶ	大腿骨近位部の解剖を予習しておく 頸部骨折を復習する
	到達目標	頸部骨折の分類・症状・治療を説明できる	
10	授業内容	大腿骨近位部骨折3 頸部骨折の合併症、転子部骨折について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 頸部・転子部骨折を復習する
	到達目標	頸部骨折の合併症、転子部骨折を説明できる	
11	授業内容	大腿骨近位部骨折4、股関節脱臼1 転子下骨折、股関節脱臼の概要、後方脱臼の発生機序について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 転子下骨折、股関節脱臼の概要、後方脱臼を復習する
	到達目標	転子下骨折、股関節脱臼の概要、後方脱臼の発生機序を説明できる	
12	授業内容	股関節脱臼2 後方脱臼の症状・治療について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 後方脱臼を復習する
	到達目標	後方脱臼の症状・治療を説明できる	
13	授業内容	股関節脱臼3 前方脱臼、中心性脱臼について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 股関節脱臼を復習する
	到達目標	前方脱臼、中心性脱臼を説明できる	
14	授業内容	股関節部軟部組織損傷1 崙径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 崙径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群を復習する
	到達目標	崙径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊟ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務・野球チームトレーナー					
担当者	棚原 勝平	E-mail		実施時期	2 年 前期		

授業の目的

柔道整復師が業務を行うに際しては、より患者さんに安全なものを提供する必要があります。そのために医用画像は大きな力となります。とくに超音波画像装置は柔道整復師が使用可能な機器であるため重要です。この科目では、各種医用画像機器の概要と主な医用画像について学び、医用画像を理解するとともに、超音波画像装置の使用方法を身につけることを目的とします。

到達目標

医用画像機器の概要を説明できる。
 医用画像について理解できる。
 超音波画像診断装置を使用できる。
 外傷・障害を判断できる。

授業の内容

各種医用画像機器の概要、医用画像、超音波画像診断装置の使用方法について学びます。
 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
 途中退席は欠席扱いになることがあります。
 課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

施術の適応と医用画像の理解 全国柔道整復学校協会監修 細野昇・川口央修著 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
 時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、医用画像、X線 医用画像、放射線、X線について学ぶ	医用画像、放射線、X線を復習する
	到達目標	医用画像、放射線、X線を説明できる	
2	授業内容	X線の撮影法1 各部の撮影と画像について学ぶ	肩関節・肘関節の解剖を予習しておく 各部の撮影と画像を復習する
	到達目標	各部の撮影と画像を説明できる	
3	授業内容	X線の撮影法2 各部の撮影と画像について学ぶ	手関節・膝関節・足関節の解剖を予習しておく 各部の撮影と画像を復習する
	到達目標	各部の撮影と画像を説明できる	
4	授業内容	X線の撮影法3 各部の撮影と画像について学ぶ	股関節・体幹の解剖を予習しておく 各部の撮影と画像を復習する
	到達目標	各部の撮影と画像を説明できる	
5	授業内容	画像のデジタル化 X線画像のデジタル化のシステム・形成・応用について学ぶ	X線について予習しておく デジタル化のシステム・形成・応用を復習する
	到達目標	X線画像のデジタル化のシステム・形成・応用を説明できる	
6	授業内容	CT CTの原理・特性・実際について学ぶ	CTを予習しておく 原理・特性・実際を復習する
	到達目標	CTの原理・特性・実際を説明できる	
7	授業内容	MRI1 MRIの装置・原理・画像形成について学ぶ	MRIを予習しておく 装置・原理・画像形成を復習する
	到達目標	MRIの装置・原理・画像形成を説明できる	
8	授業内容	MRI2 MRIの各種撮影法、手順、留意点について学ぶ	MRIを予習しておく 各種撮影法、手順、留意点を復習する
	到達目標	各種撮影法、手順、留意点を説明できる	
9	授業内容	核医学検査 核医学検査の概要について学ぶ	核医学検査を予習しておく 核医学検査の概要を復習する
	到達目標	核医学検査の概要を説明できる	
10	授業内容	超音波画像装置1 超音波画像装置の原理・装置・特徴について学ぶ	超音波画像装置を予習しておく 原理・装置・特徴を復習する
	到達目標	原理・装置・特徴を説明できる	
11	授業内容	超音波画像装置2 超音波画像装置の使用方法について学ぶ	超音波画像装置を予習しておく 超音波画像装置の使用方法を復習する
	到達目標	超音波画像装置の使用方法を説明できる	
12	授業内容	超音波画像装置3 画像を撮影し、グループワークで画像を検討する	超音波画像を予習しておく 画像を復習する
	到達目標	画像を撮影することができ、画像を説明できる	
13	授業内容	超音波画像装置4 画像を撮影し、グループワークで画像を検討する	超音波画像を予習しておく 画像を復習する
	到達目標	画像を撮影することができ、画像を説明できる	
14	授業内容	超音波画像装置5 画像を撮影し、グループワークで画像を検討する	超音波画像を予習しておく 画像を復習する
	到達目標	画像を撮影することができ、画像を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅲ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊦ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務・接骨院開業（脇坂）					
担当者	脇坂 謙三 奥田 香苗	E-mail		実施時期	2 年 前期		

授業の目的

柔道整復師が行う治療には様々な方法があります。この科目では、その中のいくつかを紹介し、自分で治療を行う段階になった時の一助にすることを目的とします。

到達目標

徒手で行える治療法の種類について説明できる。
治療法の基本動作を説明できる。
治療機序を説明できる。

授業の内容

徒手で行うことができる治療法を数種類紹介し、その簡便な方法と治療機序を学んでいきます。
教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退中は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、後療法 基本の後療法、手技療法の種類と適用・禁忌について学ぶ	基本の後療法、手技療法を復習する
	到達目標	基本の後療法、手技療法を説明できる	
2	授業内容	運動療法 運動療法の種類と適用・禁忌について学ぶ	運動療法を予習しておく 運動療法を復習する
	到達目標	運動療法を説明できる	
3	授業内容	カイロプラクティック1 カイロプラクティックの種類と内容について学ぶ	カイロプラクティックの種類と内容を復習する
	到達目標	カイロプラクティックの種類と内容を説明できる	
4	授業内容	カイロプラクティック2 脊柱と骨盤の解剖・機能について学ぶ	脊柱・骨盤の解剖を予習しておく 脊柱・骨盤の解剖・機能を復習する
	到達目標	脊柱と骨盤の解剖・機能を説明できる	
5	授業内容	カイロプラクティック3 ディバーシファイドテクニックについて学ぶ	脊柱・骨盤の解剖を予習しておく ディバーシファイドテクニックを復習する
	到達目標	ディバーシファイドテクニックを説明できる	
6	授業内容	カイロプラクティック4 ガンステッドテクニックについて学ぶ	脊柱・骨盤の解剖を予習しておく ガンステッドテクニックを復習する
	到達目標	ガンステッドテクニックを説明できる	
7	授業内容	カイロプラクティック5 ガンステッドテクニックについて学ぶ	脊柱・骨盤の解剖を予習しておく ガンステッドテクニックを復習する
	到達目標	ガンステッドテクニックを説明できる	
8	授業内容	カイロプラクティック6 S O Tについて学ぶ	脊柱・骨盤の解剖を予習しておく S O Tを復習する
	到達目標	S O Tを説明できる	
9	授業内容	カイロプラクティック7 A Kについて学ぶ	A Kを復習する
	到達目標	A Kを説明できる	
10	授業内容	美顔マッサージ1 美顔マッサージと顔面・頸部の解剖について学ぶ	美顔マッサージと顔面・頸部の解剖を復習する
	到達目標	美顔マッサージと顔面・頸部の解剖を説明できる	
11	授業内容	美顔マッサージ2 美顔マッサージの方法について学ぶ	顔面・頸部の解剖を予習しておく 美顔マッサージの方法を復習する
	到達目標	美顔マッサージの方法を説明できる	
12	授業内容	ストレッチング1 筋の構造、静的ストレッチについて学ぶ	筋の構造を予習しておく 筋の構造、静的ストレッチを復習する
	到達目標	筋の構造、静的ストレッチを説明できる	
13	授業内容	ストレッチング2 PNFストレッチについて学ぶ	筋の構造を予習しておく PNFストレッチを復習する
	到達目標	PNFストレッチを説明できる	
14	授業内容	A K A 関節包内運動、A K Aについて学ぶ	関節運動を予習しておく 関節包内運動、A K Aを復習する
	到達目標	関節包内運動、A K Aを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅳ-1	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊟ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務・野球チームトレーナー					
担当者	棚原 勝平	E-mail		実施時期	2年 前期		

授業の目的							
柔道整復師に必要な競技者の運動器の機能障害に対する機能回復訓練法の知識を身につけることを目的とします。							
到達目標							
競技者の運動器の機能障害を説明できる。 種々の機能訓練方法を説明できる。							
授業の内容							
臨床に即した形で、種々の訓練方法を、時代背景を踏まえながら学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。							
注意事項							
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退席は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。							
成績評価							
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。							
テキスト							
リハビリテーション医学 改訂第 4 版 全国柔道整復学校協会監修 三上真弘編 南江堂							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
曜日： 時間：							
授業時間外の学習について							
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、機能回復訓練法 訓練法の概要と種類について学ぶ	訓練法の概要と種類を復習する
	到達目標	訓練法の概要と種類を説明できる	
2	授業内容	アスレティックトレーナー アスレティックトレーナーの仕事・役割について学ぶ	トレーナーについて予習しておく アスレティックトレーナーの仕事・役割を復習する
	到達目標	アスレティックトレーナーの仕事・役割を説明できる	
3	授業内容	トレーニングの概要 1 トレーニングについて学ぶ	トレーニングについて予習しておく トレーニングの概要を復習する
	到達目標	トレーニングの概要を説明できる	
4	授業内容	トレーニングの概要 2 トレーニングの原理・原則について学ぶ	トレーニングについて予習しておく トレーニングの原理・原則を復習する
	到達目標	トレーニングの原理・原則を説明できる	
5	授業内容	トレーニングの概要 3 トレーニングの種類について学ぶ	トレーニングについて予習しておく トレーニングの種類について復習する
	到達目標	トレーニングの種類を説明できる	
6	授業内容	スポーツ外傷 1 急性外傷とオーバーユース障害について学ぶ	急性外傷とオーバーユース障害を予習しておく 急性外傷とオーバーユース障害を復習する
	到達目標	急性外傷とオーバーユース障害を説明できる	
7	授業内容	スポーツ外傷 2 スポーツ外傷と間違えやすい症状について学ぶ	スポーツ外傷と間違えやすい症状を予習しておく スポーツ外傷と間違えやすい症状を復習する
	到達目標	スポーツ外傷と間違えやすい症状を説明できる	
8	授業内容	機能障害と筋力低下 スポーツ外傷による機能障害と筋力低下について学ぶ	運動器の評価を予習しておく スポーツ外傷による機能障害と筋力低下を復習する
	到達目標	スポーツ外傷による機能障害と筋力低下を説明できる	
9	授業内容	トレーニング測定法 1 身体構造・計測について学ぶ	トレーニングの概要を復習しておく 身体構造・計測を復習する
	到達目標	身体構造・計測を説明できる	
10	授業内容	トレーニング測定法 2 身体機能について学ぶ	身体計測を予習しておく 身体機能を復習する
	到達目標	身体機能を説明できる	
11	授業内容	トレーニング測定法 3 トレーニングの評価について学ぶ	身体機能を予習しておく トレーニングの評価を復習する
	到達目標	トレーニングの評価を説明できる	
12	授業内容	トレーニング 1 下肢のトレーニングについて学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 下肢のトレーニングを復習する
	到達目標	下肢のトレーニングを説明できる	
13	授業内容	トレーニング 2 体幹のトレーニングについて学ぶ	体幹の解剖を予習しておく 体幹のトレーニングを復習する
	到達目標	体幹のトレーニングを説明できる	
14	授業内容	トレーニング 3 上肢のトレーニングについて学ぶ	上肢の解剖を予習しておく 上肢のトレーニングを復習する
	到達目標	上肢のトレーニングを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅳ-2	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊟ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		元プロ野球トレーナー					
担当者	松元 隆司	E-mail		実施時期	2年 前期		

授業の目的

柔道整復師に必要な外傷による運動器の機能障害に対する機能回復訓練法の知識及び技術を身につけることを目的とします。

到達目標

競技者の運動器の機能障害を説明できる。
種々の機能訓練方法を説明できる。

授業の内容

臨床に即した形で、種々の訓練方法を、時代背景を踏まえながら実技を交えて実施していきます。
教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退席は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

リハビリテーション医学 改訂第 4 版 全国柔道整復学校協会監修 三上真弘編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、関節モビライゼーション 関節モビライゼーションの方法について学ぶ	関節の構造を予習しておく 関節モビライゼーションの方法を復習する
	到達目標	関節モビライゼーションの方法を説明できる	
2	授業内容	P N F P N Fの方法について学ぶ	神経・筋の構造を予習しておく P N Fの方法を復習する
	到達目標	P N Fの方法を説明できる	
3	授業内容	D Y J O C（動的関節制動訓練） D Y J O Cの方法について学ぶ	関節の構造を予習しておく D Y J O Cの方法を復習する
	到達目標	D Y J O Cの方法を説明できる	
4	授業内容	認知運動療法 認知運動療法の方法について学ぶ	脳・伝導路を予習しておく 認知運動療法の方法を復習する
	到達目標	認知運動療法の方法を説明できる	
5	授業内容	痛み 痛みのメカニズムと痛みへのアプローチについて学ぶ	生理学の感覚を予習しておく 痛みのメカニズム・アプローチを復習する
	到達目標	痛みのメカニズムと痛みへのアプローチを説明できる	
6	授業内容	伝統的治療法 スポーツ外傷に対する伝統的治療法について学ぶ	スポーツ外傷を予習しておく 伝統的治療法を復習する
	到達目標	スポーツ外傷に対する伝統的治療法を説明できる	
7	授業内容	損傷 1 脊椎の骨折について学ぶ	脊椎骨折を予習しておく 脊椎骨折の治療と後療法を復習する
	到達目標	脊椎骨折の治療と後療法を説明できる	
8	授業内容	損傷 2 上肢損傷後遺症について学ぶ	上肢損傷を予習しておく 上肢損傷後遺症について復習する
	到達目標	上肢損傷後遺症を説明できる	
9	授業内容	損傷 3 下肢損傷後遺症について学ぶ	下肢損傷を予習しておく 下肢損傷後遺症について復習する
	到達目標	下肢損傷後遺症を説明できる	
10	授業内容	損傷 4 頸肩腕症候群・腰痛について学ぶ	頸肩腕症候群・腰痛を予習しておく 頸肩腕症候群・腰痛を復習する
	到達目標	頸肩腕症候群・腰痛を説明できる	
11	授業内容	部位別訓練法 1 膝のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	膝の構造を予習しておく 膝のスポーツ外傷と訓練法を復習する
	到達目標	膝のスポーツ外傷と訓練法を説明できる	
12	授業内容	部位別訓練法 2 腰のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	腰の構造を予習しておく 腰のスポーツ外傷と訓練法を復習する
	到達目標	腰のスポーツ外傷と訓練法を説明できる	
13	授業内容	部位別訓練法 3 肩のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	肩の構造を予習しておく 肩のスポーツ外傷と訓練法を復習する
	到達目標	肩のスポーツ外傷と訓練法を説明できる	
14	授業内容	後療法の実際 実際の症例を通じて後療法について学ぶ	障害のリハビリテーションについて予習しておく 実際の症例を通じて後療法について復習する
	到達目標	実際の症例を通じて後療法について説明できる	
15	授業内容	まとめ（評価を含む） 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅴ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	⑦・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		実業団チームトレーナー					
担当者	川西 弘晃	E-mail		実施時期	2年 後期		

授業の目的							
スポーツトレーナーの実践内容を紹介し、必要な知識を身につけることを目的とします。							
到達目標							
スポーツトレーナーの補助ができる。							
授業の内容							
各種競技の特性を知り、コンディショニングとケア、コメディカルを学んでいく。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。							
注意事項							
<p>実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。</p> <p>授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。</p> <p>固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。</p> <p>欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。</p> <p>承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。</p>							
成績評価							
<p>受験資格 : 5分の4以上の出席が必要です。</p> <p>評価 : 期末テストに平常点が加味されます。</p>							
テキスト							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
<p>曜日 :</p> <p>時間 :</p>							
授業時間外の学習について							
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション トレーナーの種類と役割について学ぶ	トレーナーの種類と役割を復習する
	到達目標	トレーナーの種類と役割を説明できる	
2	授業内容	柔道1 柔道の特性について学ぶ	柔道について予習しておく 柔道の特性を復習する
	到達目標	柔道の特性を説明できる	
3	授業内容	柔道2 柔道における外傷について学ぶ	柔道について予習しておく 柔道における外傷を復習する
	到達目標	柔道における外傷を説明できる	
4	授業内容	野球1 野球の特性について学ぶ	野球について予習しておく 野球の特性を復習する
	到達目標	野球の特性について説明できる	
5	授業内容	野球2 野球における障害について学ぶ	野球について予習しておく 野球における障害を復習する
	到達目標	野球における障害が説明できる	
6	授業内容	サッカー1 サッカーの特性について学ぶ	サッカーについて予習しておく サッカーの特性を復習する
	到達目標	サッカーの特性を説明できる	
7	授業内容	サッカー2 サッカーにおける外傷について学ぶ	サッカーについて予習しておく サッカーにおける外傷を復習する
	到達目標	サッカーにおける外傷を説明できる	
8	授業内容	ラグビー1 ラグビーの特性について学ぶ	ラグビーについて予習しておく ラグビーの特性を復習する
	到達目標	ラグビーの特性を説明できる	
9	授業内容	ラグビー2 ラグビーにおける外傷について学ぶ	ラグビーについて予習しておく ラグビーにおける外傷を復習する
	到達目標	ラグビーにおける外傷を説明できる	
10	授業内容	陸上競技1 陸上競技の特性について学ぶ	陸上競技について予習しておく 陸上競技の特性を復習する
	到達目標	陸上競技の特性を説明できる	
11	授業内容	陸上競技2 長距離走における障害について学ぶ	長距離走について予習しておく 長距離走における障害を復習する
	到達目標	長距離走における障害を説明できる	
12	授業内容	陸上競技3 短距離走における外傷について学ぶ	短距離走について予習しておく 短距離走における外傷を復習する
	到達目標	短距離走における外傷を説明できる	
13	授業内容	バレーボール バレーボールの特性と障害について学ぶ	バレーボールについて予習しておく バレーボールの特性と障害を復習する
	到達目標	バレーボールの特性と障害を説明できる	
14	授業内容	バスケットボール バスケットボールの特性と障害について学ぶ	バスケットボールについて予習しておく バスケットボールの特性と障害を復習する
	到達目標	バスケットボールの特性と障害を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅵ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	⑦・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		デイサービス勤務・接骨院開業					
担当者	関 寛樹	E-mail		実施時期	3年 前期		

授業の目的

高齢化社会において、介護保険制度は高齢者を支える上で大きな柱となっています。特に介護予防における機能訓練指導員の責務は大きく、柔道整復師はその一員として認められている以上、今後益々 その担い手として介護分野への参画が期待されます。それに伴い、養成校での介護保険制度に対する知識と機能訓練指導員としての技術を習得し、介護業界へ貢献すると共に日本社会における柔道整復師の地位向上へと繋げる事を目的とします。

到達目標

機能訓練指導員として必要な知識を正確に説明でき、業務を行うにあたり実施する運動などを確実に指導できる。

授業の内容

柔道整復師と機能訓練指導(介護保険制度の理解・機能訓練指導員としての知識と技術の習得)について学びます。なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

※医療人として相応しい人間性(知識・技能)の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合がありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、無断での途中退出や早退は「欠席」となります。注意してください。
 ※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
 学期途中に行う確認試験、期末試験(筆記試験)を行い、100 点満点で評価します。
 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復師と機能訓練指導員(機能訓練指導員養成テキスト) 全国柔道整復学校協会監修 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
 時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習(50分程度)を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画		授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	柔道整復師と介護保険との関連を復習する
	到達目標	
2	授業内容	発達と老化を予習しておく 人間の成長・発達と老化に伴う変化を復習する
	到達目標	
3	授業内容	高齢者の疾患を予習しておく 高齢者にみられる疾患を復習する
	到達目標	
4	授業内容	高齢者の疾患について予習しておく 高齢者の疾患を復習する
	到達目標	
5	授業内容	認知症について予習しておく 認知症を復習する
	到達目標	
6	授業内容	介護保険について予習しておく 介護保険制度を復習する
	到達目標	
7	授業内容	居宅介護について予習しておく 居宅介護計画を復習する
	到達目標	
8	授業内容	居宅介護計画について復習しておく 居宅介護計画を復習する
	到達目標	
9	授業内容	ICFについて予習しておく 高齢者介護とICFを復習する
	到達目標	
10	授業内容	介護の予防を予習しておく 介護予防の問題点と対策、その結果を復習する
	到達目標	
11	授業内容	介護の予防を予習しておく 日常生活支援総合事業を復習する
	到達目標	
12	授業内容	ロコモティブシンドロームについて予習しておく ロコモティブシンドロームを復習する
	到達目標	
13	授業内容	機能訓練について予習しておく 機能訓練指導員と機能訓練を復習する
	到達目標	
14	授業内容	機能訓練について予習しておく 機能訓練指導員と機能訓練を復習する
	到達目標	
15	授業内容	
	到達目標	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅶ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊦・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	斎藤 雅高	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的

柔道整復師免許取得後、実際に患者に接するに当たり、必要な診察を行い適切な評価・判断ができるような知識を身につけることを目的とします。

到達目標

診察(医療面接、視診・打診・聴診・触診、その他の検査など)を行うことができる。
 診察の結果を基に評価・判断ができる。
 実際の患者に対する場合に診察できる。

授業の内容

診察方法を学びます。
 診察結果に対し、考えられる病態・疾患を学びます。
 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
 途中退中は欠席扱いになることがあります。
 課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。学期途中に行う確認試験、期末試験(筆記試験)を行い、100 点満点で評価します。
 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

一般臨床医学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 奈良信雄他著 医歯薬出版株式会社
 柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
 時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習(50分程度)を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、医療面接 診察の進め方、医療面接の概要を学ぶ	診察の進め方、医療面接の意義・方法を復習する
	到達目標	診察の進め方、医療面接の概要を説明できる	
2	授業内容	視診1 視診の概要、体格・体型、体位・姿勢について学ぶ	運動器の解剖を予習しておく 視診の意義・方法、体格・体型、体位・姿勢を復習する
	到達目標	視診の概要、体格・体型、体位・姿勢を説明できる	
3	授業内容	視診2 栄養状態、精神状態について学ぶ	運動器の解剖を予習しておく 栄養状態、精神状態を復習する
	到達目標	栄養状態、精神状態を説明できる	
4	授業内容	視診3 異常運動、歩行について学ぶ	神経系・筋骨格系を予習しておく 異常運動、歩行を復習する
	到達目標	異常運動、歩行を説明できる	
5	授業内容	視診4 皮膚の状態について学ぶ	皮膚の構造を予習しておく 皮膚の状態を復習する
	到達目標	皮膚の状態を説明できる	
6	授業内容	視診5 頭部・顔面部の視診、頸部の視診について学ぶ	頭部・顔面部・頸部について予習しておく 頭部・顔面部の視診、頸部の視診を復習する
	到達目標	頭部・顔面部の視診、頸部の視診を説明できる	
7	授業内容	視診6 胸部の視診、腹部の視診について学ぶ	胸部・腹部の解剖を予習しておく 胸部の視診、腹部の視診を復習する
	到達目標	胸部の視診、腹部の視診を説明できる	
8	授業内容	視診7、打診 四肢の視診、打診について学ぶ	四肢の解剖、胸部・腹部の解剖について予習しておく 四肢の視診、打診を復習する
	到達目標	四肢の視診、打診を説明できる	
9	授業内容	聴診、触診 聴診・触診の概要、各部の聴診・触診について学ぶ	内臓の位置などを予習しておく 聴診・触診生命徴候を復習する
	到達目標	聴診・触診を説明できる	
10	授業内容	生命徴候 体温・血圧・脈拍・呼吸について学ぶ	脈管系・呼吸系を予習しておく 生命徴候を復習する
	到達目標	生命徴候を説明できる	
11	授業内容	感覚 感覚検査の概要、各検査法について学ぶ	感覚器を予習しておく 感覚検査のを復習する
	到達目標	感覚検査を説明できる	
12	授業内容	反射 反射の種類、各反射検査法について学ぶ	反射の生理を予習しておく 各反射検査法を復習する
	到達目標	反射検査法を説明できる	
13	授業内容	発熱 発熱の病態生理、熱型、発熱をきたす疾患について学ぶ	発熱の生理を予習しておく 発熱の病態生理、熱型、発熱をきたす疾患を復習する
	到達目標	発熱の病態生理、熱型、発熱をきたす疾患を説明できる	
14	授業内容	検査法 心電図・脳波・筋電図検査などについて学ぶ	心臓・脳・筋を予習しておく 心電図・脳波・筋電図検査などを復習する
	到達目標	心電図・脳波・筋電図検査などを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅷ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	⑦・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務・野球チームトレーナー					
担当者	神内 伸晃	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的

柔道整復師が直面する損傷・疾患には保険適応・適応外を問わず、様々なものがあります。急性期を経過した後には、慢性に移行しないようにしなければなりませんし、正常な機能をいち早く取り戻す必要があります。この科目では、身体を各部に分け、よく見られる損傷・疾患について復習し、それによって低下した機能を回復するための訓練法を身につけることを目的とします。

到達目標

各部の損傷・疾患について説明できる。
 損傷・疾患に対する機能回復訓練法を説明できる。

授業の内容

今まで学習した損傷・疾患の中で、とくに柔道整復師が施術することの多いものについて復習し、それらの機能回復訓練法を学んでいきます。

注意事項

実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。
 授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。
 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。
 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。
 承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。

成績評価

受験資格 : 5分の4以上の出席が必要です。
 評価 : 期末テスト（80%）、中間テスト（20%）に平常点が加味されます。

テキスト

配布資料

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
 時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、肩関節1 肩関節の機能回復について学ぶ	肩関節の機能回復法を復習する
	到達目標	肩関節の機能回復法を説明できる	
2	授業内容	肩関節2 肩関節の機能回復について学ぶ	肩関節の構造・機能を予習しておく 肩関節の機能回復法を復習する
	到達目標	肩関節の機能回復法を説明できる	
3	授業内容	肘関節 肘関節の機能回復について学ぶ	肘関節の構造・機能を予習しておく 肘関節の機能回復法を復習する
	到達目標	肘関節の機能回復法を説明できる	
4	授業内容	手関節 手関節の機能回復について学ぶ	手関節の構造・機能を予習しておく 手関節の機能回復法を復習する
	到達目標	手関節の機能回復法を説明できる	
5	授業内容	指部 指部の機能回復について学ぶ	指部の構造・機能を予習しておく 指部の機能回復法を復習する
	到達目標	指部の機能回復法を説明できる	
6	授業内容	頸部1 頸部の機能回復について学ぶ	頸部の構造・機能を予習しておく 頸部の機能回復法を復習する
	到達目標	頸部の機能回復法を説明できる	
7	授業内容	頸部2 頸部の機能回復について学ぶ	頸部の構造・機能を予習しておく 頸部の機能回復法を復習する
	到達目標	頸部の機能回復法ができる	
8	授業内容	腰部1 腰部の機能回復について学ぶ	腰部の構造・機能を予習しておく 腰部の機能回復法を復習する
	到達目標	腰部の機能回復法を説明できる	
9	授業内容	腰部2 腰部の機能回復について学ぶ	腰部の構造・機能を予習しておく 腰部の機能回復法を復習する
	到達目標	腰部の機能回復法を説明できる	
10	授業内容	股関節 股関節の機能回復について学ぶ	股関節の構造・機能を予習しておく 股関節の機能回復法を復習する
	到達目標	股関節の機能回復法を説明できる	
11	授業内容	膝関節1 膝関節の機能回復について学ぶ	膝関節の構造・機能を予習しておく 膝関節の機能回復法を復習する
	到達目標	膝関節の機能回復法を説明できる	
12	授業内容	膝関節2 膝関節の機能回復について学ぶ	膝関節の構造・機能を予習しておく 膝関節の機能回復法を復習する
	到達目標	膝関節の機能回復法を説明できる	
13	授業内容	足関節1 足関節の機能回復について学ぶ	足関節の構造・機能を予習しておく 足関節の機能回復法を復習する
	到達目標	足関節の機能回復法を説明できる	
14	授業内容	足関節2 足関節の機能回復について学ぶ	足関節の構造・機能を予習しておく 足関節の機能回復法を復習する
	到達目標	足関節の機能回復法を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容についての知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅰ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	脇坂 謙三	E-mail		実施時期	3 年 前期		

授業の目的							
<p>専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。</p>							
到達目標							
<p>柔道整復学とくに上肢を中心とした内容を把握・理解し説明できる。 簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。</p>							
授業の内容							
<p>過去の国家試験問題を解きます。 問題・解答に対する解説をしていきます。 問題に類似した内容を説明していきます。</p>							
注意事項							
<p>教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。</p>							
成績評価							
<p>授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。</p>							
テキスト							
柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
<p>曜日： 時間： 時 分～ 時 分</p>							
授業時間外の学習について							
<p>授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。</p>							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、柔整理論1 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
2	授業内容	柔整理論2 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
3	授業内容	柔整理論3 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
4	授業内容	柔整理論4 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
5	授業内容	柔整理論5 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
6	授業内容	柔整理論6 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
7	授業内容	柔整理論7 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
8	授業内容	柔整理論8 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
9	授業内容	柔整理論9 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
10	授業内容	柔整理論10 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
11	授業内容	柔整理論11 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
12	授業内容	柔整理論12 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
13	授業内容	柔整理論13 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
14	授業内容	柔整理論14 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤 雅高	E-mail			実施時期	3 年	前期

授業の目的

専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。

到達目標

生理学を中心とした内容を把握・理解し説明できる。
簡単な間違いを減らし、正答率を上げることができる。

授業の内容

過去の国家試験問題を解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

生理学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 根来英雄、貴邑富久子編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、生理学1 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
2	授業内容	生理学2 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
3	授業内容	生理学3 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
4	授業内容	生理学4 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
5	授業内容	生理学5 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
6	授業内容	生理学6 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
7	授業内容	生理学7 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
8	授業内容	生理学8 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
9	授業内容	生理学9 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
10	授業内容	生理学10 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
11	授業内容	生理学11 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
12	授業内容	生理学12 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
13	授業内容	生理学13 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
14	授業内容	生理学14 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅲ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	吉田 勲生	E-mail		実施時期	3 年 後期		

授業の目的

専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。

到達目標

解剖学を中心とした内容を把握・理解し説明できる。
簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。

授業の内容

過去の国家試験問題を解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

解剖学 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 岸清・石塚寛編 医歯薬出版株式会社

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、解剖学1 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
2	授業内容	解剖学2 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
3	授業内容	解剖学3 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
4	授業内容	解剖学4 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
5	授業内容	解剖学5 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
6	授業内容	解剖学6 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
7	授業内容	解剖学7 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
8	授業内容	解剖学8 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
9	授業内容	解剖学9 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
10	授業内容	解剖学10 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
11	授業内容	解剖学11 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
12	授業内容	解剖学12 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
13	授業内容	解剖学13 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
14	授業内容	解剖学14 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅳ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤 雅高	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的

専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。

到達目標

柔道整復学とくに下肢・体幹及び総論を中心とした内容を把握・理解し説明できる。
簡単な間違いを減らし、正答率を上げることができる。

授業の内容

過去の国家試験問題を解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退中は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分


授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、柔整理論1 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
2	授業内容	柔整理論2 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
3	授業内容	柔整理論3 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
4	授業内容	柔整理論4 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
5	授業内容	柔整理論5 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
6	授業内容	柔整理論6 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
7	授業内容	柔整理論7 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
8	授業内容	柔整理論8 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
9	授業内容	柔整理論9 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
10	授業内容	柔整理論10 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
11	授業内容	柔整理論11 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
12	授業内容	柔整理論12 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
13	授業内容	柔整理論13 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
14	授業内容	柔整理論14 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅴ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤 雅高 奥田 香苗	E-mail		実施時期	3 年 時間外		

授業の目的	
<p>専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。</p>	
到達目標	
<p>衛生学・公衆衛生学、病理学概論、外科学概論を中心とした内容を把握・理解し説明できる。 簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。</p>	
授業の内容	
<p>過去の国家試験問題を解きます。 問題・解答に対する解説をしていきます。 問題に類似した内容を説明していきます。</p>	
注意事項	
<p>教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。</p>	
成績評価	
<p>授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。</p>	
テキスト	
<p>衛生学・公衆衛生学 改訂第 5 版 全国柔道整復学校協会監修 鈴木庄亮他著 南江堂 病理学概論 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 関根一郎著 医歯薬出版株式会社 外科学概論 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 炭山嘉伸編 南江堂 柔道整復師のための救急医学 全国柔道整復学校協会監修 太田祥一編 南江堂</p>	
参考文献・図書	
オフィスアワーについて	
曜日：	時間： 時 分～ 時 分
授業時間外の学習について	
<p>授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。</p>	

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、衛生学・公衆衛生学 1 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学・公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を説明できる	
2	授業内容	衛生学・公衆衛生学 2 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学・公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を説明できる	
3	授業内容	衛生学・公衆衛生学 3 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学・公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を説明できる	
4	授業内容	衛生学・公衆衛生学 4 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学・公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を説明できる	
5	授業内容	衛生学・公衆衛生学 5 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学・公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を説明できる	
6	授業内容	病理学概論 1 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を説明できる	
7	授業内容	病理学概論 2 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を説明できる	
8	授業内容	病理学概論 3 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を説明できる	
9	授業内容	病理学概論 4 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を説明できる	
10	授業内容	病理学概論 5 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を説明できる	
11	授業内容	外科学概論 1 外科学概論について復習する	外科学概論を復習しておく
	到達目標	外科学概論を説明できる	
12	授業内容	外科学概論 2 外科学概論について復習する	外科学概論を復習しておく
	到達目標	外科学概論を説明できる	
13	授業内容	外科学概論 3 外科学概論について復習する	外科学概論を復習しておく
	到達目標	外科学概論を説明できる	
14	授業内容	外科学概論 4 外科学概論について復習する	外科学概論を復習しておく
	到達目標	外科学概論を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅵ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	神内 伸晃	E-mail			実施時期	3 年 時間外	

授業の目的

専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。

到達目標

一般臨床医学、関係法規を中心とした内容を把握・理解し説明できる。
簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。

授業の内容

過去の国家試験問題を解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

一般臨床医学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 奈良信雄他著編 医歯薬出版株式会社
関係法規 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 前田和彦編著 医歯薬出版株式会社

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、一般臨床医学1 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
2	授業内容	一般臨床医学2 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
3	授業内容	一般臨床医学3 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
4	授業内容	一般臨床医学4 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明ができる	
5	授業内容	一般臨床医学5 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
6	授業内容	一般臨床医学6 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
7	授業内容	一般臨床医学7 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
8	授業内容	一般臨床医学8 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
9	授業内容	一般臨床医学9 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
10	授業内容	一般臨床医学10 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
11	授業内容	関係法規1 関係法規について復習する	関係法規を復習しておく
	到達目標	関係法規を説明できる	
12	授業内容	関係法規2 関係法規について復習する	関係法規を復習しておく
	到達目標	関係法規を説明できる	
13	授業内容	関係法規3 関係法規について復習する	関係法規を復習しておく
	到達目標	関係法規を説明できる	
14	授業内容	関係法規4 関係法規について復習する	関係法規を復習しておく
	到達目標	関係法規を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅶ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	棚原 勝平	E-mail		実施時期	3 年 時間外		

授業の目的

専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。

到達目標

運動学、整形外科学、リハビリテーション医学を中心とした内容を把握・理解し説明できる。
簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。

授業の内容

過去の国家試験問題を解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退席は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

運動学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 齋藤宏・鴨下博著 医歯薬出版株式会社
整形外科学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 松下隆・福林徹・田淵健一編 南江堂
リハビリテーション医学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 三上真弘編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分


授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、運動学1 運動学について復習する	運動学を復習しておく
	到達目標	運動学を説明できる	
2	授業内容	運動学2 運動学について復習する	運動学を復習しておく
	到達目標	運動学を説明できる	
3	授業内容	運動学3 運動学について復習する	運動学を復習しておく
	到達目標	運動学を説明できる	
4	授業内容	運動学4 運動学について復習する	運動学を復習しておく
	到達目標	運動学を説明できる	
5	授業内容	整形外科学1 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を説明できる	
6	授業内容	整形外科学2 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を説明できる	
7	授業内容	整形外科学3 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を説明できる	
8	授業内容	整形外科学4 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を説明できる	
9	授業内容	整形外科学5 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を説明できる	
10	授業内容	リハビリテーション医学1 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を説明できる	
11	授業内容	リハビリテーション医学2 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を説明できる	
12	授業内容	リハビリテーション医学3 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を説明できる	
13	授業内容	リハビリテーション医学4 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を説明できる	
14	授業内容	リハビリテーション医学5 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅷ	単位数	1 単位	授業形態	演習	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤 雅高	E-mail		実施時期	3年 時間外		

授業の目的

専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・消化し、正答率を上げることを目指します。

到達目標

国家試験必修問題を中心とした内容の把握・理解を見直すことができる。
簡単な間違いを減らし、正答率を上げることができる。

授業の内容

過去の国家試験問題を解きます。必修問題出題項目に合わせた様々なタイプの問題を解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退席は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
卒業認定試験（筆記試験）を行い、その点数をもって 100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 必修問題 1 出題項目について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
2	授業内容	必修問題 2 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
3	授業内容	必修問題 3 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
4	授業内容	必修問題 4 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
5	授業内容	必修問題 5 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
6	授業内容	必修問題 6 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
7	授業内容	必修問題 7 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
8	授業内容	必修問題 8 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
9	授業内容	必修問題 9 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
10	授業内容	必修問題 10 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
11	授業内容	必修問題 11 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
12	授業内容	必修問題 12 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
13	授業内容	必修問題 13 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
14	授業内容	必修問題 14 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
15	授業内容	必修問題 15 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復実技 Ⅲ-2	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	④・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務・野球チームトレーナー					
担当者	棚原 勝平	E-mail		実施時期	2年 前期		

授業の目的

柔道整復師として業務を行う上で必要となる上肢の損傷(骨折・脱臼・軟部組織損傷)に対し処置・施術が行えるように、考える力と対応できる能力を身につけることを目的とする。

到達目標

上肢の外傷について、判断・評価・処置ができる。

授業の内容

本科目では肘関節脱臼・肘内障・肘頭骨折・肘関節軟部組織損傷・前腕部軟部組織損傷・コーレス骨折・舟状骨骨折・月状骨脱臼・中手骨頸部骨折・PIP 関節脱臼の施術目的・方法について学習していきます。

また、各部位の整復・固定法を学習していきます。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。

授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。

固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。

欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。

承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。

成績評価

授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。

期末試験を行い、100 点満点で評価します。

欠席－5 点、遅刻・早退－2 点、忘れ物－2 点、その他授業態度などで減点します。

合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

柔道整復学・実技編 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

包帯固定学 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、肘関節脱臼1 肘関節脱臼の固定材料、診察・整復法について学ぶ	肘関節脱臼の診察・整復を復習する
	到達目標	固定材料を作製し、診察・整復ができる	
2	授業内容	肘関節脱臼2 肘関節脱臼の固定法について学ぶ	肘関節脱臼の固定法を予習しておく 肘関節脱臼の治療を復習する
	到達目標	肘関節脱臼の固定ができる	
3	授業内容	肘内障 肘内障の診察・整復法について学ぶ	肘内障を予習しておく 肘内障の診察・整復を復習する
	到達目標	肘内障の診察・整復ができる	
4	授業内容	肘頭骨折 肘頭骨折の診察・治療法について学ぶ	肘頭骨折を予習しておく 肘頭骨折の治療を復習する
	到達目標	肘頭骨折の診察・治療が理解できる	
5	授業内容	肘関節軟部組織損傷 肘関節の徒手検査・テーピングについて学ぶ	肘関節軟部組織損傷を予習しておく 検査・テーピングを復習する
	到達目標	軟部組織損傷の検査・テーピングができる	
6	授業内容	前腕部軟部組織損傷 前腕部の徒手検査について学ぶ	前腕部軟部組織損傷を予習しておく 検査を復習する
	到達目標	軟部組織損傷の検査ができる	
7	授業内容	コーレス骨折1 コーレス骨折の固定材料について学ぶ	コーレス骨折を予習しておく
	到達目標	固定材料を作製できる	
8	授業内容	コーレス骨折2 コーレス骨折の診察・整復法について学ぶ	コーレス骨折を予習しておく コーレス骨折の診察・整復を復習する
	到達目標	コーレス骨折の診察・整復ができる	
9	授業内容	コーレス骨折3 コーレス骨折の固定法について学ぶ	コーレス骨折を予習しておく コーレス骨折の治療を復習する
	到達目標	コーレス骨折の固定ができる	
10	授業内容	舟状骨骨折 舟状骨骨折の診察・治療法について学ぶ	舟状骨骨折を予習しておく 舟状骨骨折の診察・治療を復習する
	到達目標	舟状骨骨折の診察・治療が理解できる	
11	授業内容	月状骨脱臼 月状骨脱臼の診察・治療法について学ぶ	月状骨脱臼を予習しておく 月状骨脱臼の診察・治療を復習する
	到達目標	月状骨脱臼の診察・治療が理解できる	
12	授業内容	中手骨頸部骨折 頸部骨折の診察・治療について学ぶ	中手骨頸部骨折を予習しておく 第5中手骨頸部骨折の固定を復習する
	到達目標	第5中手骨頸部骨折の固定ができる	
13	授業内容	指節間関節脱臼 指節間関節脱臼の診察・治療について学ぶ	指節間関節脱臼を予習しておく 第2指PIP関節脱臼の固定を復習する
	到達目標	第2指PIP関節脱臼の固定ができる	
14	授業内容	まとめ1 本実習の内容について復習する	本実習内容を復習しておく
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ2(評価含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復実技 V	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	④・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		野球チームトレーナー・明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	棚原 勝平	E-mail		実施時期	2年 前期		

授業の目的

柔道整復師として業務を行う上で必要となる体幹(及び上肢・下肢)の損傷(骨折・脱臼・軟部組織損傷)に対し処置・施術が行えるように、考える力と対応できる能力を身につけることを目的とする。

到達目標

下肢の損傷に対し必要な診察を行い、判断・評価をすることができる。
損傷に対し必要な処置・施術をすることができる。

授業の内容

本科目では足関節外側靭帯損傷・顎関節脱臼・頸部軟部組織損傷・肋骨骨折・腰部軟部組織損傷・指骨骨折・マレットフィンガー・腱鞘炎の施術目的・方法について学習していきます。
また、各部位の整復・固定法を学習していきます。
なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。
授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。
固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。
欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。
承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。

成績評価

授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。
期末試験を行い、100 点満点で評価します。
欠席-5 点、遅刻・早退-2 点、忘れ物-2 点、その他授業態度などで減点します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂
柔道整復学・実技編 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂
包帯固定学 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、足関節外側靭帯損傷 2 靭帯損傷の厚紙副子固定について学ぶ	外側靭帯損傷の固定を復習する
	到達目標	外側靭帯損傷の厚紙副子固定ができる	
2	授業内容	足関節外側靭帯損傷 3 靭帯損傷のバスケット・ウィーブ固定について学ぶ	外側靭帯損傷を予習しておく 外側靭帯損傷の固定を復習する
	到達目標	外側靭帯損傷のバスケット・ウィーブ固定ができる	
3	授業内容	足関節外側靭帯損傷 4 靭帯損傷のフィギュアエイト固定について学ぶ	外側靭帯損傷を予習しておく 外側靭帯損傷の固定を復習する
	到達目標	外側靭帯損傷のフィギュアエイト固定ができる	
4	授業内容	顎関節脱臼 顎関節脱臼の診察・治療法について学ぶ	顎関節脱臼を予習しておく 顎関節脱臼の診察・治療を復習する
	到達目標	顎関節脱臼の診察・治療ができる	
5	授業内容	頸部軟部組織損傷 1 頸部の徒手検査法について学ぶ	頸部軟部組織損傷を予習しておく 頸部の徒手検査を復習する
	到達目標	頸部の徒手検査ができる	
6	授業内容	頸部軟部組織損傷 2 頸部の徒手検査法について学ぶ	頸部軟部組織損傷を予習しておく 頸部の徒手検査を復習する
	到達目標	頸部の徒手検査ができる	
7	授業内容	肋骨骨折 1 肋骨骨折の厚紙副子・診察について学ぶ	肋骨骨折を予習しておく 肋骨骨折の診察を復習する
	到達目標	厚紙副子を作製し、肋骨骨折の診察ができる	
8	授業内容	肋骨骨折 2 肋骨骨折の固定法について学ぶ	肋骨骨折を予習しておく 肋骨骨折の固定を復習する
	到達目標	肋骨骨折の固定ができる	
9	授業内容	腰部軟部組織損傷 1 腰部の徒手検査法について学ぶ	腰部軟部組織損傷を予習する 腰部の徒手検査を復習する
	到達目標	腰部の徒手検査法ができる	
10	授業内容	腰部軟部組織損傷 2 腰部の徒手検査法について学ぶ	腰部軟部組織損傷を予習する 腰部の徒手検査を復習する
	到達目標	腰部の徒手検査法ができる	
11	授業内容	指骨骨折 指骨骨折の診察・治療法について学ぶ	指骨骨折を予習しておく 指骨骨折の診察・治療を復習する
	到達目標	指骨骨折の診察・治療ができる	
12	授業内容	マレットフィンガー マレットフィンガーの診察・治療法について学ぶ	マレットフィンガーを予習しておく マレットフィンガーの診察・治療を復習する
	到達目標	マレットフィンガーの診察・治療ができる	
13	授業内容	腱鞘炎 ばね指、ド・ケルバン病の診察・検査法について学ぶ	腱鞘炎を予習しておく 腱鞘炎の診察・検査を復習する
	到達目標	腱鞘炎の診察・検査ができる	
14	授業内容	まとめ 1 本実習の内容について復習する	本実習内容を復習しておく
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ 2(評価含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅰ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	④・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務・接骨院開業（脇坂）					
担当者	脇坂 謙三 奥田 香苗	E-mail		実施時期	2 年 後期		

授業の目的
臨床柔道整復学Ⅲで学んだ様々な治療法を実際に体験することを目的とします。
到達目標
治療法の基本動作を実施できる。 解剖・機能を説明できる。 治療機序を説明できる。
授業の内容
治療法の基本動作を学び、実際に体験し実践していきます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退席は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。 期末試験を行い、100 点満点で評価します。 欠席－5 点、遅刻・早退－2 点、忘れ物－2 点、その他授業態度などで減点します。 合計点が 60 点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間： 時 分～ 時 分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、手技療法1 軽擦・強擦・叩打・振戦法を実践する	基本の手技療法を予習しておく 手技療法を復習する
	到達目標	軽擦・強擦・叩打・振戦法を実施できる	
2	授業内容	手技療法2 圧迫・揉捏法を実践する	基本の手技療法を予習しておく 手技療法を復習する
	到達目標	圧迫・揉捏法を実施できる	
3	授業内容	手技療法3 頸部・腰部の手技療法を実践する	基本の手技療法を予習しておく 頸部・腰部の手技療法を復習する
	到達目標	頸部・腰部の手技療法を実施できる	
4	授業内容	運動療法 他動・自動運動を実践する	運動療法を予習しておく 他動・自動運動を復習する
	到達目標	他動・自動運動を実施できる	
5	授業内容	ストレッチング1 上肢の静的ストレッチ法を実践する	上肢の筋を予習しておく 上肢のストレッチ法を復習する
	到達目標	上肢の静的ストレッチ法を実施できる	
6	授業内容	ストレッチング2 下肢の静的ストレッチ法を実践する	下肢の筋を予習しておく 下肢のストレッチ法を復習する
	到達目標	下肢の静的ストレッチ法を実施できる	
7	授業内容	ストレッチング3 その他のストレッチ法を実践する	PNFストレッチなどを予習しておく その他のストレッチ法を復習する
	到達目標	その他のストレッチ法を実施できる	
8	授業内容	A K A A K Aを実践する	A K Aについて予習しておく A K Aを復習する
	到達目標	A K Aを実施できる	
9	授業内容	カイロプラクティック1 ガンステッドテクニックを実践する	ガンステッドテクニックについて予習しておく ガンステッドテクニックを復習する
	到達目標	ガンステッドテクニックを実施できる	
10	授業内容	カイロプラクティック2 ガンステッドテクニックを実践する	ガンステッドテクニックについて予習しておく ガンステッドテクニックを復習する
	到達目標	ガンステッドテクニックを実施できる	
11	授業内容	カイロプラクティック3 S O Tを実践する	S O Tについて予習しておく S O Tを復習する
	到達目標	S O Tを実施できる	
12	授業内容	カイロプラクティック4 A Kを実践する	A Kについて予習しておく A Kを復習する
	到達目標	A Kを実施できる	
13	授業内容	美顔マッサージ 美顔マッサージを実践する	美顔マッサージについて予習しておく 美顔マッサージを復習する
	到達目標	美顔マッサージを実施できる	
14	授業内容	美顔マッサージ 美顔マッサージを実践できる	美顔マッサージについて予習しておく 美顔マッサージを復習する
	到達目標	美顔マッサージを実施できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊦・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		接骨院開業（山村） 元プロ野球チームトレーナー（松元）					
担当者	山村 宣延 松元 隆司	E-mail		実施時期	2 年 後期		

授業の目的

柔道整復師に必要な競技者の運動器の機能障害を見極める力をつけるとともに、機能回復訓練法の知識と技術を身につけることを目的とします。

到達目標

競技者の運動器の機能障害を説明できる。
種々の機能訓練法を説明できる。
種々の機能訓練法を行うことができる。

授業の内容

臨床に即した形で、種々の訓練方法を、時代背景を踏まえながら学んでいきます。
教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。
期末試験を行い、100 点満点で評価します。
欠席－5 点、遅刻・早退－2 点、忘れ物－2 点、その他授業態度などで減点します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

リハビリテーション医学 改訂第 4 版 全国柔道整復学校協会監修 三上真弘編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、トレーニングの実際 1 下肢のトレーニングについて学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 下肢のトレーニングを復習する
	到達目標	下肢のトレーニングを実施できる	
2	授業内容	トレーニングの実際 2 下肢のトレーニングについて学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 下肢のトレーニングを復習する
	到達目標	下肢のトレーニングを実施できる	
3	授業内容	トレーニングの実際 3 体幹のトレーニングについて学ぶ	体幹の解剖を予習しておく 体幹のトレーニングを復習する
	到達目標	体幹のトレーニングを実施できる	
4	授業内容	トレーニングの実際 4 上肢のトレーニングについて学ぶ	上肢の解剖を予習しておく 上肢のトレーニングを復習する
	到達目標	上肢のトレーニングを実施できる	
5	授業内容	関節モビライゼーション 関節モビライゼーションの方法と実際について学ぶ	関節モビライゼーションを予習しておく 関節モビライゼーションの方法と実際を復習する
	到達目標	関節モビライゼーションの方法を理解し、実施できる	
6	授業内容	P N F P N Fの方法と実際について学ぶ	P N Fを予習しておく P N Fの方法と実際を復習する
	到達目標	P N Fの方法を理解し、実施できる	
7	授業内容	D Y J O C（動的関節制動訓練） D Y J O Cの方法と実際について学ぶ	D Y J O Cを予習しておく D Y J O Cの方法と実際を復習する
	到達目標	D Y J O Cの方法を理解し、実施できる	
8	授業内容	認知運動療法 認知運動療法の方法と実際について学ぶ	認知運動療法を予習しておく 認知運動療法の方法と実際を復習する
	到達目標	認知運動療法の方法を理解し、実施できる	
9	授業内容	痛みに対する治療 痛みに対するアプローチについて学ぶ	痛みのメカニズムを予習しておく 痛みに対するアプローチを復習する
	到達目標	痛みに対するアプローチを理解し、実施できる	
10	授業内容	伝統的治療法 スポーツ外傷に対する伝統的治療法と実際について学ぶ	伝統的治療法を予習しておく 伝統的治療法を復習する
	到達目標	スポーツ外傷に対する伝統的治療法を理解し、実施できる	
11	授業内容	部位別訓練法 1 膝のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	膝の構造を予習しておく 膝のスポーツ外傷と訓練法を復習する
	到達目標	膝のスポーツ外傷を理解し、訓練法を実施できる	
12	授業内容	部位別訓練法 2 腰のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 腰のスポーツ外傷と訓練法を復習する
	到達目標	腰のスポーツ外傷を理解し、訓練法を実施できる	
13	授業内容	部位別訓練法 3 肩のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	腰の構造を予習しておく 肩のスポーツ外傷と訓練法を復習する
	到達目標	肩のスポーツ外傷を理解し、訓練法を実施できる	
14	授業内容	後療法の実際 実際の症例を通じて後療法を行う	障害のリハビリテーションを予習しておく 実際の症例に対する後療法を復習する
	到達目標	実際の症例を通じて後療法の実際を理解し、訓練法を実施できる	
15	授業内容	まとめ（評価を含む） 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅲ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊦ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	秋津 知宏	E-mail		実施時期	2 年 後期		

授業の目的

傷病者や怪我人に対する応急処置・救急処置を理解し、かつ実際に実施できる能力を身につけることを目的とします。

到達目標

疾病・疾患を説明できる。
 疾病・疾患に対し適切な判断できる。
 応急手当・救急処置を実施できる。

授業の内容

赤十字基礎講習や救急法講習で行われている内容に沿って学びます。
 応急手当・処置が必要な怪我や病気等について学びます。
 怪我や病気等の発生時に必要な応急手当・処置について学びます。
 テーピング等の固定材料を使用して固定法を実施します。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
 途中退席は欠席扱いになることがあります。
 課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。
 学期途中に行う確認試験、期末試験（実技試験）を行い、100 点満点で評価します。
 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復師のための救急医学 全国柔道整復学校協会監修 太田祥一編 南江堂

参考文献・図書

赤十字救急法基礎講習 第5版
 赤十字救急法講習
 CG と実写動画で覚えるテーピングナビ

オフィスアワーについて

曜日：
 時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、手当の基本 手当の基本を学ぶ	手当の基本を復習する
	到達目標	手当の基本を説明できる	
2	授業内容	応急手当・救急処置 1 一次救命処置について学ぶ	応急処置を予習しておく 一次救命処置を復習する
	到達目標	一次救命処置を説明できる	
3	授業内容	応急手当・救急処置 2 外科的応急処置について学ぶ	外科的疾患を予習しておく 外科的応急処置を復習する
	到達目標	外科的応急処置を説明し、実施できる	
4	授業内容	応急手当・救急処置 3 急病とその対処法について学ぶ	緊急を要する疾患を予習しておく 急病とその対処法を復習する
	到達目標	急病とその対処法を説明し、実施できる	
5	授業内容	応急手当・救急処置 4 怪我等に対する応急手当について学ぶ	骨折・脱臼、開放性損傷を予習しておく 怪我等に対する応急手当を復習する
	到達目標	怪我等に対する応急手当を説明し、実施できる	
6	授業内容	応急手当・救急処置 5 搬送・救護について学ぶ	搬送時の注意を予習しておく 搬送・救護を復習する
	到達目標	搬送・救護を説明し、実施できる	
7	授業内容	まとめ 1 応急手当・救急処置の内容について確認・復習する	これまでの内容について復習しておく 応急手当・救急処置を復習する
	到達目標	応急手当・救急処置の内容を習得している	
8	授業内容	固定 1 肩部の固定について実技を交えて学ぶ	肩部の解剖を予習しておく 肩部のテーピング・固定を復習する
	到達目標	肩部の固定ができる	
9	授業内容	テーピング・固定 2 足関節のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 足関節のテーピング・固定を復習する
	到達目標	足関節のテーピング・固定ができる	
10	授業内容	テーピング・固定 3 足関節のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 足関節のテーピング・固定を復習する
	到達目標	足関節のテーピング・固定ができる	
11	授業内容	テーピング・固定 4 足関節のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	膝関節の解剖を予習しておく 膝関節のテーピング・固定を復習する
	到達目標	足関節のテーピング・固定ができる	
12	授業内容	テーピング・固定 5 足関節のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	大腿部の解剖を予習しておく 大腿部のテーピング・固定を復習する
	到達目標	足関節のテーピング・固定を行うことができる	
13	授業内容	テーピング・固定 6 下腿部のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	下腿部の解剖を予習しておく 下腿部のテーピング・固定を復習する
	到達目標	下腿部のテーピング・固定ができる	
14	授業内容	テーピング・固定 7 足部のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	足部の解剖を予習しておく 足部のテーピング・固定を復習する
	到達目標	足部のテーピング・固定ができる	
15	授業内容	まとめ 2(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅳ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	④・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		実業団チームトレーナー					
担当者	川西 弘晃	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的
スポーツトレーナーの実践内容に必要な知識と技術を身につけることを目的とします。
到達目標
スポーツトレーナーの補助ができる。
授業の内容
各種競技の特性を学び、コンディショニングとケア、コメディカルを実践していく。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
<p>実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。</p> <p>授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。</p> <p>固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。</p> <p>欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。</p> <p>承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。</p>
成績評価
<p>授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。</p> <p>期末試験を行い、100 点満点で評価します。</p> <p>欠席－5 点、遅刻・早退－2 点、忘れ物－2 点、その他授業態度などで減点します。</p> <p>合計点が 60 点以上で合格となります。</p>
テキスト
参考文献・図書
オフィスアワーについて
<p>曜日： 木曜日</p> <p>時間： 16 時 20 分～ 17 時 20 分</p>
授業時間外の学習について
<p>授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。</p>

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、柔道1 柔道の外傷に対する処置と予防法について学ぶ	柔道の外傷を予習しておく 柔道の外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	柔道の外傷に対する処置と予防法を説明できる	
2	授業内容	柔道2 柔道の外傷に対する処置と予防法を実践する	柔道の外傷を予習しておく 柔道の外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	柔道の外傷に対する処置と予防法を実施できる	
3	授業内容	野球1 野球の障害に対する施術と予防法について学ぶ	野球の障害を予習しておく 野球の障害に対する施術と予防法を復習する
	到達目標	野球の障害に対する施術と予防法を説明できる	
4	授業内容	野球2 野球の障害に対する施術と予防法を実践する	野球の障害を予習しておく 野球の障害に対する施術と予防法を復習する
	到達目標	野球の障害に対する施術と予防法を実施できる	
5	授業内容	サッカー1 サッカーの外傷に対する処置と予防法について学ぶ	サッカーの外傷を予習しておく サッカーの外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	サッカーの外傷に対する処置と予防法を説明できる	
6	授業内容	サッカー2 サッカーの外傷に対する処置と予防法を実践する	サッカーの外傷を予習しておく サッカーの外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	サッカーの外傷に対する処置と予防法を実施できる	
7	授業内容	ラグビー1 ラグビーの外傷に対する処置と予防法について学ぶ	ラグビーの外傷を予習しておく ラグビーの外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	ラグビーの外傷に対する処置と予防法を説明できる	
8	授業内容	ラグビー2 ラグビーの外傷に対する処置と予防法を実践する	ラグビーの外傷を予習しておく ラグビーの外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	ラグビーの外傷に対する処置と予防法を実施できる	
9	授業内容	陸上競技1 長距離走の障害に対する施術と予防法について学ぶ	長距離走の障害を予習しておく 長距離走の障害に対する施術と予防法を復習する
	到達目標	長距離走の障害に対する施術と予防法を説明できる	
10	授業内容	陸上競技2 長距離走の障害に対する施術と予防法を実践できる	長距離走の障害を予習しておく 長距離走の障害に対する施術と予防法を復習する
	到達目標	長距離走の障害に対する施術と予防法を実施できる	
11	授業内容	陸上競技3 短距離走の外傷に対する処置と予防法について学ぶ	短距離走の外傷を予習しておく 短距離走の外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	短距離走の外傷における処置と予防法を説明できる	
12	授業内容	陸上競技4 短距離走の外傷における処置と予防法を実践する	短距離走の外傷を予習しておく 短距離走の外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	短距離走の外傷における処置と予防法を実施する	
13	授業内容	バレーボール バレーボールの障害における施術と予防法を学び、実践する	バレーボールの障害を予習しておく バレーボールの障害に対する施術と予防法を復習する
	到達目標	バレーボールの障害における施術と予防法を説明し、実施できる	
14	授業内容	バスケットボール バスケットボールの障害における施術と予防法を学び、実践する	バスケットボールの障害を予習しておく バスケットボールの障害に対する施術と予防法を復習する
	到達目標	バスケットボールの障害における施術と予防法を説明し、実施できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅳ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	④・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		接骨院開業					
担当者	川端 崇司	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的
接骨院の開業を考え、接骨院の施術内容に必要な知識と技術を身につけることを目的とします。
到達目標
接骨院業務の補助ができる。
授業の内容
各種傷病の特性を学び、コンディショニングとケアを実践していく。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
<p>実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。</p> <p>授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。</p> <p>固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。</p> <p>欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。</p> <p>承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。</p>
成績評価
<p>授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。</p> <p>期末試験を行い、100 点満点で評価します。</p> <p>欠席－5 点、遅刻・早退－2 点、忘れ物－2 点、その他授業態度などで減点します。</p> <p>合計点が 60 点以上で合格となります。</p>
テキスト
配布資料
参考文献・図書
オフィスアワーについて
<p>曜日：</p> <p>時間：</p>
授業時間外の学習について
<p>授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。</p>

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、頸椎捻挫1 頸椎捻挫の診察・処置・施術について学ぶ	頸椎捻挫を予習しておく 頸椎捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	頸椎捻挫の診察・処置・施術を説明できる	
2	授業内容	頸椎捻挫2 頸椎捻挫の診察・処置・施術を実践する	頸椎捻挫について予習しておく 頸椎捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	頸椎捻挫の診察・処置・施術を実施できる	
3	授業内容	腰椎捻挫・背部挫傷1 腰椎捻挫・背部挫傷の診察・処置・施術について学ぶ	腰椎捻挫・背部挫傷を予習しておく 腰椎捻挫・背部挫傷の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	腰椎捻挫・背部挫傷の診察・処置・施術を説明できる	
4	授業内容	腰椎捻挫・背部挫傷1 腰椎捻挫・背部挫傷の診察・処置・施術を実践する	腰椎捻挫・背部挫傷を予習しておく 腰椎捻挫・背部挫傷の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	腰椎捻挫・背部挫傷の診察・処置・施術を実施できる	
5	授業内容	肩関節捻挫1 肩関節捻挫の診察・処置・施術について学ぶ	肩関節捻挫を予習しておく 肩関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	肩関節捻挫の診察・処置・施術を説明できる	
6	授業内容	肩関節捻挫2 肩関節捻挫の診察・処置・施術を実践する	肩関節捻挫を予習しておく 肩関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	肩関節捻挫の診察・処置・施術を実施できる	
7	授業内容	肘関節捻挫 肘関節捻挫の診察・処置・施術について学び、実践する	肘関節捻挫を予習しておく 肘関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	肘関節捻挫の診察・処置・施術を説明し、実施できる	
8	授業内容	手関節捻挫 手関節捻挫の診察・処置・施術について学び、実践する	手関節捻挫を予習しておく 手関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	手関節捻挫の診察・処置・施術を説明し、実施できる	
9	授業内容	股関節捻挫 股関節捻挫の診察・処置・施術について学び、実践する	股関節捻挫を予習しておく 股関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	股関節捻挫の診察・処置・施術を説明し、実施できる	
10	授業内容	大腿部挫傷 大腿部挫傷の診察・処置・施術について学び、実践する	大腿部挫傷を予習しておく 大腿部挫傷の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	大腿部挫傷の診察・処置・施術を説明し、実施できる	
11	授業内容	膝関節捻挫1 膝関節捻挫の診察・処置・施術について学ぶ	膝関節捻挫を予習しておく 膝関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	膝関節捻挫の診察・処置・施術を説明できる	
12	授業内容	膝関節捻挫2 膝関節捻挫の診察・処置・施術を実践する	膝関節捻挫を予習しておく 膝関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	膝関節捻挫の診察・処置・施術を実施できる	
13	授業内容	下腿部挫傷 下腿部挫傷の診察・処置・施術について学び、実践する	下腿部挫傷を予習しておく 下腿部挫傷の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	下腿部挫傷の診察・処置・施術を説明し、実施できる	
14	授業内容	足関節捻挫 足関節捻挫の診察・処置・施術について学び、実践する	足関節捻挫を予習しておく 足関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	足関節捻挫の診察・処置・施術を説明し、実施できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技V	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	④・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		野球チームトレーナー・明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	神内 伸晃	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的

高齢者及び競技者の生理学的特徴、変化で得た知識を活用し、高齢者及び競技者に対する具体的な外傷予防の手法を身につける。

到達目標

高齢者及び競技者に対する具体的な外傷予防プログラムを組み立てて、実施できる。

授業の内容

本科目では高齢者と競技者の生理学的特徴に応じた予防法を学び、プログラムをたて、実施できるよう指導したうえで、グループに分かれて、実施できるようにする。

注意事項

実技の授業中は運動ができる服装とし、ハーフパンツを着用してください。
 授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。
 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。
 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。
 承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。

成績評価

授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。
 期末試験を行い、100 点満点で評価します。
 欠席－5 点、遅刻・早退－2 点、忘れ物－2 点、その他授業態度などで減点します。
 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

競技者の外傷予防 全国柔道整復学学校協会監修 医歯薬出版

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
 時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画		授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、高齢者外傷予防 高齢者の生理的特徴と下肢の筋力トレーニングについて学ぶ
	到達目標	高齢者の生理的特徴を理解し、下肢の筋力トレーニングを行うことができる
2	授業内容	高齢者の外傷予防エクササイズ 高齢者のトレーニング方法(バランス・呼吸機能トレーニング)について学ぶ
	到達目標	高齢者のトレーニング方法(バランス・呼吸機能トレーニング)が実施できる
3	授業内容	競技者の外傷予防概論、競技者の外傷予防のためのメディカルチェック1 メディカルチェックについて学ぶ
	到達目標	メディカルチェックを理解し、行うことができる
4	授業内容	競技者の外傷予防のためのメディカルチェック2 メディカルチェックについて学ぶ
	到達目標	メディカルチェックを理解し、行うことができる
5	授業内容	競技者の外傷予防に必要なコンディショニング1 競技者の外傷予防のためのセルフケア(ローラー・アイシング)について学ぶ
	到達目標	競技者の外傷予防のためのセルフケアを実施することができる
6	授業内容	競技者の外傷予防に必要なコンディショニング2 競技者の外傷予防のためのケア(ストレッチ・マッサージ)について学ぶ
	到達目標	競技者の外傷予防のためのケアを実施することができる
7	授業内容	外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際1 可動域拡大のためのトレーニング・スタビリティトレーニングについて学ぶ
	到達目標	外傷予防に必要な筋力トレーニングを実施することができる
8	授業内容	外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際2 下肢のトレーニング・ウォーミングアップ・プレパレーショントレーニングについて学ぶ
	到達目標	各種トレーニングを実施することができる
9	授業内容	障害予防に対するトレーニング1 肩関節の障害予防のためのトレーニングについて学ぶ
	到達目標	肩関節の障害予防のためのトレーニングを実施できる
10	授業内容	障害予防に対するトレーニング2 腰痛予防のためのトレーニングについて学ぶ
	到達目標	腰痛予防のためのトレーニングを実施できる
11	授業内容	障害予防に対するトレーニング3 前十字靭帯損傷予防のためのトレーニングについて学ぶ
	到達目標	前十字靭帯損傷予防のためのトレーニングを実施できる
12	授業内容	障害予防に対するトレーニング4 足関節捻挫予防のためのトレーニングについて学ぶ
	到達目標	足関節捻挫予防のためのトレーニングを実施できる
13	授業内容	スポーツテーピング スポーツテーピングの方法と実際について学ぶ
	到達目標	スポーツテーピングを行うことができる
14	授業内容	年齢別外傷予防 成長期の外傷予防について学ぶ
	到達目標	成長期の外傷予防について説明できる
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅵ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	⑦・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		野球チームトレーナー・明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	棚原 勝平	E-mail		実施時期	3年 前期		

授業の目的

卒業後、トレーナーとしての実践を考えてテーピング、キネシオテープが実施できることを目的とします。
卒業後、リハビリテーション科で勤務される場合を想定した器具の使い方の習得と、機能回復訓練法が実施できることを目的とします。

到達目標

実践で使えるテーピング、キネシオテープが施術できる。
物療機器の取り扱いと、機能回復訓練法が実施できる。

授業の内容

本科目ではテーピングの基礎、各関節の特性を教授し、外傷処置や外傷予防のテーピング、キネシオを重ねて練習する。また、実際に物療機器を用いて、その扱い方を教授し、機能回復訓練に必要な技術を学び練習する。

注意事項

実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。
授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。
固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。
欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。
承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。

成績評価

授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。
期末試験を行い、100 点満点で評価します。
欠席－5 点、遅刻・早退－2 点、忘れ物－2 点、その他授業態度などで減点します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

配布資料

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画		授業時間外学習（予習・復習）	
1	授業内容	オリエンテーション、テーピング1 テーピングの基礎・扱い方について学ぶ	テーピングの基礎・扱い方を復習する
	到達目標	テーピングの基礎を説明し、扱うことができる	
2	授業内容	テーピング2 一般的なテーピング法について学ぶ	テープについて予習しておく テーピングについて復習する
	到達目標	ホワイトテーピングを扱うことができる	
3	授業内容	テーピング3 肩部のテーピング法について学ぶ	肩部の構造を予習しておく 肩部のテーピングを復習する
	到達目標	肩部のテーピング法ができる	
4	授業内容	テーピング4 肩部のキネシオテープ法について学ぶ	肩部の構造を予習しておく 肩部のキネシオテープを復習する
	到達目標	肩部のキネシオテープ法ができる	
5	授業内容	テーピング5 肘部のテーピング法について学ぶ	肘部の構造を予習しておく 肘部のテーピングを復習する
	到達目標	肘部のテーピング法ができる	
6	授業内容	テーピング6 肘部のキネシオテープ法について学ぶ	肘部の構造を予習しておく 肘部のキネシオテープを復習する
	到達目標	肘部のキネシオテープ法ができる	
7	授業内容	テーピング7 手関節、手指部のテーピング法について学ぶ	手関節、手指部の構造を予習しておく 手関節、手指部のテーピングを復習する
	到達目標	手関節、手指部のテーピング法ができる	
8	授業内容	まとめ1 各部のテーピングについて確認・復習する	第7回までの内容を復習しておく
	到達目標	テーピングの内容を習得している	
9	授業内容	機能回復訓練1 上肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法について学ぶ	上肢の機能障害部位に対するセルフケアを予習しておく 上肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法を復習する
	到達目標	上肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法ができる	
10	授業内容	機能回復訓練2 上肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法について学ぶ	上肢の機能障害部位に対するセルフケアを予習しておく 上肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法を復習する
	到達目標	上肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法ができる	
11	授業内容	機能回復訓練3 下肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法について学ぶ	下肢の機能障害部位に対するセルフケアを予習しておく 下肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法を復習する
	到達目標	下肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法ができる	
12	授業内容	機能回復訓練4 下肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法について学ぶ	下肢の機能障害部位に対するセルフケアを予習しておく 下肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法を復習する
	到達目標	下肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法ができる	
13	授業内容	機能回復訓練5 体幹の物理療法と徒手筋力増強訓練法について学ぶ	体幹の機能障害部位に対するセルフケアを予習しておく 体幹の物理療法と徒手筋力増強訓練法を復習する
	到達目標	体幹の物理療法と徒手筋力増強訓練法ができる	
14	授業内容	まとめ2 物理療法と徒手筋力増強訓練法について確認・復習する	ここまでの内容を復習しておく
	到達目標	物理療法と徒手筋力増強訓練法の内容を習得している	
15	授業内容	まとめ3(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅶ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	⑦・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		デイサービス勤務・接骨院開業					
担当者	関 寛樹	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的

高齢化社会において、介護保険制度は高齢者を支える上で大きな柱となっています。特に介護予防における機能訓練指導員の責務は大きく、柔道整復師はその一員として認められている以上、今後益々 その担い手として介護分野への参画が期待されます。それに伴い、養成校での介護保険制度に対する知識と機能訓練指導員としての技術を習得し、介護業界へ貢献すると共に日本社会における柔道整復師の地位向上へと繋げる事を目的とします。

到達目標

機能訓練指導員として必要な知識を正確に説明でき、業務を行うにあたり実施する運動などを確実に指導することができるようになる。

授業の内容

柔道整復師と機能訓練指導(介護保険制度の理解・機能訓練指導員としての知識と技術の習得)を実技を交えて学んでいきます。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

※医療人として相応しい人間性(知識・技能)の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合がありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、無断での途中退学や早退は「欠席」となります。注意してください。

※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

成績評価

授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。

期末試験を行い、100 点満点で評価します。

欠席-5 点、遅刻・早退-2 点、忘れ物-2 点、その他授業態度などで減点します。

合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復師と機能訓練指導員(機能訓練指導員養成テキスト) 全国柔道整復学校協会監修 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習(50分程度)を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画		授業時間外学習（予習・復習）	
1	授業内容	オリエンテーション、コグニサイズ コグニサイズを実践する	コグニサイズを復習する
	到達目標	コグニサイズを正確に実施できる	
2	授業内容	自立支援 ポジショニングとシーティングについて学ぶ	自立支援について予習しておく ポジショニングとシーティング を復習する
	到達目標	ポジショニングとシーティングを実施できる	
3	授業内容	口腔機能と心肺機能 嘔吐物の対処方法と心肺蘇生を実践する	口腔機能と心肺機能を予習しておく 嘔吐物の対処方法と心肺蘇生を 復習する
	到達目標	嘔吐物の対処方法・心肺蘇生を正確に実施できる	
4	授業内容	機能訓練の評価 疼痛・バランスの評価を実践する	機能訓練の評価を予習しておく 疼痛・バランスの評価を復習する
	到達目標	疼痛・バランスの評価を実施できる	
5	授業内容	ロコモティブシンドローム ロコチェックとロコトレを実践する	ロコモティブシンドロームを予 習しておく ロコチェックとロコトレを復習 する
	到達目標	ロコチェックとロコトレを実施できる	
6	授業内容	転倒 転倒の要因と予防法を実践する	転倒について予習しておく 転倒の要因と予防法を復習する
	到達目標	転倒の要因と予防法を実施できる	
7	授業内容	器具を用いない運動 1 背臥位での軽運動と予備運動を実践する	器具を用いない運動を予習して おく 背臥位での軽運動と予備運動を 復習する
	到達目標	背臥位での軽運動と予備運動を実施できる	
8	授業内容	器具を用いない運動 2 立位でのストレッチングを実践する	器具を用いない運動を予習して おく 立位でのストレッチングを復習 する
	到達目標	立位でのストレッチングを実施できる	
9	授業内容	器具を用いない運動 3 上肢・体幹のストレッチングと筋力を向上させる運動を実践 する	器具を用いない運動を予習して おく 上肢・体幹の運動を復習する
	到達目標	上肢・体幹の運動を実施できる	
10	授業内容	器具を用いない運動 4 下肢の筋力強化運動を実践する	器具を用いない運動を予習して おく 下肢の運動を復習する
	到達目標	下肢の筋力強化運動を実施できる	
11	授業内容	器具を用いた運動 1 ボール、チューブを用いた運動を実践する	器具を用いた運動を予習して おく ボール、チューブを用いた運動を 復習する
	到達目標	ボール、チューブを用いた運動を実施できる	
12	授業内容	器具を用いた運動 2 チューブ、ボールを用いた運動を実践する	器具を用いた運動を予習して おく チューブ、ボールを用いた運動を 復習する
	到達目標	チューブ、ボールを用いた運動を実施できる	
13	授業内容	各部の運動 1 上半身の運動を実践する	各部の運動について予習して おく 上半身の運動を復習する
	到達目標	上半身の運動を実施できる	
14	授業内容	各部の運動 2 下半身の運動を実践する	各部の運動について予習して おく 下半身の運動を復習する
	到達目標	下半身の運動を実施できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】


科目名	伝承柔道整復実技	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊟・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務・接骨院開業（脇坂）					
担当者	脇坂 謙三 松下 寿	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的							
柔道整復師に関わることが多い傷病でありながら、これまでの実技授業で扱われることが少なかった項目を取り上げ、その項目に対する知識と施術法を身につけることを目的とします。							
到達目標							
各項目の詳細を説明することができる。 急性症状に対する処置ができる。 施術を行うことができる。							
授業の内容							
腰部・頸肩部・膝関節など主だった部位のよくみられる傷病を取り上げて学んでいきます。							
注意事項							
<ul style="list-style-type: none"> ・項目が多いので、積極的に実習を行ってください。 ・実習時はケーシー・学生証を着用し半パン、Tシャツ、サンダル不可 ・実技の授業に携帯電話、スマートフォンは必要ないので、電源は切っておくこと。 (使用している場合や呼び出し音が鳴った場合は平常点の減点対象とします) ・途中退室した場合、欠席扱いになることがありますので、やむおえず退出するときは事前に担当教員に承諾・確認を得てください。 							
成績評価							
<p>授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。</p> <p>期末試験を行い、100 点満点で評価します。</p> <p>欠席－5 点、遅刻・早退－2 点、忘れ物－2 点、その他授業態度などで減点します。</p> <p>合計点が 60 点以上で合格となります。</p>							
テキスト							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
曜日：							
時間：							
授業時間外の学習について							
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、ぎっくり腰 ぎっくり腰の概要・処置・施術を学び実践する	ぎっくり腰の概要・処置・施術を復習する
	到達目標	ぎっくり腰について説明し、処置・施術を実施できる	
2	授業内容	寝違い 寝違いの概要・処置・施術を学び実践する	寝違いについて予習しておく 寝違いの概要・処置・施術を復習する
	到達目標	寝違いについて説明し、処置・施術を実施できる	
3	授業内容	テニス肘 テニス肘の概要・施術を学び実践する	テニス肘について予習しておく テニス肘の概要・施術を復習する
	到達目標	テニス肘について説明し、施術を実施できる	
4	授業内容	腰痛 腰痛の概要・施術を学び実践する	腰痛について予習しておく 腰痛の概要・施術を復習する
	到達目標	腰痛について説明し、施術を実施できる	
5	授業内容	腱鞘炎 腱鞘炎の概要・施術を学び実践する	腱鞘炎について予習しておく 腱鞘炎の概要・施術を復習する
	到達目標	腱鞘炎について説明し、施術を実施できる	
6	授業内容	肩こり 肩こりの概要・施術を学び実践する	肩こりについて予習しておく 肩こりの概要・施術を復習する
	到達目標	肩こりについて説明し、施術を実施できる	
7	授業内容	膝関節痛 膝関節痛の概要・施術を学び実践する	膝関節痛について予習しておく 膝関節痛の概要・施術を復習する
	到達目標	膝関節痛について説明し、施術を実施できる	
8	授業内容	胸郭出口症候群 胸郭出口症候群の概要・施術を学び実践する	胸郭出口症候群について予習しておく 胸郭出口症候群の概要・施術を復習する
	到達目標	胸郭出口症候群について説明し、施術を実施できる	
9	授業内容	坐骨神経痛 坐骨神経痛の概要・施術を学び実践する	坐骨神経痛について予習しておく 坐骨神経痛の概要・施術を復習する
	到達目標	坐骨神経痛について説明し、施術を実施できる	
10	授業内容	手根管症候群 手根管症候群の概要・施術を学び実践する	手根管症候群について予習しておく 手根管症候群の概要・施術を復習する
	到達目標	手根管症候群について説明し、施術を実施できる	
11	授業内容	外反母趾 外反母趾の概要・施術を学び実践する	外反母趾について予習しておく 外反母趾の概要・施術を復習する
	到達目標	外反母趾について説明し、施術を実施できる	
12	授業内容	足関節痛 足関節痛の概要・施術を学び実践する	足関節痛について予習しておく 足関節痛の概要・施術を復習する
	到達目標	足関節痛について説明し、施術と実施できる	
13	授業内容	五十肩 五十肩の概要・施術を学び実践する	五十肩について予習しておく 五十肩の概要・施術を復習する
	到達目標	五十肩について説明し、施術を実施できる	
14	授業内容	仙腸関節痛 仙腸関節痛の概要・施術を学び実践する	仙腸関節痛について予習しておく 仙腸関節痛の概要・施術を復習する
	到達目標	仙腸関節痛について説明し、施術を実施できる	
15	授業内容	まとめ（評価含む） 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】


科目名	総合柔道整復実技Ⅰ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	奥田 香苗 脇坂 謙三	E-mail		実施時期	3年 前期		

授業の目的	認定実技審査を踏まえて、面接、診断、整復、固定について実習を行います。
到達目標	認定実技試験の課題について知識を深め、認定実技試験に合格できる以上の技術を習得する。
授業の内容	骨折・脱臼では、診断法・整復法・固定法を実習します。 軟部組織損傷では、診断法の主に徒手検査法を実習します。 各項目は1年次2年次に履修した復習であり、ここでは治療における一連の流れについて認定実技審査を踏まえて学習します。
注意事項	項目が多いので、積極的に実習を行ってください。 実習時はケーシー・学生証を着用し半パン、Tシャツ、サンダル不可 実技の授業に携帯電話、スマートフォンは必要ないので、電源は切っておくこと。 (使用している場合や呼び出し音が鳴った場合は平常点の減点対象とします) 途中退室した場合、欠席扱いになることがありますので、やむおえず退出するときは事前に担当教員に承諾・確認を得てください。
成績評価	授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。 期末試験を行い、100点満点で評価します。 欠席-5点、遅刻・早退-2点、忘れ物-2点、その他授業態度などで減点します。 合計点が60点以上で合格となります。60点未満を欠点とし、夏季集中講座に参加することになります。
テキスト	柔道整復学教科書（理論編・実技編）：南江堂
参考文献・図書	解剖学教科書：南江堂 整形外科教科書：南江堂
オフィスアワーについて	曜日： 時間：
授業時間外の学習について	授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、肩関節脱臼 肩関節脱臼の整復および固定について復習する	肩関節脱臼の整復・固定を復習する
	到達目標	肩関節脱臼の整復・固定ができる	
2	授業内容	鎖骨骨折 鎖骨骨折の整復および固定について復習する	鎖骨骨折を予習しておく 鎖骨骨折の整復・固定を復習する
	到達目標	鎖骨骨折の整復・固定ができる	
3	授業内容	肩鎖関節脱臼 肩鎖関節脱臼の整復および固定について復習する	肩鎖関節脱臼を予習しておく 肩鎖関節脱臼の整復・固定を復習する
	到達目標	肩鎖関節脱臼の整復・固定ができる	
4	授業内容	肘関節脱臼 肘関節脱臼の整復および固定について復習する	肘関節脱臼を予習しておく 肘関節脱臼の整復・固定を復習する
	到達目標	肘関節脱臼の整復・固定ができる	
5	授業内容	コーレス骨折 コーレス骨折の整復および固定について復習する	コーレス骨折を予習しておく コーレス骨折の整復・固定を復習する
	到達目標	コーレス骨折の整復・固定ができる	
6	授業内容	上腕骨外科頸骨折、PIP 関節脱臼 上腕骨外科頸骨折の整復と PIP 関節脱臼の固定について復習する	上腕骨外科頸骨折・PIP 関節脱臼を予習しておく 上腕骨外科頸骨折の整復・PIP 関節脱臼の固定を復習する
	到達目標	上腕骨外科頸骨折の整復・PIP 関節脱臼の固定ができる	
7	授業内容	肋骨骨折、肘内障 肋骨骨折の固定と肘内障の整復について復習する	肋骨骨折・肘内障を予習しておく 肋骨骨折の固定・肘内障の整復を復習する
	到達目標	肋骨骨折の固定・肘内障の整復ができる	
8	授業内容	第 5 中手骨骨折 第 5 中手骨骨折の固定について復習する	第 5 中手骨骨折を予習しておく 第 5 中手骨骨折の固定を復習する
	到達目標	第 5 中手骨骨折の固定ができる	
9	授業内容	上腕骨骨幹部骨折 上腕骨骨幹部骨折の固定について復習する	上腕骨骨幹部骨折を予習しておく 上腕骨骨幹部骨折の固定を復習する
	到達目標	上腕骨骨幹部骨折の固定ができる	
10	授業内容	下腿骨骨幹部骨折 下腿骨骨幹部骨折の固定について復習する	下腿骨骨幹部骨折を予習しておく 下腿骨骨幹部骨折の固定を復習する
	到達目標	下腿骨骨幹部骨折の固定ができる	
11	授業内容	アキレス腱断裂 アキレス腱断裂の固定について復習する	アキレス腱断裂を予習しておく アキレス腱断裂の固定を復習する
	到達目標	アキレス腱断裂の固定ができる	
12	授業内容	足関節靭帯損傷 足関節靭帯損傷の副子固定・バスケットウィーブ固定について復習する	足関節靭帯損傷を予習しておく 足関節靭帯損傷の副子固定・バスケットウィーブ固定を復習する
	到達目標	足関節靭帯損傷の副子固定・バスケットウィーブ固定ができる	
13	授業内容	足関節靭帯損傷、膝関節靭帯損傷 足関節靭帯損傷のフィギュアエイト固定と膝関節靭帯損傷の固定について復習する	足関節靭帯損傷の固定、膝関節靭帯損傷の固定を予習しておく 足関節靭帯損傷・膝関節靭帯損傷の固定を復習する
	到達目標	足関節靭帯損傷のフィギュアエイト固定・膝関節靭帯損傷の固定ができる	
14	授業内容	まとめ 1 本実習の内容について復習する	本実習内容を復習しておく
	到達目標	本実習の内容ができるようになる。	
15	授業内容	まとめ 2(評価含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復実技Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	奥田 香苗 脇坂 謙三	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的

認定実技審査を踏まえて、面接、診断、整復、固定について実習を行います。
今まで学んできた柔道整復学について復習をしていきます。

到達目標

認定実技試験の課題について知識を深め、認定実技試験に合格できる以上の技術を習得する。

授業の内容

骨折・脱臼では、診断法・整復法・固定法を実習します。
軟部組織損傷では、診断法の主に徒手検査法を実習します。
各項目は1年次2年次に履修した復習であり、ここでは治療における一連の流れについて認定実技審査を踏まえて学習します。

注意事項

項目が多いので、積極的に実習を行ってください。
実習時はケーシー・学生証を着用し半パン、Tシャツ、サンダル不可
実技の授業に携帯電話、スマートフォンは必要ないので、電源は切っておくこと。
(使用している場合や呼び出し音が鳴った場合は平常点の減点対象とします)
途中退室した場合、欠席扱いになることがありますので、やむおえず退出するときは事前に担当教員に承諾・確認を得てください。

成績評価

授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。
期末試験を行い、100点満点で評価します。
欠席-5点、遅刻・早退-2点、忘れ物-2点、その他授業態度などで減点します。
合計点が60点以上で合格となります。60点未満を欠点とし、夏季集中講座に参加することになります。

テキスト

柔道整復学教科書（理論編・実技編）：南江堂

参考文献・図書

解剖学教科書：南江堂、整形外科教科書：南江堂

オフィスアワーについて

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、肩関節の損傷 肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察について復習する	肩の損傷を予習しておく 肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察を復習する
	到達目標	肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察ができる	
2	授業内容	膝関節の損傷 1 膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察について復習する	膝関節部の損傷を予習しておく 膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察を復習する
	到達目標	膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察ができる	
3	授業内容	膝関節の損傷 2 膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察について復習する	膝関節部の損傷を予習しておく 膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察を復習する
	到達目標	膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察ができる	
4	授業内容	大腿部の損傷 ハムストリングス肉ばなれ、大腿四頭筋打撲の診察について復習する	大腿部の損傷を予習しておく ハムストリングス肉ばなれ、大腿四頭筋打撲の診察を復習する
	到達目標	ハムストリングス肉ばなれ、大腿四頭筋打撲の診察ができる	
5	授業内容	下腿部・足関節の損傷 下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷の診察について復習する	下腿部・足関節部の損傷を予習しておく 下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷の診察を復習する
	到達目標	下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷の診察ができる	
6	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
7	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
8	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
9	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
10	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
11	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
12	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
13	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
14	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
15	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床実習Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	①・無
		時間数	45 時間				
実務経験内容		野球チームトレーナー・明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	神内 伸晃	E-mail		実施時期	2年 時間外		

授業の目的
有資格者が行う医療面接を見学し、次の段階で施術補助をするときにスムーズに実施できることを目的とする。
到達目標
医療面接の項目やROM、MMT、各種検査法また、物理療法機器の取り扱い方を習得する。
授業の内容
各施術所の柔道整復専科教員免許を有する者による各種項目の指導を仰ぐ。 この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で行います。
注意事項
実習中は服装・身だしなみに留意し、各施設の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守する。 時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。）
成績評価
全日程への出席 レポート
実習時間外の学習について
実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力する。 その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とする。

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床実習Ⅲ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	⑦・無
		時間数	45 時間				
実務経験内容		野球チームトレーナー・明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	神内 伸晃	E-mail		実施時期	2年 時間外		

授業の目的
外傷患者に対する有資格者の補助を行うことにより、座学の知識を深めることを目的とする。
到達目標
医療面接ができる。 外傷の評価や鑑別診断ができる。
授業の内容
スキー場の救護室で、外傷患者の対応を行う。 有資格者の補助を行い、患者及び患部の愛護的な介助法を学習する。 この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で行います。
注意事項
実習中は服装・身だしなみに留意し、各施設の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守する。 時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。） 実際外傷に対応できるだけの理論・実技を再復習しておく。
成績評価
全日程への出席 レポート
実習時間外の学習について
実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力する。 その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とする。

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床実習Ⅳ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	⑦・無
		時間数	45 時間				
実務経験内容		野球チームトレーナー・明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	神内 伸晃	E-mail		実施時期	3年 時間外		

授業の目的

今まで学習してきた内容で対応できる患者様に対して医療面接を行い、自身の判断結果から施術計画を立案できるようにすることを目的とする。

到達目標

1人の患者様に対して、医療面接から指導管理まで行えるようになる。

授業の内容

スポーツ現場での実習で、指導者立会いの下、各種障害や外傷に対して医療面接から各種検査、処置、指導管理までを行う。

この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で行います。

注意事項

実習中は服装・身だしなみに留意し、各施設の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守する。

時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。）

実際外傷に対応できるだけの理論・実技を再復習しておく。

成績評価

全日程への出席


レポート

実習時間外の学習について

実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力する。


その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とする。

【柔整学科授業シラバス】

科目名	インターンシップ 実習Ⅲ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・ 
		時間数	40 時間				
実務経験内容							
担当者	神内 伸晃	E-mail			実施時期	2年 時間外	

授業の目的	
スポーツ現場で使えるテーピング技術の習得し、治療家としての資質向上を目指す。また、現場実習では選手との信頼関係の築き方を肌で感じ、スポーツ現場におけるリスクマネジメントの重要性について学修する。	
到達目標	
スポーツ現場で使えるテーピング技術とスポーツ現場におけるリスクマネジメントの重要性を修得すること。	
授業の内容	
<p>アメリカンフットボールでは、試合開始 3 時間前に集合し、試合終了までの約 5 時間、トレーナーは休む時間はありません。この経験が卒業後、選手のため、患者様のためなど、自分の存在意義、仕事へのやりがいに繋がるものと期待し、次の内容で実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実技授業ではアメフト現場で使われるテーピング技術とトレーナーの役割について学びます。 2. 現場実習では X リーグ 3 部所属クラブ「アイランズ」の試合に帯同し、選手へのストレッチ、テーピング、ベンチ設営、アイスバグの準備、ウォーミングアップ指導、担架の準備、応急処置、試合後の傷害評価、更にはオフense班、ディフェンス班に分かれてそれぞれの選手の様子を確認します。 3. 実習終了後、それぞれ気づきについてディスカッションを行います。 	
注意事項	
<p>実習中は服装・身だしなみに留意し、各施設の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守すること。 時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。） 実際外傷に対応できるだけの理論・実技を再復習しておくこと。</p>	
成績評価	
<p>全日程への出席 レポート</p>	
実習時間外の学習について	
<p>実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力すること。 その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とすること。</p>	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	インターンシップ 実習Ⅳ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・ 
		時間数	40 時間				
実務経験内容							
担当者	神内 伸晃	E-mail		実施時期	3年 時間外		

授業の目的

教員の指導・監督の下で、臨床現場においてコンディショニング・アフターケアやメンテナンスを行うことにより、柔道整復師としての仕事の可能性を再認識し、責任感の育成や動機づけの向上を目的とする。

到達目標

受付から患者対応、施術、後療、保険請求の一連の柔道整復業務について、スムーズに実施することができる。

授業の内容

実際のスポーツ現場でのアスリートのメンテナンスや本校教員による各種項目（検査・後療法）の指導を行う。

注意事項

実習中は服装・身だしなみに留意し、治療所の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守すること。

時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。）

実際外傷に対応できるだけの理論・実技を再復習しておく。

成績評価

全日程への出席

レポート

実習時間外の学習について

実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力すること。その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とすること。